

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第17・18次

伽羅之御所跡第30次

中尊寺跡第92・94次

無量光院跡第43・44・45次

2021

令和3年3月

平泉町教育委員会

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園 II 遺跡第17・18次

伽羅之御所跡第30次

中尊寺跡第92・94次

無量光院跡第43・44・45次

序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶯山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧觀自在王院庭園・おくのはそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。また、このほかに101箇所を数える遺跡や埋蔵文化財が町内に数多く残されています。これらは地域の風土や歴史が生み出した貴重な文化遺産であり、本町の歴史・文化を考える上で重要な資料であります。また、これらの歴史資料は本町のみならず県民・国民的財産であり、その保存・活用の重要性はいうまでもありません。

本報告書は令和元年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査成果を収録したものです。同事業では祇園Ⅱ遺跡、伽羅之御所跡、中尊寺跡、無量光院跡の4遺跡・8地点の調査を行っております。

特に伽羅之御所跡第30次調査では、幅30cm、厚さ10cm程度の板を5枚並べた1辺約1.5mの井戸枠が残る井戸跡が見つかり、多くのかわらけ、陶器が出土しました。

調査データは広く活用され、今後の考古学研究・文化財の愛護・理解の一助になれば幸いです。

最後に、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会に深く感謝申し上げます。

令和3年3月

平泉町教育委員会

教育長 岩 渕 実

例　　言

- 1 本書は令和元年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査の報告である。
- 2 令和元年度の発掘調査は、祇園II遺跡、伽羅之御所跡、中尊寺跡、無量光院跡の4遺跡・8地点について行った。野外調査期間は平成31年4月9日から令和元年12月9日、室内整理期間は令和2年3月31日までである。
- 3 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

(1) 令和元(平成31)年度

平泉町教育委員会

| 教　育　長 | 岩　潤　実 | 事　務　員 | 那　須　駿　也 |
|------------|---------|---------|---------|
| 平泉文化遺産センター | | | |
| 所　長　補　佐 | 千　葉　登 | 主　任 | 那　須　駿　也 |
| 高　橋　国　博 | 高　橋　国　博 | 主　任 | 菅　原　克　義 |
| 主任主査文化財調査員 | 菅　原　計　二 | 補助員(臨時) | 二階堂　里　絵 |
| 主任主査文化財調査員 | 鈴　木　江利子 | 補助員(臨時) | 佐　藤　昌　弘 |
| 主任主査文化財調査員 | 島　原　弘　征 | 補助員(臨時) | 熊　谷　明　美 |
| 文化財調査員 | 鈴　木　博　之 | 補助員(臨時) | 菊　地　道　子 |

(2) 令和2年度

平泉町教育委員会

| 教　育　長 | 岩　潤　実 | 事　務　員 | 鈴　木　理　世 |
|------------|---------|---------|---------|
| 平泉文化遺産センター | | | |
| 所　長　補　佐 | 千　葉　登 | 主　任 | 鈴　木　理　世 |
| 島　原　弘　征 | 島　原　弘　征 | 補助員(臨時) | 二階堂　里　絵 |
| 主任主査文化財調査員 | 菅　原　計　二 | 補助員(臨時) | 佐　藤　昌　弘 |
| 主任主査文化財調査員 | 鈴　木　江利子 | 補助員(臨時) | 熊　谷　明　美 |
| 文化財調査員 | 鈴　木　博　之 | 補助員(臨時) | 菊　地　道　子 |
| 主　任　任 | 佐々木　成　淳 | 補助員(臨時) | 菊　地　道　子 |

- 4 発掘調査・室内整理は菅原・鈴木江利子・鈴木博之・島原が担当し、佐藤・熊谷・菊地の協力を得た。事務は那須(令和元年度)・鈴木理世(令和2年度)が担当した。
- 5 本書の執筆は、I-1・4・5を菅原計二、I-7・8を鈴木江利子、I-2・3・6を鈴木博之・二階堂が、それ以外を島原弘征が担当した。
- 6 調査の基準点は、平文基準点(平面直角座標X系に準拠)をもとに調査員が打設した。なお、測量成果は過去の図面と合成できるよう測地2000に変換して使用した。
- 7 土層観察の土色は『新版標準土色帳』(小山正忠・竹原秀雄 2001)によった。
- 8 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会、平泉町HP等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。
- 9 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った(順不同・敬称略)
文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 10 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。
- 11 発掘調査参加者(順不同・敬称略)
阿部俊春、荒屋敷菜、石川覺寛、石川誠、及川勝、大石しげえ、小野寺富子、小野寺友子、小野寺美恵子、春日谷初男、木崎馨、小岩佳絵、小松代方代、斎藤政男、佐々木利雄、佐々木直久、佐々木政記、佐藤潔、佐藤國雄、佐藤正一、佐藤彥悦、佐藤參、佐藤正志、菅原聰、菅原静香、菅原まつ子、菅原有利、鈴木健一、高橋純一、瀧澤昌治、千條あえ子、千田美代子、千葉一郎、千葉勝也、千葉京子、千葉景姫、千葉セツ子、千葉忠枝、千葉哲夫、千葉俊春、千葉ナカ子、千葉政志、千葉正行、千葉光春、千葉みよ子、千葉義男、鳥畠忠美子、橋階義彦、藤原榮治、丸山聰子、真山宗雄、矢崎木綿子、吉田琴子、吉田美香

目 次

序

例言

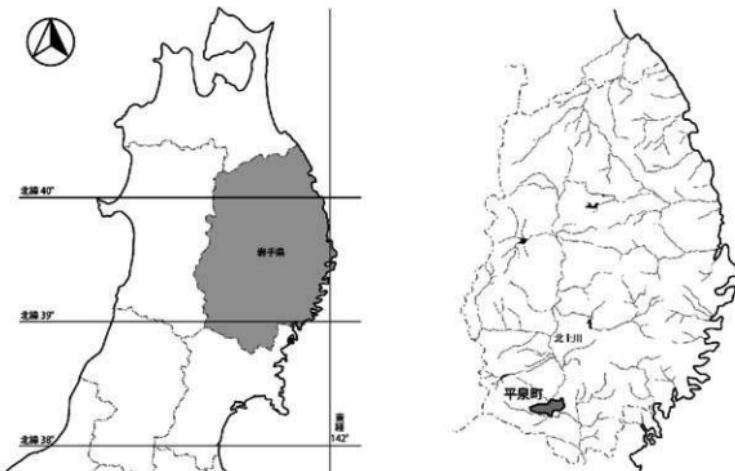
目次

抄録

I 平泉遺跡群発掘調査報告

| | |
|----------------|----|
| 1 祇園 II 遺跡第17次 | 2 |
| 2 祇園 II 遺跡第18次 | 8 |
| 3 伽羅之御所跡第30次 | 12 |
| 4 中尊寺跡第92次 | 38 |
| 5 中尊寺跡第94次 | 50 |
| 6 無量光院跡第43次 | 72 |
| 7 無量光院跡第44次 | 82 |
| 8 無量光院跡第45次 | 96 |

II 工事立会



祇園 II
17

紙園 II
18

伽羅之御所
30

中尊寺
92

中尊寺
94

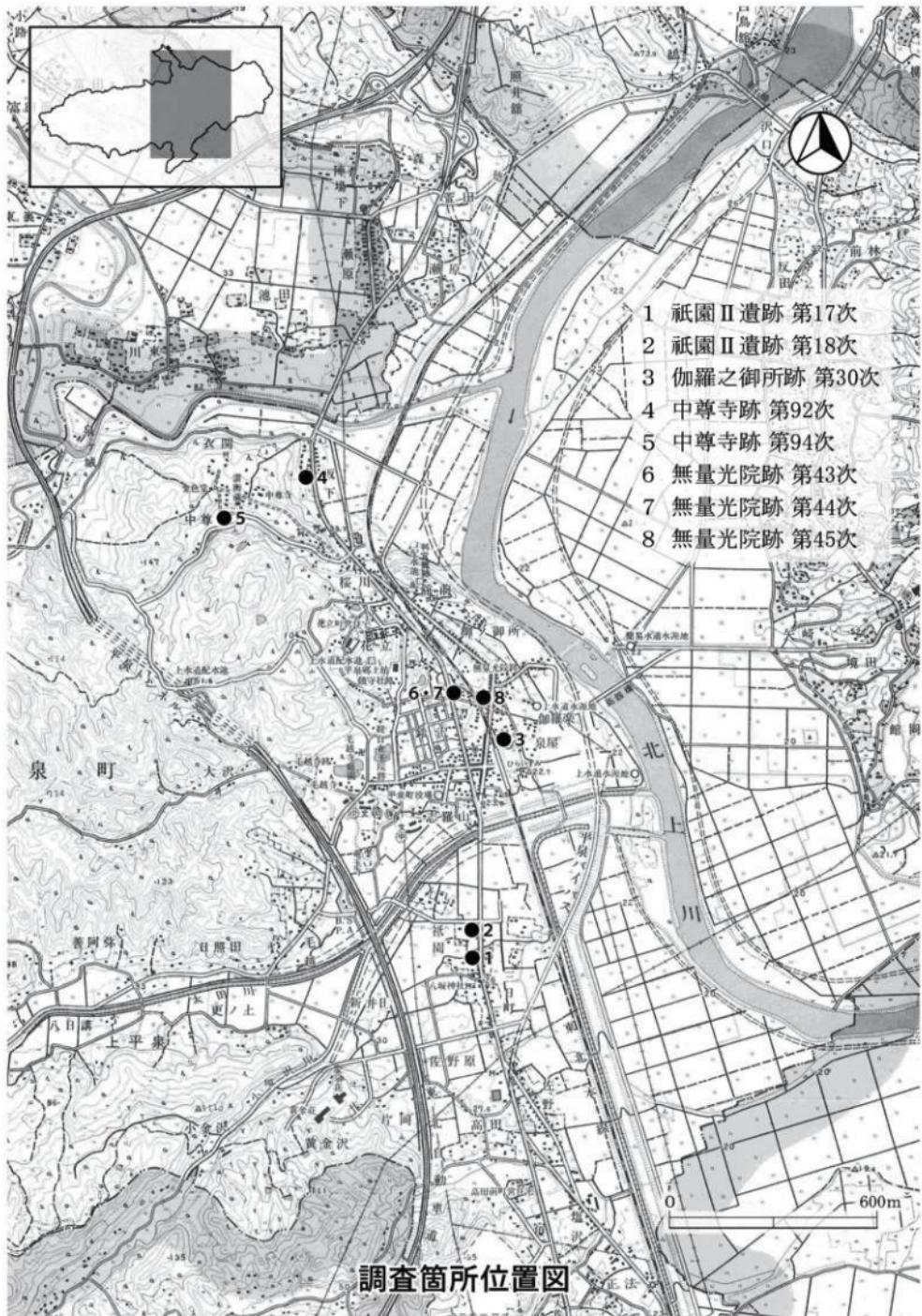
無量光院
43

無量光院
44

無量光院
45

報告書抄録

| | | | | | | | |
|---------------|--|------------|-------------------|-------------|------------------------------------|---------------|------------------------|
| ふりがな | ひらいすみいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ | | | | | | |
| 書名 | 平泉遺跡群発掘調査報告書 | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県平泉町文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第138集 | | | | | | |
| 編著者名 | 島原弘征 普原計二 鈴木江利子 鈴木博之 二階堂里絵 | | | | | | |
| 編集機関 | 平泉町教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話(0191)46-2111(代) | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2021年3月31日 | | | | | | |
| ふりがな 所取遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 北緯 遺跡番号 | 東経 *** | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 紙園Ⅱ遺跡第17次 | 紙園1 | 03402 | NE76-2087 | 38° 58' 44" | 141° 06' 55" | 20190409~0426 | 95m ² 住宅新築 |
| 紙園Ⅱ遺跡第18次 | 新井田3-3他 | | NE76-2087 | 38° 58' 48" | 141° 06' 57" | 20191108~1206 | 110m ² 住宅新築 |
| 伽羅之御所跡第30次 | 泉屋100-2 | | NE76-1029 | 38° 59' 22" | 141° 07' 03" | 20190509~0701 | 160m ² 住宅新築 |
| 中尊寺跡第92次 | 衣間220-1 | | NE75-0302 | 39° 00' 08" | 141° 06' 20" | 20190515~0731 | 100m ² 住宅新築 |
| 中尊寺跡第94次 | 衣間90 | | NE75-0302 | 39° 00' 01" | 141° 06' 00" | 20191009~1203 | 100m ² 内容確認 |
| 無量光院跡第43次 | 花立162-6 | | NE75-0302 | 38° 59' 30" | 141° 06' 53" | 20190415~0423 | 85m ² 盛土造成 |
| 無量光院跡第44次 | 花立162-12 | | NE76-1007 | 38° 59' 30" | 141° 06' 54" | 20190409~0523 | 90m ² 住宅新築 |
| 無量光院跡第45次 | 花立212-5 | | NE76-1007 | 38° 59' 30" | 141° 07' 01" | 20190702~0807 | 150m ² 住宅新築 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 紙園Ⅱ遺跡第17次 | 散布地 | 平安 | 畝(欽問跡)、柱穴 | | 銭貨 | | |
| 紙園Ⅱ遺跡第18次 | 散布地 | 平安 | | | 土師器、近世陶磁器 | | |
| 伽羅之御所跡第30次 | 居館 | 平安 | 井戸跡、土坑、溝跡、柱穴、焼土遺構 | | かわらけ、中国産磁器、国産陶磁器、土師器、須恵器、瓦、鉄製品、木製品 | | |
| 中尊寺跡第92次 | 寺社・經塚 | 平安 | 土坑、溝跡、柱穴 | | かわらけ、中国産白磁、国産陶器、土師器、須恵器 | | |
| 中尊寺跡第94次 | 寺社・經塚 | 平安 | 礎石建物、溝跡、柱穴列、遺物包含層 | | かわらけ、中国産磁器、国産陶器、瓦、繩文土器 | | |
| 無量光院跡第43次 | 寺社 | 平安・近世 | 土坑、溝跡、柱穴列、遺物包含層 | | かわらけ、中国産磁器、国産陶磁器、土師器、瓦、鉄製品 | | |
| 無量光院跡第44次 | 寺社 | 平安・近世 | 地業、沢跡、溝跡、柱穴 | | かわらけ、中国産磁器、国産陶器、鉄滓、ガラス製品 | | |
| 無量光院跡第45次 | 寺社 | 平安・近世 | 掘立柱建物跡、溝跡、柱穴 | | かわらけ、陶磁器 | | |



紙園II 遺跡第17次発掘調査

1 調査要項

地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字紙園1番
 調査面積 95m²
 調査期間 平成31年4月9日～26日
 原 因 住宅建築
 調査担当 菅原計二

2 位置と概要

調査地点はJR平泉駅の西側約1km、県道300号（旧国道4号）から西に約40m、奥州藤原氏時代の南方鎮守紙園社跡と伝わる八坂神社の北約200mに位置する。現状の地形は北上川と支流太田川右岸の沖積平坦面で、標高約30mの微高地に畑地と住宅地が広がる。近隣の発掘調査で平安時代とみられる掘立柱建物跡の柱穴を検出しておらず、倉庫跡地に住宅を新築するのに先立ち発掘調査を実施した。調査の結果、昭和10～20年代頃とみられる畑の畝間跡と少数の柱穴を検出したが、近世以前の遺構は認められなかった。以下は経過である。4月9日から資材搬入、10日重機で表土と解体建物の搅乱を除去、11日資材搬入と残土除去並びに粗掘り。この後遺構検出と精査、実測を並行して行った。23日に実測の補足と資材搬出、26日まで埋戻しを行い、現地での調査を終了した。

3 調査成果

重機で調査区の表土と搅乱を約40cm掘削し、標高約25.0mの平坦に切土された地山面まで掘り下がったところ南北方向に並ぶ溝跡と柱穴19個を検出した。溝跡は削平された畑の畝間跡とみられる。



第1図 位置図 (1/5,000)

西側の柱穴は直線状に並ぶものがあり、柱根が2か所に残る。南東側の二つの柱穴底面には根石とみられる礫やレンガが入る。調査区西側では黒色炭化物が多く入る層位や搅乱状の窪みがある。地権者によれば「昭和20年代の初めまで祖父が製材所を営んでいたが、建物が火災に遭い焼失したと聞いている」とのことと、検出した柱穴は焼失した建物跡の一部、炭化物を多く入る層位は後処理を行った際の客土や掘込みと推定した。調査区中央のL字形とコの字形の掘り込みは、解体建物の基礎が地山を掘り込んだ搅乱である。

(1) 層序(第3図)

現状の標高は調査区北西端が25.58m、北東端が25.45m、南西端が25.47m、南東端が25.37mである。土層は調査区北壁と西壁で観察した。Iは表土や新しい畑耕作土・客土・一部に建物解体の搅乱が入る。I-1は碎石ラン、IIは切土盛土、IIIは畠の畠間跡と耕作土でIII-1は耕作土上位、III-2は耕作土下位、IVは地山である。

表1 層序

| 層 | 内 容 | 色調・土質等 |
|------|----------|--|
| I | 表 土 | 10YR4/2灰黄褐色シルト～10YR5/3にぶい黄褐色シルト主体 ガラス等の雜物少量混入 |
| I-1 | 客 土・碎石ラン | I-2 搅乱 黒色炭化物を多く含む層 |
| II | 切土盛土 | 2.5Y7/4浅黄褐色地山ブロック主体で+10YR4/2灰黄褐色シルト5～10%混 |
| II-1 | 切土盛土 | 黒色炭化物を多く含む層 |
| III | 畠間跡 | 10YR4/3にぶい黄褐色シルト+地山ブロック少量混 III-1 畑耕作土上位 III-2 畑耕作土下位 |
| IV | 地 山 | 2.5Y7/3浅黄～2.5Y6/3にぶい黄褐色～シルト 西側 2.5Y6/6明黄褐色シルト |

(2) 遺構(第2図)

柱穴 19個を検出した。平面形は直径9～40cmの円形、梢円形もしくは方形で、柱痕跡は円形もしくは方形である。調査区西側で検出した柱穴1～4は1.80～1.85mの間隔で南北方向に並び、平面円形の掘方と方形の柱痕跡を持ち、柱穴2と3に柱根が残る。柱穴1と2の掘方は暗灰黄褐色シルト主体で、柱痕跡の埋土は黒褐色シルト主体である。柱穴5と6は2.20mの間隔で、畠間跡より新しく調査区北西側に展開する昭和前期の建物の一部とみられる。柱穴11の底に平坦な拳大の礫、柱穴12の底に長方形のレンガが置かれていた。これらの柱穴は昭和20年代以前の建物に係わるものと推定した。平面的な規模や展開は不明である。

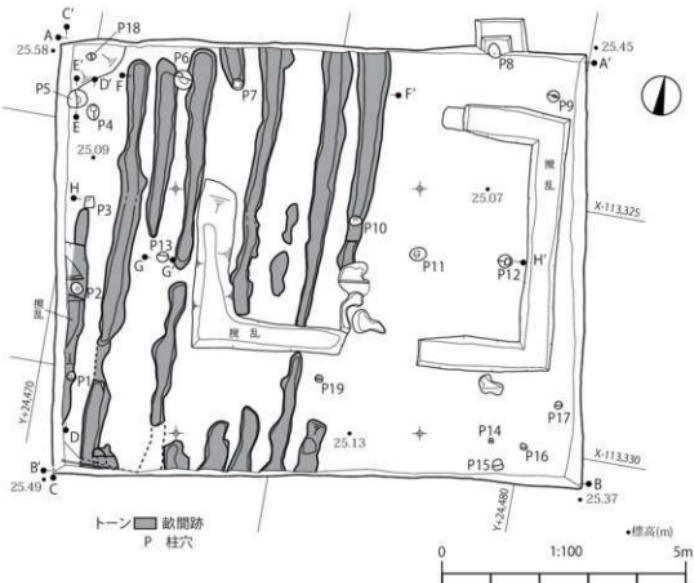
畠間跡 調査区中央から西側にかけて昭和10年代以前とみられる畠の畠間跡を検出した。南北方向に9条ほどの溝跡が直線的に伸びるが、畠の上面は削平されて浅くなり、所々途切れている。調査区北壁と南壁で地山を明瞭に掘り込む断面を確認したところ、溝跡は50～80cmの間隔で並行し、溝幅は50～70cm、深さ12cmを測る。断面形は概ね浅い皿形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト主体でわずかに明黄褐色地山ブロックや炭化物を少量含む。調査区西側では搅乱が著しく平面形は不明瞭である。畠間跡の検出時に埋土上面から昭和10年の銅一錢青銅貨幣1点が出土し、畠間跡は昭和10年以前の畠耕作土とみられる。

(3) 遺物

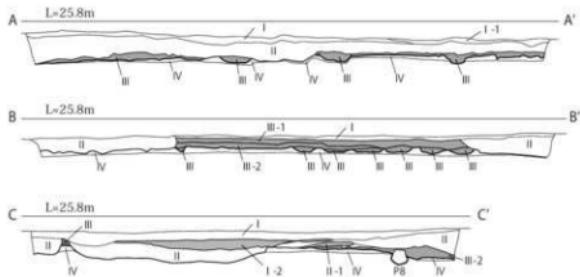
畠間跡から銭貨1点(銅一錢青銅貨幣、昭和十年)、柱穴からレンガや礫、表土や客土と搅乱から炭化物や近現代の陶磁器、鉄製品、ガラス等の雜物が少量出土した。近世以前の遺物は無い。

4まとめ

当調査区は祇園八坂神社の北約200mに位置する。調査の結果、小規模な柱穴と畠の畠間跡を検出した。昭和20年代に焼失した建物跡やこれ以前の畠跡と推定される。近世以前の遺構は確認されなかった。

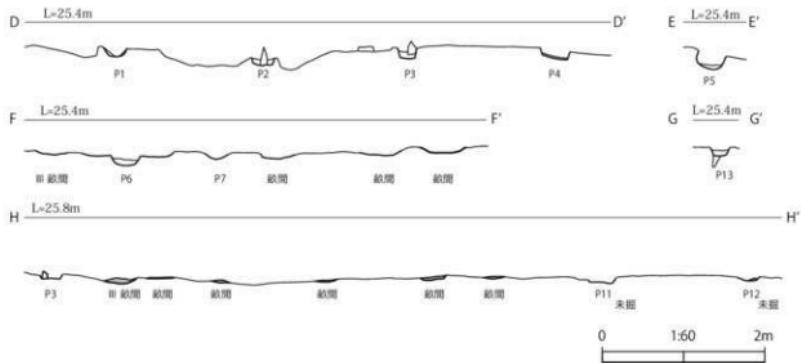


第2図 調査区全体平面図 (1/100)



| 層 | 内容 | 土色・土質 |
|-----|-----------|--|
| 1 | 表土 | 10YR4/2灰黃褐色シルト |
| 1-1 | 砂利有 | 10YR4/2灰黃褐色シルト~10YR5/3赤い黄褐色シルト主張 ガラス等雜物少量混入 |
| 1-2 | 根糸有 | |
| 2 | 根糸・根糸無 | 西壁 2.5Y5/7黄褐色シルト・黒色炭化物30%混 灰汁多く入る 北壁 2.5Y7/4灰褐色シルト+10YR7/1黒褐色シルト+5%10%混 北壁 2.5Y8/4灰褐色シルト+10YR7/1灰白色シルト出山地ロック30%混 |
| 3-1 | 根糸、黑色炭化物有 | 10YR5/4.5-5.5黄褐色シルト・黒色炭化物多く入る層 |
| 3-2 | 雜耕作土、熟園地 | 10YR5/4.5-5.5黄褐色シルト・部分的に山地ロック少量混入 |
| 4-1 | 雜耕作土、上层 | 10YR4/3.5-4.5黄褐色シルト |
| 4-2 | 雜耕作土、下层 | 10YR5/3.5-4.5黄褐色シルト |
| 5 | 地盤 | 2.5Y7/3浅灰色+2.5Y7/3灰+5%黃褐色シルト 北壁 2.5Y6/6-10YR6/6-8明黃褐色シルト 西壁 10YR4/6.5-9明黃褐色シルト+10YR4/6.5-4.5灰褐色シルト |

第3図 断面図1 (1/100)



第4図 断面図2 (1/60)

表2 柱穴

| | 掘方 | 形 | 柱根路 | 形 | 深さ (cm) | 底面 (m) | 新旧 | 埋土・備考 | 年代 |
|----|-------|----|-------|----|------------|-----------|-------|--|--------|
| 1 | 17×15 | 円 | 7×8 | 方形 | 12 | 24.99 | 1>故間 | 柱方 2.5Y5/2暗灰黃シルト+2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト20%混 柱力 2.5Y5/2暗灰黃シルト+2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト20%混 | 昭和20年代 |
| 2 | 25×22 | 梢円 | 7×8 | 方形 | 5 | 24.89 | 2>故間 | 柱根残存 柱方 2.5Y5/2暗灰黃シルト+2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト20%混 | 昭和20年代 |
| 3 | 24×25 | 方形 | 8×8 | 方形 | 3 | 25.01 | 3>故間 | 柱根残存 柱方 2.5Y5/2暗灰黃シルト+2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト20%混 | 昭和20年代 |
| 4 | 23×34 | 梢円 | 10×11 | 方形 | 9 | 24.99 | 4>故間 | 柱抜き取り埋土 7.5YR3/1黒褐色シルト 黑色炭化物10%混 柱方 2.5Y6/6明黄褐シルト+10YR3/6黄褐シルト30%混 | 昭和20年代 |
| 5 | 40×36 | 梢円 | 15 | 円 | 23 | 24.82 | 5>故間 | 埋土 10YR6/6明黄褐シルト+2.5Y6/4にぶい底地山ブロックシルト30%混 下位 10YR3/3暗褐シルト | 昭和か |
| 6 | 35×35 | 円 | 15 | 円 | 45 | 24.82 | 6>故間 | 柱根路 2.5Y3/3暗オリーブ褐シルト やや粘性有 柱方 10YR3/3暗褐シルト | 昭和か |
| 7 | 23×20 | 梢円 | - | - | 7 | 24.92 | 7>故間 | 埋土 不明 脱水を認む凹み | 不明 |
| 8 | 22×29 | 梢円 | - | - | 31 | 24.94 | - | 埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト+2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト10%混 | 不明 |
| 9 | 23×24 | 円 | - | - | 25 | 24.74 | - | 埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト+2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト10%混 | 不明 |
| 10 | 29×24 | 梢円 | 7×7 | 方形 | 8 | 24.98 | 10>故間 | 柱根路 2.5Y5/1黄灰シルト主体 柱方 10YR5/4にぶい黄褐シルト+2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト30%混 | 不明 |
| 11 | 32×25 | 梢円 | 12 | 不明 | 7 | 24.99 | - | 柱根路 10YR6/6明黄褐シルト主体 柱方 10YR6/6明黄褐シルト+地山ブロックシルト30%混 平坦な構造 | 昭和 |
| 12 | 26×25 | 円 | 15 | 不明 | 11 | 24.95 | - | 柱方 10YR5/4にぶい黄褐シルト+地山ブロックシルト20%混 中央に9cm大的のレンガ入る | 昭和 |
| 13 | 24×20 | 梢円 | - | - | 8 | 24.93 | - | 埋土 10YR6/3にぶい黄褐シルト+10YR6/8明黄褐シルト10%混 | 不明 |
| 14 | 9×9 | 方形 | - | - | 1 | 25.08 | - | 埋土 10YR6/3にぶい黄褐シルト主体 | 不明 |
| 15 | 21×22 | 円 | - | - | 13 | 24.94 | - | 埋土 10YR6/3にぶい黄褐シルト+10YR6/8明黄褐地山ブロックシルト20%混 | 不明 |
| 16 | 14×14 | 円 | - | - | 21 | 24.87 | - | 埋土 10YR6/3にぶい黄褐シルト主体 | 不明 |
| 17 | 14×14 | 円 | - | - | 15 | 24.87 | - | 埋土 10YR6/3にぶい黄褐シルト主体 | 不明 |
| 18 | 20×14 | 梢円 | - | - | 4 | 24.87 | - | 埋土 10YR6/3にぶい黄褐シルト主体 | 不明 |
| 19 | 14×16 | 梢円 | - | - | 3 | 23.08 | - | 埋土 10YR6/3にぶい黄褐シルト主体 | 不明 |



1 調査区全体（南東から）



2 調査区全体（西から）

写真図版1



1 西側の歓間跡と壁断面（南から）



2 柱穴内の根石とレンガ（南から）



3 柱穴11と根石とみられる礫（南から）



4 柱穴12とレンガ（南から）



5 調査区西側の歓間跡と柱穴（北から）



出土銭貨（桐一錢青銅貨幣・昭和十年）

写真図版2

紙園II遺跡第18次発掘調査

1 調査要項

地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字樋渡115-4他
 調査面積 92m²
 調査期間 令和元年11月8日～令和元年12月6日
 原 因 住宅建築
 調査担当 鈴木博之 二階堂里絵

2 遺跡の位置と概要（第1図）

本調査地点はJR平泉駅の南約800mに位置し、北上川の西岸及び太田川の南岸にあたる平坦な場所である。調査前の現状は畑地で、標高は概ね23mである。

今回の調査区は紙園II遺跡の北端部付近にあたり、西は樋渡遺跡、東は三日町Ⅲ遺跡と隣接する。本調査区の北に隣接する紙園II遺跡第1次（平成9年度）調査区（第1図-1）では、縄文時代の落し穴、12世紀～近世の柱穴、近世の溝を検出している。そのさらに北に位置する同遺跡第10次（平成22年度）（第1図-2）調査区では、近世～現代の遺構を検出した他、平安時代の土師器、縄文土器等が出土している。本調査区の北東約100mに位置する三日町Ⅲ遺跡第6次（平成29年度）調査区（第1図-3）では時期不明の柱穴8個を検出し、かわらけや近世陶器等の遺物が出土している。

3 基本土層

- I. 10YR2/2黒褐シルト 粘性中 しまりなし 畑耕作土
- II. 10YR3/4暗褐シルト 粘性中 しまり中 地山ブロック（φ1～10cm）混じる 現代盛土
- III. 5Y3/1オリーブ黒粘土 しまり中 水田
- IV. 10YR6/4にぶい黄橙粘土 しまり密 地山



第1図 遺跡位置図

4 調査概要

重機によりⅡ層まで掘削したところ遺構とみられるプランを検出したため、Ⅱ層上面にて精査を行った。結果、Ⅱ層は現代盛土層で、検出したプランは現代遺構(搅乱)であると判断した。以下Ⅳ層(地山)まで人力によりトレーニング状に掘削した(第1図、写真図版1)。調査区の壁断面(第2図、写真図版1-3)を観察した結果、調査区全体は以前水田として使われており、Ⅳ層の上で水田耕作層や畦畔の痕跡を確認した。その後盛土されている。Ⅲ層からはガラス等の現代遺物が出土しており、土地所有者の話から水田として使われていた時期は昭和40年代までとみられる。

柱状改良が入る箇所について地山まで掘削を行ったが近世以前の遺構は検出しておりらず、調査区全体の遺構は希薄であるとみられる。本調査区は元々低地状の地形で、最下層の水田耕作時に地山が削平を受けている可能性もある。なお、調査区北西部で地山に突き刺さった状態の杭を検出している(写真図版1-2)。遺物は、Ⅱ・Ⅲ層からかわらけ細片5点が出土した。Ⅱ層から内黒土師器1点(No.1)と近世陶磁器5点(No.2~6)が出土し、表にした。いずれも小片のため形の分かるもの3点(No.1・3・6)のみを写真掲載した。その他、陶磁器、ガラス等の現代遺物が多数出土した。

5まとめ

本調査においては近世以前の遺構は検出していない。また、地山直上で現代の水田層を確認したことから、元来低地であった場所を水田として利用しており、現在までに盛土による地形変化が行われている様子が窺える。さらに、周辺域における過去の調査も踏まると本調査区付近においては12世紀代の遺構は希薄であると考えられるが、八坂神社が所在する南側においては12世紀の四面庇建物が検出されるなど、平泉全体を検討する上で重要なエリアである。

土師器



1

近世陶磁器



3



6

※実寸の約1/2

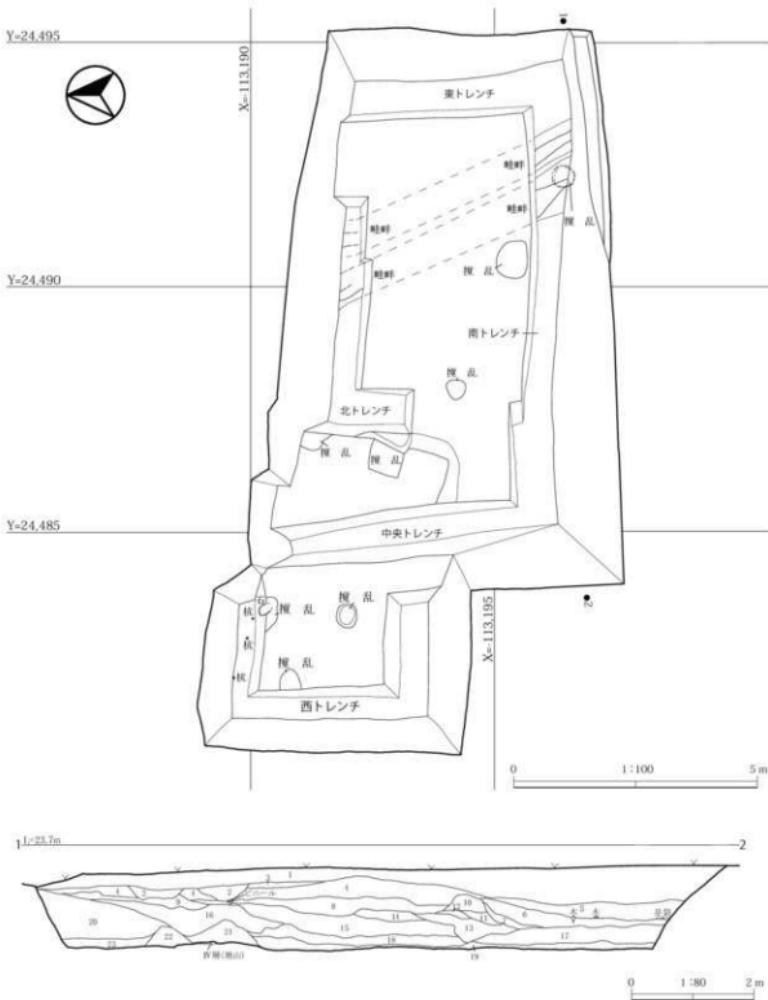
写真図版 出土遺物

表1 土師器観察表

| No. | 写真図版 | 出土位置・層位 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No. |
|-----|------|----------|----|-----|----|----|-------|
| 1 | ○ | 調査区南端 Ⅲ層 | 环 | 口縁部 | 平安 | 内黒 | 2-1 |

表2 近世陶磁器観察表

| No. | 写真図版 | 出土位置・層位 | 種類 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No. |
|-----|------|-----------|----|----|-----|----|-------|-------|
| 2 | — | 調査区南端 Ⅱ層 | 磁器 | 皿 | 体部 | 近世 | 肥前 桧付 | 1-1 |
| 3 | ○ | 調査区南端 Ⅲ層 | 陶器 | 皿 | 口縁部 | 近世 | 志野か | 2-2 |
| 4 | — | Ⅱ層上面 | 磁器 | 皿 | 体部 | 近世 | 肥前 桧付 | 4-1 |
| 5 | — | 中央トレンチ | 磁器 | 皿 | 口縁部 | 近世 | 肥前か | 11-1 |
| 6 | ○ | 中央トレンチ Ⅱ層 | 磁器 | 皿 | 体部 | 近世 | 肥前 桧付 | 23-1 |



調査区座標(1-2)

- 1 10YR2/2灰褐色シルト 粘性土 しまりなし ゴム 残カス 砂混入(1層)
- 2 10YR2/2黒褐色シルト 粘性土 しまりなし ピート混入(現代堆積)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト 粘性土 しまりなし(Ⅱ層)
- 4 10YR3/3に近い 黄褐色粘土 しまり中 地山ブロック混入(Ⅲ層)
- 5 5GY4/1暗オーブ灰粘土 上まわり 黄褐色色鉛錠シルト混入(Ⅳ層)
- 6 10YR3/1黒褐色土 黑褐色粘土ブロック混入 しまり中
上面に細礫、瓦砾、木くず等のゴミ混入(Ⅴ層)
- 7 7.5Y1/1灰粘土 しまり中 地山ブロック(φ1cm)5%(Ⅵ層)
- 8 10YR3/4暗褐色粘土 しまり中 地山ブロック(φ1-5cm)10%(Ⅶ層)
- 9 10YR3/4暗褐色粘土 しまり中 地山ブロック(φ1-5cm)5%(Ⅷ層)
- 10 10YR3/2黒褐色粘土 しまり中 地山ブロック(φ5-10cm)10% 咬時か(Ⅸ層)
- 11 7.5Y3/1オーブ黒粘土 しまり中 地山ブロック(φ10cm)50%(Ⅹ層)
- 12 10YR4/3に近い 黄褐色粘土 しまり中 地山ブロック(φ3cm)3%(Ⅺ層)
- 13 10Y3/1オーブ黒粘土 しまり中 地山ブロック(φ10cm)5%(Ⅻ層)
- 14 2.5Y7/4浅黄褐色 粘性土 しまり中 黄褐色粘土ブロック混入(Ⅼ層)
- 15 7.5GY5/1暗灰粘土 しまり中 黄褐色粘土ブロック30%(Ⅽ層)
- 16 10YR3/4暗灰粘土 しまり中 地山ブロック(φ2-10cm)40%(Ⅾ層)
- 17 5Y3/1オーブ黒粘土 しまり中(Ⅿ層)
- 18 5Y3/1オーブ黒粘土 しまり中 地山粘少層(ⅰ層)
- 19 5Y3/1オーブ黒粘土 しまり後 地山ブロック(φ5cm)10%(ⅱ層)
- 20 10YR3/4暗灰粘土 しまり中 地山(φ6mm-1cm)1%(ⅲ層)
- 21 2.5Y4/1暗灰粘土 しまり中 酸化鉄多く 咬時(ⅳ層)
- 22 2.5Y4/1暗灰粘土 しまり中 地山粘少層 酸化鉄多い 咬時(ⅴ層)
- 23 2.5Y3/1黒褐色粘土 しまり中(ⅵ層)

第2図 全体図・断面図



1 調査前状況（南東から）



2 調査区北西隅杭出土状況（南西から）



3 調査区南壁（西から）



4 調査区西半（北から）



5 調査区東半（西から）

写真図版1

伽羅之御所跡第30次発掘調査

1 調査要項

- 地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字泉屋100-2
 調査面積 161 m²
 調査期間 令和元年5月9日～7月1日
 原 因 住宅新築
 調査担当 鈴木博之 二階堂里絵

2 遺跡の位置（第1図）

概 要

伽羅之御所跡は、三代秀衡の日常の住まいであった「加羅御所」（「吾妻鏡」）があったと推定されている遺跡である。「加羅御所」の明確な範囲は明らかでないが、地形や地名、伝承などから周知の埋蔵文化財包蔵地である「伽羅之御所跡」として範囲を定めている。過去の発掘調査では総柱の掘立柱建物や、和鏡と鏡箱がセットで出土した井戸跡等を検出している。

本調査地点はJR 平泉駅の北約200mに位置し、「伽羅之御所跡」の南端部にあたる。また南には鈴沢川が流れ、鈴沢の池跡と言われる低地との境界近くにあたる。調査前の現況は宅地で、標高は概ね23mである。西に隣接する14次（平成11年度調査）では、近世～近代の集石とみられる遺構を検出している。また、南の隣接地で昭和20年代に土取りした際に12世紀の軒平瓦が出土している。

3 基本土層

- I. 10YR6/4にぶい黄橙粘土主体 暗褐シルト少量混入 しまりなし 現代盛土層
- II. 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性中 しまり中
- III. 10YR3/3暗褐シルト 地山ブロック（φ5cm）5% しまり密 小礫含む 自然堆積層か
- IV. 10YR4/3にぶい黄褐シルト 地山ブロック（φ5cm）10% しまり密 12世紀の遺物多量に入る
- V. 10YR3/2黒褐シルト 地山粒少量混入 しまり密 自然堆積層
- VI. 10YR6/4にぶい黄橙粘土 しまり密 地山



第1図 位置図（1/5,000）

4 調査概要

重機により概ねⅢ層まで掘削し、人力により遺構検出及び精査を行った。調査区は西から東に傾斜しており、低位の東端部付近には12世紀後半の遺物を多数包含するIV層が広がっていたため、グリッドを組んで遺物を取り上げた(第2図、写真図版1)。その下のV層は、窪み部分に部分的に堆積しており、自然堆積層とみられる。IV層は整地層の残欠、V層は整地前の旧表土層の可能性がある。

検出遺構：溝跡5条、井戸跡1基、土坑2基、焼土遺構1基、掘立柱建物跡2棟、柱穴24個、を検出した。井戸跡以外の遺構について、個々の属性は表1のとおりである。

1号溝(第3・4図、写真図版1・2)：調査区北端に位置し、さらに調査区外に延びる。検出面はⅡ層上面である。埋土は地山ブロックが混入する灰黄褐粘土を主体とする。底面標高は西側が高く比高差は約40cmである。底面から若干浮く形で長径20cm程の石が10cm前後の間隔で並ぶ。遺物は、かわらけ(Na4)、中国産磁器(Na1)、壁土(Na1・2)、砥石(石製品No1)、近世陶器(Na4・6・7・10)、近世以降の瓦(Na2)、近現代陶器、ガラスが出土した。昭和以降と考えられる。

2号溝(第3・4図、写真図版1・2)：調査区北端に位置し、検出面はVI層(地山)上面である。埋土は地山ブロックが混入する褐灰粘土を主体とする。遺物は、かわらけ小片、近世陶器(Na13)が出土した。近世以降と考えられる。

3号溝(第3・4図、写真図版1・2)：調査区東部に位置し、さらに調査区外に延びる。検出面はIV層の下である。埋土は地山ブロックが混入する灰黄褐粘土を主体とする。底面標高は南側が高く比高差は約30cmである。遺物は、かわらけ(Na19・26)、国産陶器(Na1)、壁土(Na3・4)が出土した。P29出土のもの(Na5)と接合したかわらけがある。12世紀後半と考えられる。

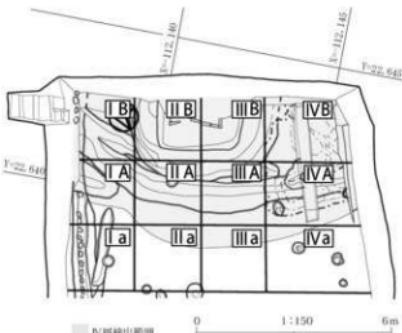
4号溝(第3・4図、写真図版1・2)：調査区東部に位置し、さらに調査区外に延びる。IV層上面では明確に検出出来ず、これとの新旧は不明である。埋土は地山ブロックが混入する灰黄褐粘土を主体とする。遺物は、かわらけ小片が出土した。12世紀後半と考えられる。

6号溝(第3・4図、写真図版1・2)：調査区東部に位置し、さらに調査区外に延びる。検出面はIV層の下である。埋土は地山ブロックが多く混入する灰黄褐粘土を主体とする。底面標高は南側が高く比高差は約20cmである。遺物は、かわらけ小片、国産陶器(Na2)、土師器(Na1)、縄文土器(Na2)が出土した。12世紀後半と考えられる。

表1 溝跡観察表

| | 検出全長(m) | 幅(m) | 断面形 | 深さ(cm) | 方位 | 底面標高(m) | 備考 |
|-----|---------|------|-----|--------|----|-----------|-----------------------------------|
| 1号溝 | 14.4 | 0.7 | 逆台形 | 20~30 | 東西 | 23.0~22.5 | 2・4・6号溝より新 |
| 2号溝 | 4.0 | 0.4 | 直形 | 10 | 東西 | 22.7 | 1号溝より古 |
| 3号溝 | 8.3 | 0.9 | 楕円形 | 30 | 南北 | 22.2~22.5 | 1・6号溝・1号井戸・P18・26・29より古、2・3号土坑より新 |
| 4号溝 | 1.3 | 0.8 | 楕円形 | 40 | 南北 | 22.3 | 1号溝より古 |
| 6号溝 | 6.3 | 0.7 | 楕円形 | 20 | 南北 | 22.2~22.4 | 1号溝・1号井戸より古、3号溝・3号土坑より新 |

*5号溝は欠番



第2図 グリッド設定図

1号井戸(第3・4図、写真図版1・3)：調査区南端中央で検出し、東半分は調査区外にある。検出面はIV層上面である。6号溝、3号土坑と重複し、本遺構が新しい。開口部径は4.6mで、平面形は隅丸方形を呈するとみられる。底面は確認していないが、検出面からの深さは2.6mまで掘削した。断面形はロート形を呈する。下位の壁面は透水する砂礫層(地山)となり、底に近づくにつれ常に水が湧いた。検出面から1.5m程の深さで遺構の西壁から内側50cmの位置に木枠の縦板になるとみられる6枚の板列が出土した(板5は欠番)。板1は南側、板2～4・6は西側、板7は北側の列になるとみられ、一辺1.6mである。板4と6の間には1枚分の間隔があり、この部分の板材は確認出来なかった。板2(木製品No.2)・4(同No.3)を引き抜いて観察したところ、厚さ約7cm、幅31cmで、長さは2.7m以上あることから、井戸の底面は検出面から4.1m以上はあるとみられる。いずれも全面に手斧痕が顕著で、下端部に直径3cm程のほぞ穴を確認した(第10図・写真図版8)。隅柱、横棟は出土しなかった。断面は木枠の裏込め土とみられる堆積層(断面49-50・53-54の21～23・31層)と、木枠の内側に堆積した層(同14～20層)に分かれ、前者は地山ブロックが混入する黒褐粘土を主体とし、後者は上層(断面53-54の14・15層)が灰黄褐～黒褐粘土、中層(同16～18層)が大小の礫を多数含み地山ブロックが混入する灰黄褐～黒褐粘土、下層(同16～18層)が地山ブロックが混入し砂質を含むグライ化したオリーブ黒粘土を主体とする。遺物は、かわらけ(No.1～3、9～14、17・18、20、23～25)、国産陶器(No.3～49)、中国産磁器(No.2～6)、土師器(No.2～14)、須恵器(No.2～5)、繩文土器(No.1)、壁土(No.5～17)、角釘(鉄製品No.3・11)、下駄の歯(木製品No.1)、加工木(木製品No.4)、曲げ物の底板(木製品No.5)、桃の種(植物遺体No.1～7)、砥石(石製品No.2)、碁石(石製品No.3)、骨片、軽石が出土した。特に中層からの出土が多い。12世紀後半と考えられる。

2号土坑(第2・3図、写真図版1・2)：調査区北東部に位置し、検出面はIV層の下である。検出時に本遺構の明確な範囲を捉えることが出来ず、サブトレチの断面で埋土を確認した。埋土は、地山ブロックが混入する黒褐粘土を主体とする。12世紀後半と考えられる。

3号土坑(第2・3図、写真図版1・2)：調査区北東隅に位置し、さらに調査区外に広がる。検出面はVI層(地山)上面で、その直上にV層、さらにその上にIV層がある。埋土は、地山ブロックが多く混入する黒褐粘土を主体とする。遺物は、摩滅したかわらけ小片が少量出土したのみである。出土遺物と形状から、12世紀の土取り穴の可能性がある。

1号焼土(第2・3図、写真図版1・2)：調査区南壁中央部に位置し、さらに調査区外に広がる。検出面はII層上面である。北端の底面直上に鉄板の上に煉瓦が置かれた状態で出土した。埋土は砂質分や炭が多く混入する黒褐シルトを主体とし、上面の一部が被熱して固くなっている。かわらけ小片、壁土(No.18～20)、「大正十一年」の文字のある一銭青銅貨(銭貨No.1)、鉄滓(No.1)が出土した。近代以降と考えられる。

1号掘立柱建物(第2・4図、写真図版1・2)：調査区南西部に位置し、検出面はVI層(地山)上面である。柱穴の埋土は地山ブロックが混じるにぶい黄褐～黒褐粘土が主体である。P12・22・23で柱痕跡を

表2 土坑・焼土遺構観察表

<→残存値

| | 径(m) | 平面形 | 断面形 | 深さ(cm) | 底面標高(m) | 備考 |
|------|---------------|------|-----|--------|---------|---------------------------|
| 2号土坑 | 0.9 × <0.5> | 楕円形か | 楕形か | 32 | 22.3 | 3号溝・P26より古、3号土坑より新 |
| 3号土坑 | <3.4> × <2.5> | 不明 | 不整形 | 40 | 22.1 | 3・6号溝・1号井戸・2号土坑・P18・26より古 |
| 1号焼土 | 0.7 × <1.6> | 楕円形か | 楕形か | 15 | 23.0 | P25(1号掘立柱建物)より新 |

※1号土坑は欠番

確認した。遺物は、P 12から出土した流れ込みとみられる摩滅したかわらけ小片のみで、12世紀以前とみられる。

2号掘立柱建物(第2・4図、写真図版1・2): 調査区南西部に位置し、検出面はⅥ層(地山)上面である。4個の柱穴で完結する小規模な建物とみられる。柱穴の埋土は地山ブロックが混じる灰黄褐～暗褐色粘土が主体である。P 24で柱痕跡を確認した。遺物は出土していない。詳細な時期は不明である。

柱穴(第2・4図、写真図版1・3): 24個を検出した。P 18はⅢ層の上面で検出した。P 26は3号溝および3号土坑と、P 29は3号溝と、P 30は3号土坑と重複し、いずれも柱穴が新しいが、Ⅳ層上面では検出出来ず、これとの新旧は不明である。他の柱穴は調査区西側にあり、検出面はⅥ層(地山)上面であるが、現代擾乱により上部を削平されている様相である。平面形は円形もしくは楕円形を呈し、概ね径30～40cm前後、底面標高は22.3～23.0m前後のものが多い。埋土は地山ブロックが混入し、灰黄褐色粘土を主体とするものが多い。P 18がⅢ層より新しく、その他の柱穴についても、流れ込みとみられる摩滅したかわらけ小片が出土しているのみであり、12世紀以降のものが主体とみられる。

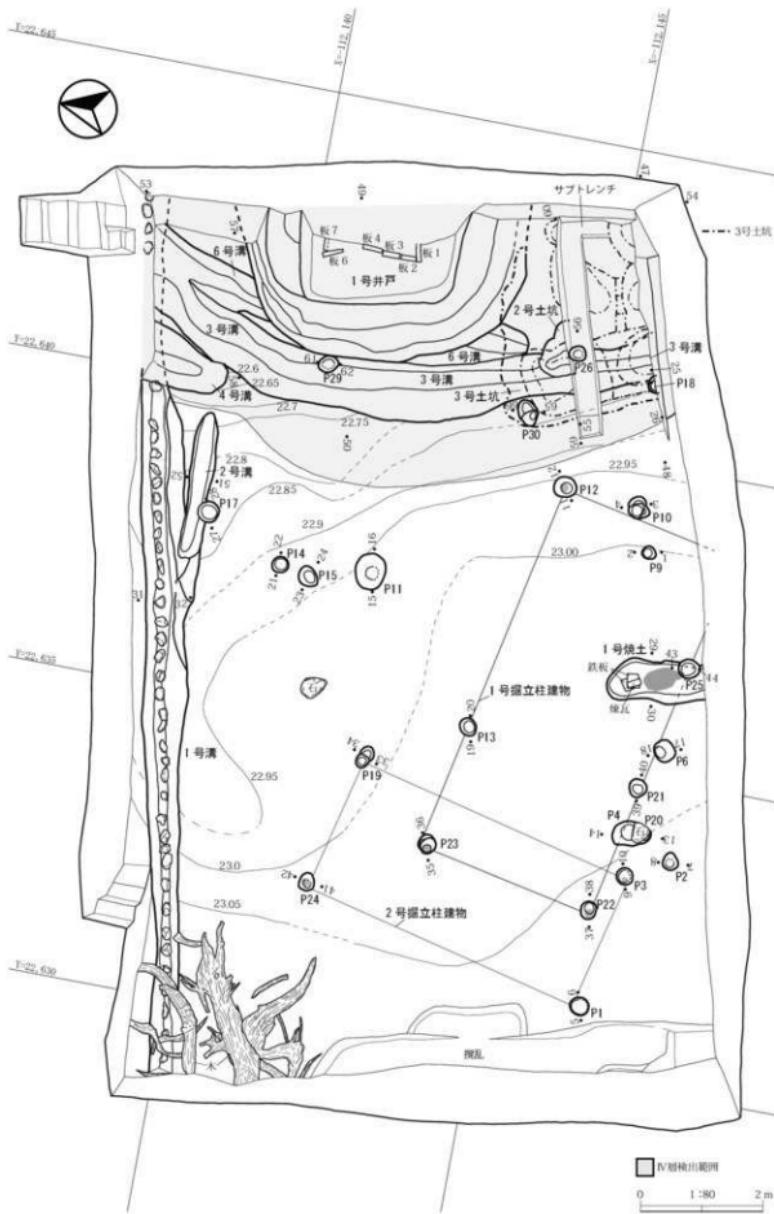
表3 挖立柱建物跡観察表

| | 断面 | | 横間 | | 方位 | 柱穴(P) | 備考 |
|---------|----|-------|----|-------|---------|-----------------|--------|
| | 規格 | 柱間(m) | 規格 | 柱間(m) | | | |
| 1号掘立柱建物 | 3間 | 2.1 | 1間 | 2.9 | E-11'~S | P12・13・21~23・25 | 1号溝より古 |
| 2号掘立柱建物 | 1間 | 2.2 | 1間 | 4.8 | E-12'~S | P1・3・19・24 | |

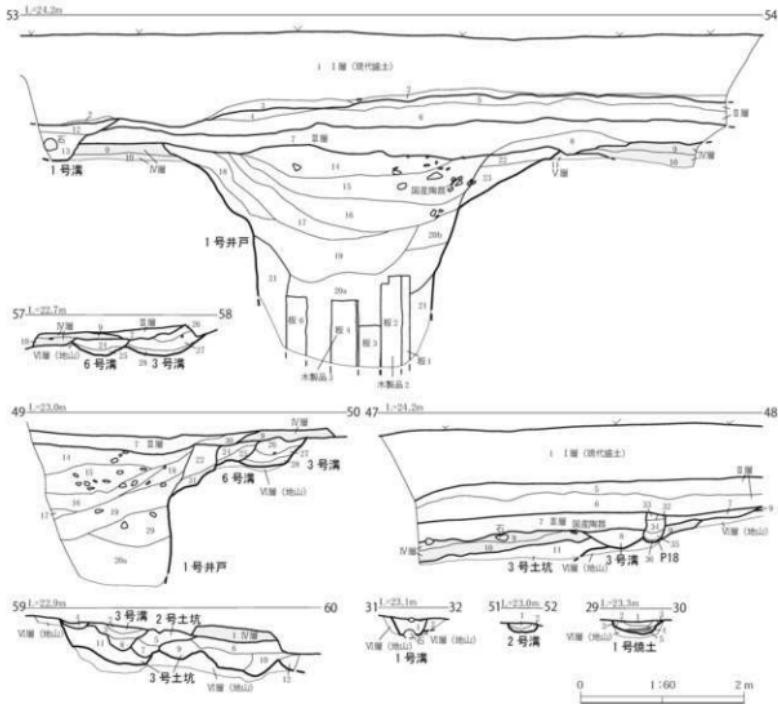
表4 柱穴観察表

| | 根方 (cm) | 平面形 | 深さ (cm) | 底面標高 (m) | 遺物 | 建物 | 備考 | | 根方 (cm) | 平面形 | 深さ (cm) | 底面標高 (m) | 遺物 | 建物 | 備考 |
|-----|------------|-----|------------|-------------|------|-----|----|-----|------------|-----|------------|-------------|------|-----|---------------|
| P1 | 32 | 円 | 7 | 23.00 | | SB2 | | P17 | 35 | 円 | 13 | 22.80 | | | |
| P2 | 30 | 円 | 11 | 22.99 | かわらけ | | | P18 | 28 | 円 | 39 | 22.61 | | | 3号溝、3号土坑より新 |
| P3 | 26 | 円 | 36 | 22.77 | | SB2 | | P19 | 38×24 | 楕円 | 18 | 22.87 | | SB2 | |
| P4 | 41 | 不明 | 26 | 22.98 | かわらけ | | | P20 | 50×32 | 楕円 | 17 | 22.98 | | | |
| P6 | 35 | 円 | 41 | 22.75 | かわらけ | | | P21 | 26 | 円 | 37 | 22.66 | | SB1 | |
| P9 | 25 | 円 | 22 | 22.88 | かわらけ | | | P22 | 30×26 | 楕円 | 27 | 22.77 | | SB1 | |
| P10 | 36×30 | 楕円 | 40 | 22.68 | かわらけ | | | P23 | 32×30 | 円 | 9 | 22.87 | | SB1 | |
| P11 | 59×50 | 楕円 | 11 | 23.05 | | | | P24 | 30×25 | 楕円 | 15 | 22.82 | | SB2 | |
| P12 | 37×33 | 楕円 | 32 | 22.70 | かわらけ | SB1 | | P25 | 35 | 円 | 14 | 22.77 | | SB1 | 1号機上より古 |
| P13 | 28×32 | 楕円 | 31 | 22.87 | | SB1 | | P26 | 28×25 | 楕円 | 12 | 22.46 | かわらけ | | 3号溝、2・3号土坑より新 |
| P14 | 28 | 円 | 24 | 22.86 | | | | P29 | 35×30 | 楕円 | 12 | 22.30 | かわらけ | | 3号溝より新 |
| P15 | 40×32 | 楕円 | 12 | 23.00 | | | | P30 | 45×30 | 楕円 | 23 | 22.42 | | | |

*1 P5・7・8・16・27・28は欠番 *2 SB…掘立柱建物



第3図 全体図

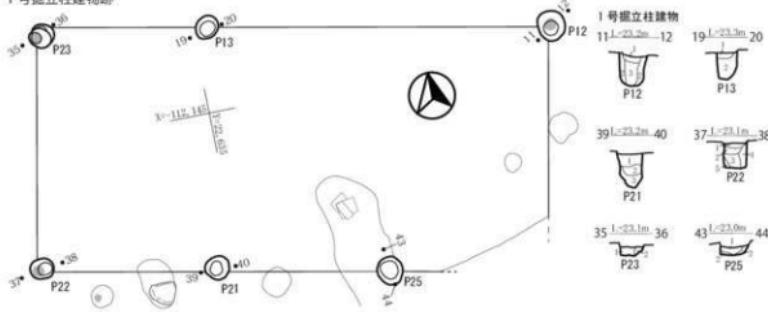


東壁、南壁、1・3・6号溝、1号井戸(53-54・57-58・49-50・47-48共通)
1-3号井戸(41-42)、4号井戸(43-44)、5号井戸(45-46)、6号井戸(47-48)、7号井戸(49-50)

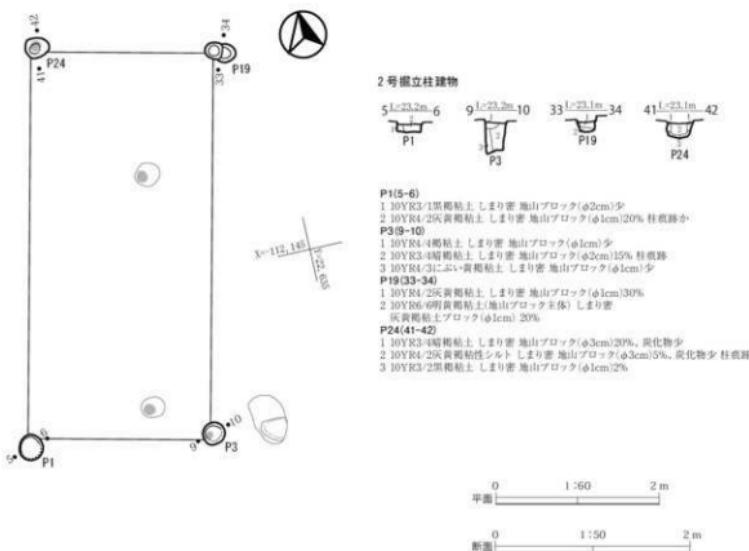
- 27) 10YRA³-3[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 塗化物(分量)3%
 28) 10YRA³-3[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 塗化物(分量)3%
 29) 1.3[黒鶴] 黒鶴土上 しまり中 地山プロック(φ5cm)15%、
 炭化物少#号³⁰ 10YR3-4暗鶴土上 しまり 塗山プロック(φ5cm)10%、炭化物
 (分量)5%
 31) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(5cm)15%
 32) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ5cm)10%、炭化物(P18)
 33) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)20%、炭化物(P18)
 34) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)少、炭化物多(P18)
 35) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)少、炭化物少(P18)
 36) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)少、炭化物少(P18)
3-6号・3-7号(土壤)[99-60]
 1) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ10cm)10%、炭化物、塗化物(分量)(N)
 10YR3-3[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ5cm)10%、(3号土)
 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(3号)
 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ1cm)20%/(5号層)
 10YR3-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ2cm)少/2号土上
 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ2cm)少/3号土上
 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ2cm)少/4号土上
 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ2cm)少/5号土上
 10YR4³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)30%、塗化物(2号土上)
 10YR4³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)30%、塗化物(3号土上)
 10YR6⁴-4[黒鶴] 黒鶴土上 地山プロック(木土上) しまり重 黑鶴土上まで10%/(3号土上)
 10YR7³-3[黒鶴] 黒鶴土上 地山プロック(土上) しまり重 黑鶴土上まで15%/(3号土上)
 10YR7³-3[黒鶴] 黒鶴土上 地山プロック(木土) しまり重 黑鶴土上まで10%(3号土上)
 12.5YTA⁴-2[黒鶴] 黒鶴土上 地山プロック(木土) しまり重(3号土上) 黑鶴土上20%
3-8号(3-12号)
 1) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 塗化物
 2) 2.5YTA⁴-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ2cm)2%
3号(51-52)
 1) 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重
 10YRA³-2[黒鶴] 黒鶴土上 しまり重 地山プロック(φ1cm)30%
4号(鷹土)[29-30]
 1) 10YRA³-3[鷹土] 鷹土上 しまり重
 10YR3-4[鷹土] 鷹土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)少
 10YR3-4[鷹土] 鷹土上 しまり重 地山プロック(φ3cm)少
 7.5YRA³-2[鷹土] 鷹土上 しまり重 リーフ鷹土上に混入
 7.5YRA³-3[鷹土] 鷹土上 しまり重 地山地鷹土

第4図 東壁、南壁、1~3・6号溝、1号井戸、2・3号土坑、1号焼土断面図

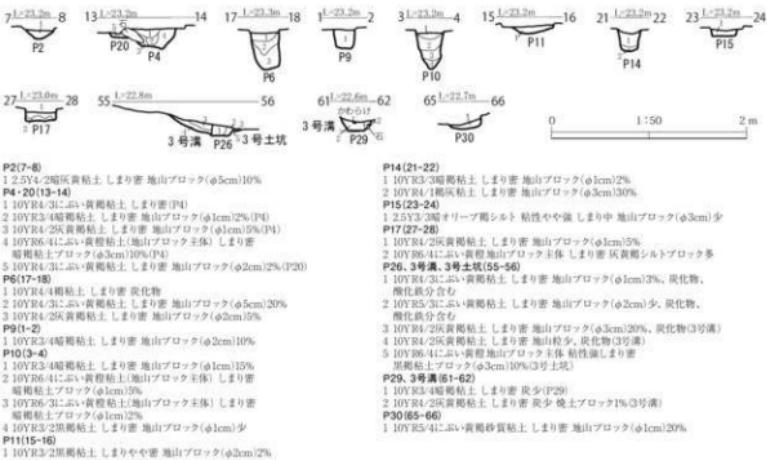
1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡



第5図 掘立柱建物跡



第6図 柱穴断面図

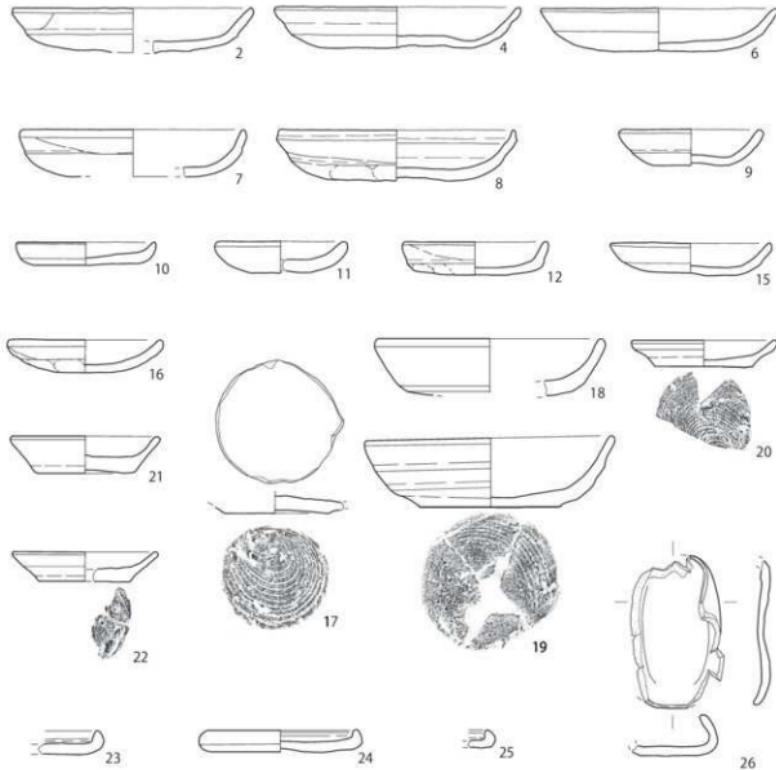
出土遺物：かわらけはコンテナ (534 × 348 × 120mm) に7箱出土し、国産陶器83点、中国産磁器9点、土師器51点、須恵器9点、繩文土器2点、近世近代陶器14点、瓦2点、壁土(総重量175g)、角釘8点、用途不明鉄製品3点、錢貨1点、鐵滓(総重量121g)、下駄の歯1点、曲げ物の底1点、加工木1点、桃の種14点、砥石2点。碁石1点、石鎌1点、煉瓦1点が出土し、掲載した。その他、種別等不明の小骨片、板石(総重量2981.63g)、軽石少量、近現代の陶磁器が出土した。

かわらけは器形が推定出来るもの、特殊な形状のものを選抜し26点を掲載した。IV層、1号井戸からの出土が多く、前者はコンテナに1箱、後者は2箱出土した。掲載したかわらけの内訳は、大型の手づくねが8点(No.1～8)、小型の手づくねが8点(No.9～16)、大型のロクロが3点(No.17～19)、小型のロクロが3点(No.20～22)、内折れが3点(No.23～25)、耳皿状が1点(No.26)である。国産陶器は、常滑が59点(No.55他)、渥美が22点(No.2他)、須恵器系が2点(No.35、83)である。いずれも器種は甕が多く、壺、鉢、山茶碗が少数である。中国産磁器は白磁が7点で、III(No.1・2・8)、碗(No.4)、四耳壺(No.3)、水注(No.5)、青白磁は輪花皿(No.7)、漆巻き痕のある皿(No.9)が出土した。12世紀とみられる瓦(No.1)は平瓦である。

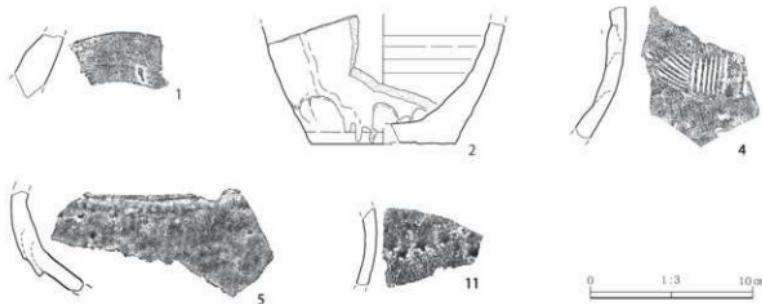
5まとめ

今回の調査では、西側は削平を受けており遺構が希薄であったが、東側に12世紀後半の整地層の残る可能性があるIV層が広がり、その上下から溝、井戸、土坑、柱穴を検出した。最も古いのは3号土坑で、その直上に部分的に整地前の旧表土とみられるV層が堆積している。その後2号土坑、3号溝、6号溝と3期の変遷を経てた後に整地が行われ、整地層の上面からは1号井戸が掘削されている。3号土坑からは、摩滅したかわらけ小片が少量出土したのみであるが、3・6号溝からは手づくねかわらけが複数出土した。整地が行われたのは12世紀後半、その前後を含んだ数十年にわたり、この地が利用されていたと考えられる。

かわらけ

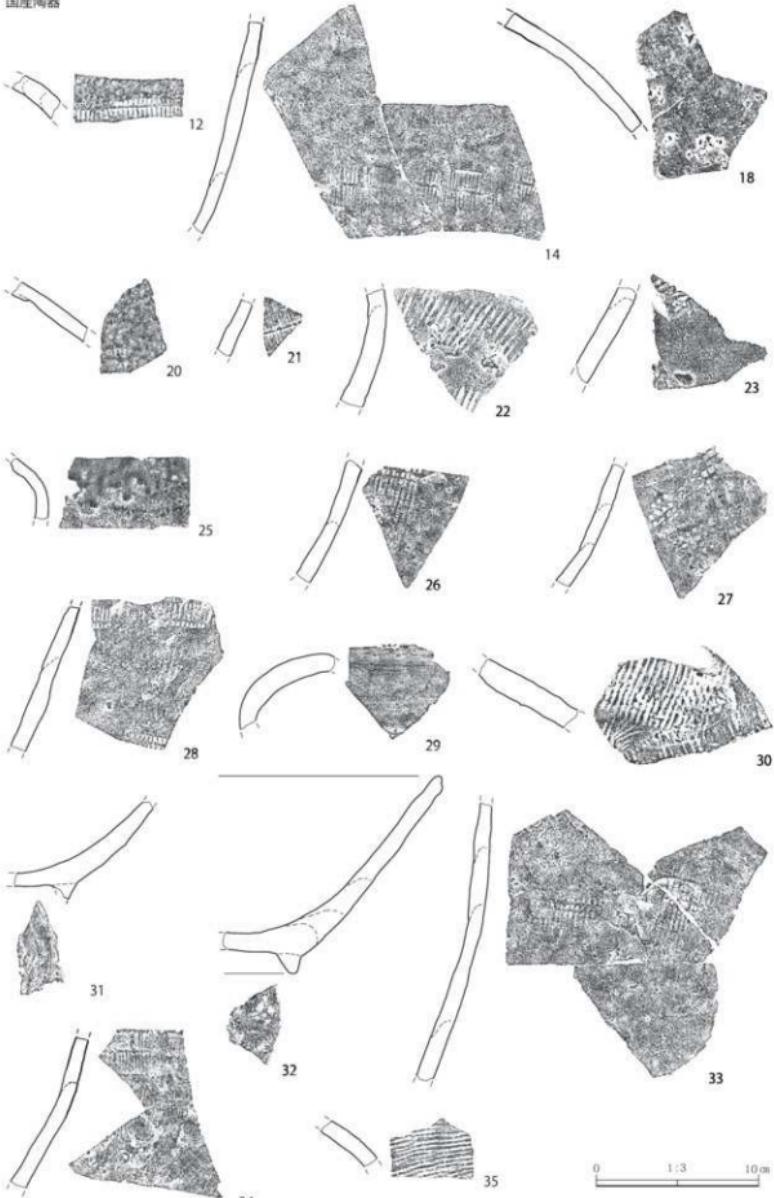


国産陶器

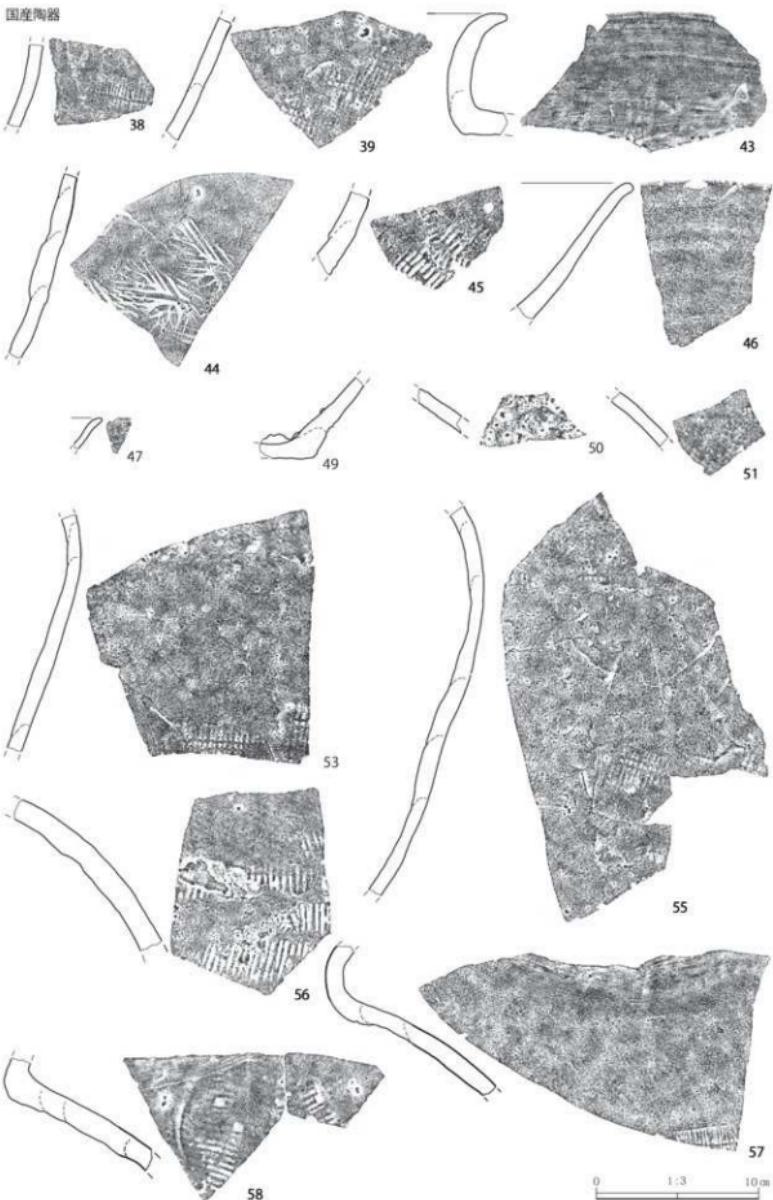


第7図 出土遺物 (1)

国产陶器

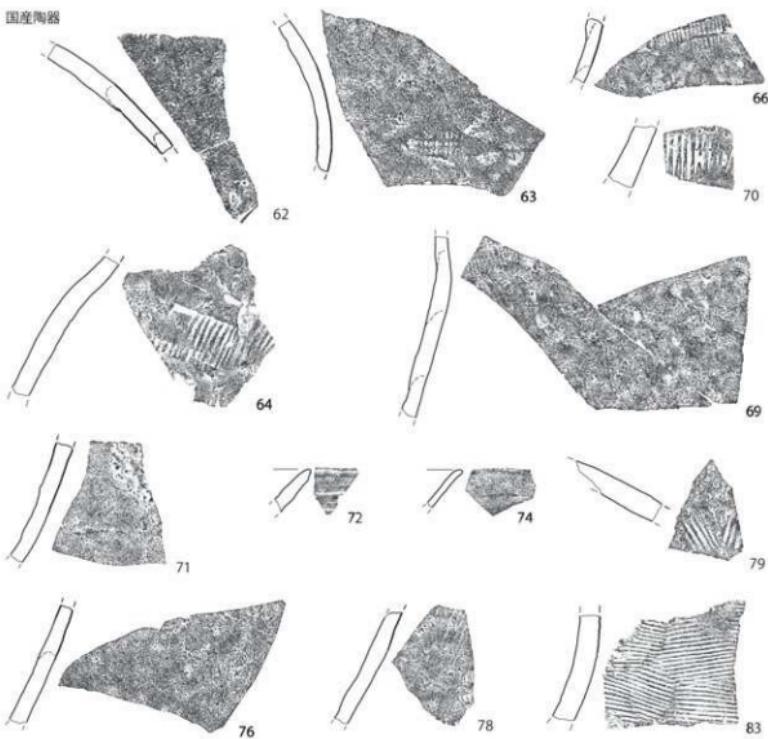


第8図 出土遺物（2）



第9図 出土遺物 (3)

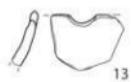
国产陶器



中国产磁器



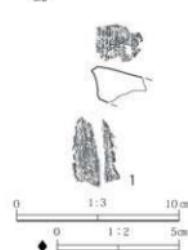
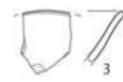
土師器



須恵器

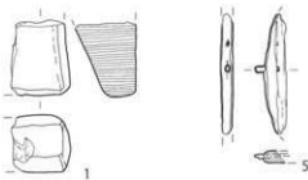
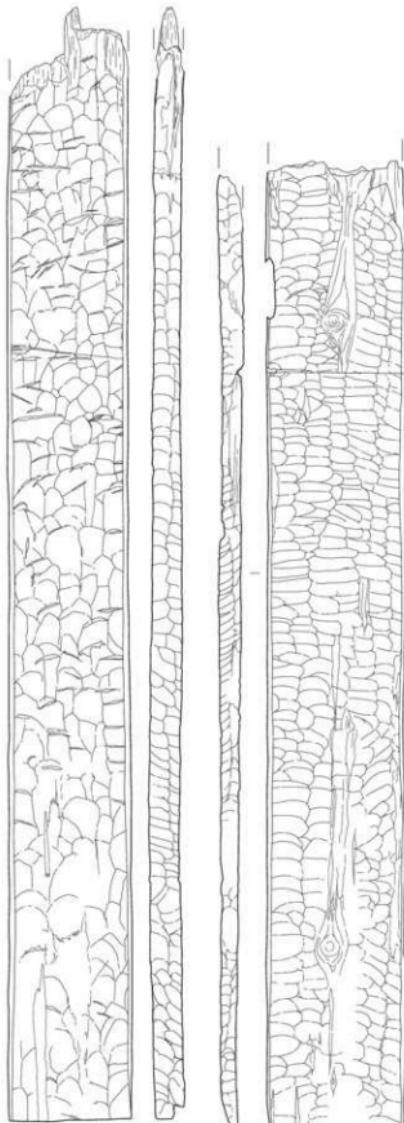


瓦



第10図 出土遺物 (4)

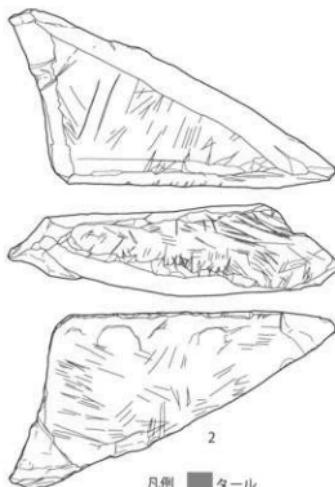
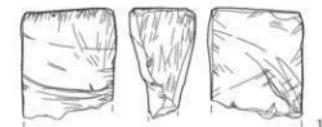
木製品



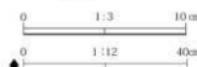
鐵製品



石製品



凡例 タール



第11図 出土遺物（5）

表5 かわらけ観察表

| No. | 国版 | 写真 | 出土位置・層位 | 種類 | 透 量 (cm) | 底 盤 或 底 器 高 | 残存率 (%) | 年代 | ()推定値 < - > 残存値 [写真]…写真版 | | 登録No. |
|-----|----|-----|------------------|------|----------------|----------------------------|------------|----|---------------------------|--------------|---------------------|
| | | | | | | | | | 備考 | | |
| 1 | — | 5 | 19号戸上層 | 手びね灰 | (11.0) | — | 21 | 35 | 12c | 摩滅 | 86-8 |
| 2 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (18.8) | — | 27 | 40 | 12c | スノコ底 摩滅 | 118-11 |
| 3 | — | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (18.6) | — | 18 | 35 | 12c | 摩滅 | 128-11 |
| 4 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (18.0) | — | 25 | 40 | 12c | 摩滅 | 16-1 |
| 5 | — | P29 | | 手びね灰 | (14.0) | — | <28> | — | 12c | 内凹面被熱 | 157-2, 160-3, 209-7 |
| 6 | 7 | 5 | 黄査区東半 G-I A 層 | 手びね灰 | (14.6) | — | 26 | 40 | 12c | 摩滅 | 73-2 |
| 7 | 7 | 5 | 黄査区東半 G-II A B 層 | 手びね灰 | (14.0) | — | 29 | 40 | 12c | スノコ底 | 22-13109-9, 110-5 |
| 8 | 7 | 5 | 黄査区南東部 星層 | 手びね灰 | (14.8) | — | 31 | 60 | 12c | スノコ底 摩滅 | 15-17 |
| 9 | 7 | 5 | 19号戸上層 | 手びね灰 | (9.0) | — | 19-22 | 30 | 12c | スノコ底 摩滅 | 98-9 |
| 10 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (8.6) | — | 14 | 50 | 12c | 摩滅 | 180-15 |
| 11 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (8.2) | — | 19 | 50 | 12c | 摩滅 | 180-16 |
| 12 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (9.0) | — | 20 | 50 | 12c | スノコ底 摩滅 | 183-11 |
| 13 | — | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (9.6) | — | <21> | 45 | 12c | スノコ底 | 186-8 |
| 14 | — | 5 | 19号戸中層 | 手びね灰 | (9.4) | — | 1.6-18 | 45 | 12c | 摩滅 | 186-9 |
| 15 | 7 | 5 | 黄査区東半 G-II A B 層 | 手びね灰 | (10.0) | — | 18-20 | 98 | 12c | スノコ底 | 133-5 |
| 16 | 7 | 5 | 黄査区東半 G-II A B 層 | 手びね灰 | (9.6) | — | 20 | 50 | 12c | 削痕 摩滅 | 194-8 |
| 17 | 7 | 5 | 19号戸中層 | ロクロ大 | — | 6.4 | <0.9> | 20 | 12c | 内外面被熱、底部のみ | 128-12 |
| 18 | 2 | 5 | 19号戸中～下層 | ロクロ大 | (14.2) | — | 3.5 | 15 | 12c | 底部が削られたかスノコ底 | 182-10, 13-12 |
| 19 | 7 | 5 | 3号窓 | ロクロ大 | (15.2) | 8.6 | 4.3 | 90 | 12c | 摩滅 | 115 |
| 20 | 7 | 5 | 19号戸中層 | ロクロ小 | (9.0) | 6.0 | 1.6 | 0 | 12c | 摩滅 | 186-10 |
| 21 | 7 | 5 | 黄査区東半 G-II A B 層 | ロクロ小 | (9.2) | 6.0 | 21-23 | 60 | 12c | 摩滅 | 121 |
| 22 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 内折れ | (9.0) | (5.6) | — | 30 | 12c | 摩滅 | 65-9 |
| 23 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 内折れ | (10.0) | — | 14 | 10 | 12c | 摩滅 | 101-6 |
| 24 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 内折れ | (10.0) | — | 14 | 60 | 12c | 摩滅 | 180-9 |
| 25 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 内折れ | (10.0) | — | 13 | 小片 | 12c | 摩滅 | 180-10 |
| 26 | 7 | 5 | 3号窓 | 耳鉢状 | — | — | 1.0-2.5 | 60 | 12c | 両端部内折れ | 116-3 |

表6 国産陶器観察表

| No. | 国版 | 写真 | 出土位置・層位 | 種類 | 形態 | 部位 | 年代 | 備考 | ()推定値 < - > 残存値 [写真]…写真版 | | 登録No. |
|-----|----|----|----------|-----|----|-----|-----|--|---------------------------|------|----------------------------|
| | | | | | | | | | 備考 | | |
| 1 | 7 | 5 | 3号窓 | 圓底 | 底部 | 12c | | | | | 160-2 |
| 2 | 7 | 5 | 6号窓 | 圓底 | 底部 | 12c | | | | | 162-163 |
| 3 | — | — | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 7, 11, 13, 16, 18, 19, 26, 36, 37, 39, 40, 41, 53, 54, 55, 62, 63, 76, 77と同一個体 | | 97-3 | |
| 4 | 7 | 5 | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 透弧文 | | | 86-3 |
| 5 | 7 | 5 | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | | | | 98-2 |
| 6 | — | — | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 33, 68, 75, 82と同一個体 | | | 98-4 |
| 7 | — | — | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 3と同一個体 | | | 104-2, 217 |
| 8 | — | — | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | | | | 87 |
| 9 | — | — | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | | | | 100-2 |
| 10 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | | | | 102-2 |
| 11 | 7 | 5 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 3と同一個体 | | | 118-5, 194-3 |
| 12 | 8 | 5 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 透印 | | | 126 |
| 13 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 3と同一個体 | | | 128-3 |
| 14 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 柳印 21と同一個体 | | | 22-498-3, 118-3 |
| 15 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | | | | 118-4 |
| 16 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 35と同一個体 | | | 128-2 |
| 17 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 小片 | | | 146-2 |
| 18 | 8 | 6 | 19号戸下層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 35と同一個体 | | | 103-2, 219-8 |
| 19 | — | — | 19号戸下層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | | | | 103-3 |
| 20 | 8 | 6 | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 柳印 34, 38, 57, 66, 69と同一個体 | | | 181-2 |
| 21 | 8 | 6 | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 柳印 | | | 181-3 |
| 22 | 8 | 6 | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | | | | 181-4 |
| 23 | 8 | 6 | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 柳印 | | | 181-4 |
| 24 | — | — | 19号戸上層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | | | | 181-5 |
| 25 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | | | | 180-2 |
| 26 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 柳印 3と同一個体 | | | 180-3 |
| 27 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 1b型式 積器集合体柳印 | | | 180-5 |
| 28 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 解部 | 12c | 柳印 | | | 180-7 |
| 29 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 頭部 | 12c | 頭部にハケ目 | | | 180-4 |
| 30 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 頭部 | 12c | 頭印 | | | 180-6 |
| 31 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑か | 外 | 頭部 | 12c | | | | 180-8 |
| 32 | 8 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 外 | 口縁部 | 12c | | | | 21-2 |
| 33 | 8 | 6 | 19号戸中～下層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 柳印 6と同一個体 | | | 102-2, 183-3, 185-3, 197-3 |
| 34 | 8 | 6 | 19号戸中～下層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 柳印 21と同一個体 | | | 182-5, 194-2 |
| 35 | 8 | 6 | 19号戸中～下層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | タキシ | | | 182-4 |
| 36 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 3と同一個体 | | | 186-2 |
| 37 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 3と同一個体 | | | 186-3 |
| 38 | 9 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 柳印 21と同一個体 | | | 183-3 |
| 39 | 9 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 唐付柳印 3と同一個体 | | | 191-4 |
| 40 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 3と同一個体 | | | 191-6 |
| 41 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 3と同一個体 | | | 191-7 |
| 42 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | | | | 191-9 |
| 43 | 9 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 頭部にハケ目 | 58と同一個体 | | 191-3 |
| 44 | 9 | 6 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 複合柳印 | | | 191-2 |
| 45 | 9 | 7 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 柳印 | | | 191-5 |
| 46 | 9 | 7 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 口縁部 | 12c | 末 | 内凹面り痕 | | 185 |
| 47 | 9 | 7 | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 山茶輪 | 12c | 小片 | | | 124-2 |
| 48 | — | — | 19号戸中層 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | | | | 59-2 |
| 49 | 0 | 7 | 黄査区東部 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 内 | 内凹面に粘土塊付着 | | 85-3 |
| 50 | 0 | 7 | 黄査区東部 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | | | | 15-3 |
| 51 | 0 | 7 | 黄査区東部 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 柳印 20と同一個体 | | | 15-5 |
| 52 | — | — | 黄査区東部 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 小片 | | | 15-4 |
| 53 | 9 | 7 | 黄査区東部 | 常滑 | 裏 | 胸部 | 12c | 柳印 3と同一個体 | | | 22-3 |

表6 国產陶器觀察表

| No. | 図版 | 写真 | 出土位置・層位 | 種類 | 部種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No. |
|-----|----|----|------------|-----|-----|-----|-----|------------|----------------|
| 54 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 3と同一個体 | 22-5 |
| 55 | 9 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 神印 3と同一個体 | 22-6, 32-122-4 |
| 56 | 9 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 底部 | 12c | 神印 | 22-2 |
| 57 | 9 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 神印 21と同一個体 | 21 |
| 58 | 9 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 底部 | 12c | 神印 43と同一個体 | 55-2, 5 |
| 59 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 鉢 | 体部 | 12c | 小片 | 55-3 |
| 60 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | | 75-2 |
| 61 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 山茶楓 | 体部 | 12c | 小片 | 90-2 |
| 62 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 底部 | 12c | 3と同一個体 | 62-2, 200-2 |
| 63 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 底部 | 12c | 神印 23と同一個体 | 158-2 |
| 64 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 神印 | 64-2 |
| 65 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 神印 | 64-3 |
| 66 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 底部 | 12c | 神印 21と同一個体 | 78-2 |
| 67 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | | 78-3 |
| 68 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 6と同一個体 | 67-3 |
| 69 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 21と同一個体 | 109-2, 215-1 |
| 70 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 神印 | 109-3 |
| 71 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | | 122-5 |
| 72 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 口縁部 | 12c | | 122-3 |
| 73 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 体部 | 12c | 小片 | 122-2 |
| 74 | 10 | 7 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 口縁部 | 12c | | 68-2 |
| 75 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 6と同一個体 | 110-2 |
| 76 | 10 | 8 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 3と同一個体 | 137-2 |
| 77 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 底部 | 12c | 3と同一個体 | 137-9 |
| 78 | 10 | 8 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | | 3-2 |
| 79 | 10 | 8 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 底部 | 12c | II型式 神印 | 79-2 |
| 80 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | | 2-4 |
| 81 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 鉢 | 体部 | 12c | | 2-3 |
| 82 | — | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 常滑 | 輪 | 側部 | 12c | 6と同一個体 | 1-2 |
| 83 | 10 | 8 | 出土地不明 | 須佐系 | 輪 | 側部 | 12c | タタキ | 14-2 |

表7 中国産磁器觀察表

| No. | 図版 | 写真 | 出土位置・層位 | 種類 | 部種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No. |
|-----|----|----|------------|-----|-----|-----|-----|----------------|---------|
| 1 | 10 | 8 | 1号窯 | 白磁 | 瓶 | 口縁部 | 12c | 唐物小 | 20-2 |
| 2 | — | 8 | 1号窯 上層 | 白磁 | 瓶 | 口縁部 | 12c | 唐物小 | 97-2 |
| 3 | 10 | 8 | 1号窯 上層 | 白磁 | 四耳壺 | 側部 | 12c | 直系 耳の取り付け部残る | 86-2 |
| 4 | — | 8 | 1号窯 中層 | 白磁 | 瓶 | 体部 | 12c | II型 | 88-2 |
| 5 | 10 | 8 | 1号窯 中層 | 白磁 | 瓶 | 底部 | 12c | II型 | 118-2 |
| 6 | — | 8 | 1号窯 中層 | 白磁 | 瓶 | 底部 | 12c | II型 | 118-3 |
| 7 | — | 8 | 1号窯 中層 | 白磁 | 瓶 | 底部 | 12c | II型 | 118-4 |
| 7 | 10 | 8 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 青白磁 | 瓶 | 口縁部 | 12c | 輪花 | 15-6 |
| 8 | — | 8 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 青白磁 | 瓶 | 口縁部 | 12c | 輪花 | 15-7 |
| 9 | — | 8 | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 青白磁 | 瓶 | 体部 | 12c | 唐物小 15-6と同一個体小 | 67-2, 4 |

表8 土器觀察表

| No. | 図版 | 写真 | 出土位置・層位 | 器種 | 部種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No. |
|-----|----|------------|---------|----|----|----|----|----|--------|
| 1 | — | 69 | 渕 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 165-2 |
| 2 | — | 19 | 渕口 上層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 97-4 |
| 3 | — | 19 | 渕口 上層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 85-6 |
| 4 | — | 19 | 渕口 上層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 85-7 |
| 5 | — | 19 | 渕口 中層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 88-3 |
| 6 | — | 19 | 渕口 中層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 118-7 |
| 7 | — | 19 | 渕口 中層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 128-6 |
| 8 | — | 19 | 渕口 中層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 191-17 |
| 9 | — | 19 | 渕口 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 124-3 |
| 10 | — | 19 | 渕口 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 124-4 |
| 11 | — | 19 | 渕口 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 124-5 |
| 12 | — | 19 | 渕口 濁底部 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | 内里 | 59-5 |
| 13 | — | 19 | 渕口 濁底部 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 61-2 |
| 14 | — | 19 | 渕口 濁底部 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | 61-7 |
| 15 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | 内里 | | 15-8 |
| 16 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | 内里 | | 15-9 |
| 17 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 15-11 |
| 18 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 15-12 |
| 19 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 15-13 |
| 20 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 9-2 |
| 21 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 22-9 |
| 22 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 93-2 |
| 23 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 54-4 |
| 24 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 54-5 |
| 25 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | 内里 | | 73-3 |
| 26 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 108-2 |
| 27 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 120-2 |
| 28 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 166-2 |
| 29 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | 内里 | | 62-3 |
| 30 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 133-2 |
| 31 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 134-3 |
| 32 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 66-2 |
| 33 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 66-6 |
| 34 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 152-3 |
| 35 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | 内里 | | 67-7 |
| 36 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 67-9 |
| 37 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 109-4 |
| 38 | — | 渕谷区東部 Ⅲ-Ⅳ層 | 甕 | 底 | 側部 | 平安 | | | 109-5 |

表8 土器器觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|------------------|----|----|----|---------|--------|
| 39 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 122-8 |
| 40 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 122-11 |
| 41 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 91-2 |
| 42 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 7-2 |
| 43 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 106-2 |
| 44 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 193-4 |
| 45 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 13-2 |
| 46 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 56-3 |
| 47 | 10 | 8 | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | 口部に凹み加工 | 57-2 |
| 48 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 57-3 |
| 49 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 174-2 |
| 50 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 194-4 |
| 51 | — | — | 出土土地不明 | 甕 | 底部 | 平安 | | 155-4 |

表9 須恵器觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|------------------|----|----|----|-------|-------|
| 1 | 10 | 8 | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 66-3 |
| 2 | — | — | 出土土地不明 | 甕 | 底部 | 平安 | | 117-2 |
| 3 | 10 | 8 | 19号井 中層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 116-6 |
| 4 | — | — | 19号井 中層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 128-4 |
| 5 | — | — | 19号井 中層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 129-5 |
| 6 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 134-2 |
| 7 | 10 | 8 | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | 内外面タキ | 158-3 |
| 8 | 10 | 8 | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 158-4 |
| 9 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 甕 | 底部 | 平安 | | 193-2 |

表10 繩文土器觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|----|----|----|-----------|-------|
| 1 | — | — | 19号井 中層 | 深鉢 | 側部 | 縄文 | 外面上に楕文 帯溝 | 100-5 |
| 2 | — | — | 6号井 | 甕 | 底部 | 縄文 | 外面上に楕文 帯溝 | 165-3 |

表11 近世近代國產陶磁器觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 器種 | 器種 | 部位 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|------------------|----|----|----|----|----|------------------------|-------|
| 1 | — | — | 8号井 中層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け 外面に「大明年製」の文字 | 1-3 |
| 2 | — | — | 8号井 中層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 五代 | 日清戦争長森義 内田口「新嘉既成記念」の文字 | 1-8 |
| 3 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 4-2 |
| 4 | — | — | 19号井 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 16-3 |
| 5 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 18-2 |
| 6 | — | — | 19号井 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 20-4 |
| 7 | — | — | 19号井 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 34-2 |
| 8 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 44-3 |
| 9 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 50-2 |
| 10 | — | — | 19号井 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 68-3 |
| 11 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 心野か | 77-2 |
| 12 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前か | 111 |
| 13 | — | — | 2号井 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | 155-5 |
| 14 | — | — | 出土土地不明 | 陶器 | 瓶 | 底部 | 口部 | 平安 | 肥前 安付け | |

表12 瓦觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 法量 (cm) | 重量 (g) | 備考 | 登録No | |
|----|----|----|------------------|----|---------------|--------|-------|---------------------|-------|
| 1 | 10 | 8 | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 平瓦 | <4.5> <3.7> | 2.0 | 19.1 | 12枚紀 間面に布目 凸面に繩目 | 109-6 |
| 2 | — | — | 19号井 | 平瓦 | <13.0> <10.4> | 1.7 | 342.1 | 近世以降か 間面に繩目か 棚面にケズリ | 50 |

表13 壁土觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 穴の有無 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|------------------|---------|---------|---------|--------|------|---------|--------|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | | |
| 1 | — | — | 19号井 | 4.3 | 3.0 | 1.7 | 11.1 | 有 | | 16-2 |
| 2 | — | — | 19号井 | 2.8 | 2.3 | 1.7 | 5.0 | 有 | | 22-5 |
| 3 | — | — | 3号井 | 1.7 | 1.6 | 1.2 | 1.6 | 有 | | 112-2 |
| 4 | — | — | 19号井 | 1.4 | 1.3 | 0.9 | 3.6 | 無 | | 160-4 |
| 5 | — | — | 19号井 上層 | 1.8 | 1.7 | 0.8 | 3.5 | 無 | | 85-8 |
| 6 | — | — | 19号井 上層 | 1.2 | 1.2 | 0.7 | 0.9 | 無 | 一部鉢化 | 86-4 |
| 7 | — | — | 19号井 上層 | 1.7 | 1.1 | 0.7 | 1.2 | 無 | | 190-3 |
| 8 | — | — | 19号井 中層 | 2.1 | 1.5 | 1.4 | 3.3 | 有 | | 88-5 |
| 9 | — | — | 19号井 中層 | 2.5 | 1.3 | 1.5 | 2.8 | 有 | | 102-3 |
| 10 | — | — | 19号井 中層 | 1.0~1.4 | 0.8~1.4 | 0.8~0.9 | 2.1 | 有 | 3個 | 102-7 |
| 11 | — | — | 19号井 中層 | 3.0 | 2.0 | 1.2 | 5.5 | 有 | | 128-7 |
| 12 | — | — | 19号井 中層 | 1.1~2.0 | 1.0~1.8 | 0.7~1.9 | 6.4 | 有 | 一部鉢化 | 180-12 |
| 13 | — | — | 19号井 中層 | 1.5~2.0 | 1.1~1.4 | 0.7~1.3 | 3.7 | 無 | 3個 | 183-8 |
| 14 | — | — | 19号井 中層 | 2.3 | 1.7 | 1.0 | 3.1 | 無 | 鉢化 | 183-13 |
| 15 | — | — | 19号井 中層 | 5.0 | 4.2 | 2.7 | 33.4 | 有 | | 186-4 |
| 16 | — | — | 19号井 調査区東壁下 | 1.1~2.1 | 1.0~2.3 | 0.8~1.4 | 5.2 | 有 | 一部鉢化 3個 | 59-6 |
| 17 | — | — | 19号井 調査区東壁下 | 1.9 | 1.5 | 1.2 | 2.4 | 有 | | 61-3 |
| 18 | — | — | 19号井 上層 | 1.0~3.0 | 1.0~1.8 | 0.8~0.7 | 2.8 | 有 | 2個 | 41-3 |
| 19 | — | — | 19号井 地上 | 2.0 | 1.7 | 0.7 | 1.1 | 無 | | 41-4 |
| 20 | — | — | 19号井 地上 | 0.8~1.0 | 0.5~1.0 | 0.4 | 0.6 | 無 | | 49-2 |
| 21 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 1.0~2.9 | 1.0~2.0 | 0.7~1.4 | 12.7 | 無 | 鉢化 | 186-3 |
| 22 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 2.4 | 2.3 | 1.8 | 7.6 | 無 | | 158-5 |
| 23 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 2.3 | 2.0 | 1.6 | 6.3 | 有 | | 78-4 |
| 24 | — | — | 調査区東半 G-B-A-B-V層 | 1.5 | 1.6 | 0.7 | 1.5 | 無 | | 78-5 |

表13 壁土觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 法量(cm) | | | 重量(g) | スサの有無 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|----------------|---------|---------|---------|-------|-------|--------|--------|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | | |
| 25 | — | — | 渋谷区東平G-ⅢA Ⅴ層 | 1.1~2.2 | 0.9~2.3 | 0.6~2.2 | 12.1 | 有 | 3個 | 134-4 |
| 26 | — | — | 渋谷区東平G-ⅢA Ⅴ層 | 1.6 | 1.5 | 0.8 | 1.8 | 有 | | 65-3 |
| 27 | — | — | 渋谷区東平G-ⅢB A・V層 | 1.7~1.9 | 1.4 | 1.0~1.3 | 4.0 | 有 | 一部炭化2個 | 122-6 |
| 28 | — | — | 渋谷区東平G-ⅢB A・V層 | 1.4~2.2 | 0.7~1.7 | 0.2~1.4 | 5.0 | 無 | 2個 | 122-12 |
| 29 | — | — | 渋谷区東平下 | 2.8 | 1.7 | 1.2 | 5.4 | 有 | | 25-1 |
| 30 | — | — | 渋谷区東平下 | 2.8 | 1.9 | 2.1 | 7.4 | 有 | 一部炭化 | 54-11 |
| 31 | — | — | 渋谷区東平 極出面 | 2.0 | 1.2 | 0.9 | 1.5 | 有 | 一部炭化 | 56-2 |
| 32 | — | — | 渋谷区東平東西ペルト壁 | 1.8 | 1.5 | 1.4 | 1.4 | 無 | | 174-2 |
| 33 | — | — | 出土土地不明 | 2.2 | 1.2 | 1.0 | 3.2 | 無 | | 29-2 |
| 34 | — | — | 出土土地不明 | 2.2 | 1.8 | 0.8 | 2.9 | 有 | | 155-3 |
| 35 | — | — | 出土地点不明 | 1.8 | 1.5 | 1.4 | 2.9 | 無 | | 200-3 |

表14 鉄製品觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|-----------------|-------|--------|-----|-----|-------|----|--------|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 1 | 11 | 8 | 渋谷区東平 極出面 | 鉄釘 | 5.5 | 1.4 | 1.1 | 21.2 | | 17-2 |
| 2 | 11 | 8 | 渋谷区東平下 | 鉄釘 | 6.3 | 0.9 | 0.7 | 8.6 | | 54-2 |
| 3 | — | — | 1号出土 | 鉄釘 | <3.7> | 1.8 | 0.9 | 9.2 | | 86-3 |
| 4 | — | — | 渋谷区東平 G-ⅢA Ⅴ層 | 鉄釘 | <3.9> | 0.8 | 0.7 | 2.7 | | 109-7 |
| 5 | 11 | 8 | 渋谷区東平 G-ⅢA Ⅴ層 | 鉄釘 | <5.5> | 0.8 | 0.7 | 4.4 | | 109-8 |
| 6 | — | — | 渋谷区東平 G-ⅢA B・V層 | 不明鉄製品 | <4.1> | 0.5 | 0.5 | 2.7 | 板状 | 122-7 |
| 7 | — | — | 渋谷区東平 G-ⅢA B・V層 | 角形小 | <2.8> | 0.8 | 0.8 | 2.3 | | 134-5 |
| 8 | — | — | 渋谷区東平 G-ⅢB V層 | 鉄釘 | <2.4> | 0.9 | 0.7 | 3.9 | | 127-3 |
| 9 | — | — | 渋谷区東平 G-ⅢB V層 | 不明鉄製品 | <6.0> | 4.3 | 1.0 | 34.3 | 板状 | 159-2 |
| 10 | — | — | 渋谷区東平 G-ⅢB V層 | 不明鉄製品 | 2.2 | 2.0 | 1.4 | 9.1 | 球状 | 176-2 |
| 11 | — | — | 1号戸門 中層 | 鉄釘 | <2.2> | 0.8 | 0.5 | 1.4 | | 180-11 |

表15 銭貨觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 大きさ(cm) | 重量(g) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|-------|---------|-------|----------------|------|
| 1 | — | — | 1号出土 | 一銭古銭貨 | 2.3(直径) | 3.2 | 銭の文様「大正十一年」の文字 | 40 |

表16 淀觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 重量(g) | 縫着 | 種類 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|----------------------|-------|----|-----|----|-------|
| 1 | — | — | 1号出土 | 2.8 | 有 | 鉄浮 | | 28-2 |
| 2 | — | — | 渋谷区南東部 直層 | 45.6 | 有 | 鉄浮 | | 15-15 |
| 3 | — | — | 渋谷区東平 G-II B 層 | 3.5 | 有 | 鉄浮 | | 64-4 |
| 4 | — | — | 渋谷区東平 G-II B 層 | 27.4 | 有 | 鉄浮 | | 66-4 |
| 5 | — | — | 渋谷区東平 G-II B 層 | 1.6 | 無 | 鉄浮 | | 80-2 |
| 6 | — | — | 渋谷区東平 G-IV B II・III層 | 40.1 | 有 | 鉄浮 | | 68-5 |
| 7 | — | — | 出土地点不明 | 0.2 | 無 | 不明浮 | | 155-7 |

表17 木製品觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 法量(cm) | 備考 | 登録No | |
|----|----|----|----------|---------|-------------|------|-------------------|--------|
| 1 | 11 | 9 | 1号戸門 下駄 | 下駄の箒 | <1.6> <1.7> | 3.7 | 切り落とされた先端部 | 183-14 |
| 2 | 11 | 9 | 1号戸門 | 刃部分 | <27.0> | 29.9 | 手斧頭 下端部にはぞ六、タール付箒 | 220 |
| 3 | 11 | 9 | 1号戸門 | 刃部分 | <23.0> | 32.4 | 手斧頭 下端部にはぞ六 | 221 |
| 4 | — | 9 | 1号戸門 中下駄 | 細木 | 7.0 | 7.0 | 全面にタール | 187-7 |
| 5 | 11 | 9 | 1号戸門 下駄 | 箒け物の底板か | <7.4> <1.9> | 0.8 | 箒面上に箒穴が貫通し、内側に木打 | 103-4 |

表18 植物遺体觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 備考 | 登録No | |
|----|----|----|----------|----|----|--------|--------|
| 1 | — | — | 1号戸門 中層 | 桃 | 4点 | | 183-6 |
| 2 | — | — | 1号戸門 中層 | 桃 | 2点 | | 187-5 |
| 3 | — | — | 1号戸門 中層 | 桃 | 1点 | | 191-12 |
| 4 | — | — | 1号戸門 中下駄 | 桃 | 1点 | | 182-6 |
| 5 | — | — | 1号戸門 下駄 | 桃 | 4点 | | 103-6 |
| 6 | — | — | 1号戸門 下駄 | 桃 | 1点 | | 196-3 |
| 7 | — | — | 渋谷区東平下 | 桃 | 1点 | 炭化している | 54-9 |

表19 石製品觀察表

| No | No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 法量(cm) | 重量(g) | 色調 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|----|---------|-----|-----------|-------|-------|-----------------|-------|
| 1 | 1 | 11 | 9 | 1号出土 | 鐵石 | <6.9> 5.9 | 4.0 | 927.1 | 7.178/186白 | 20-6 |
| 2 | 2 | 11 | 9 | 1号戸門 上駄 | 鐵石 | 20.1 | 11.0 | 5.2 | 200.0 N4 灰 | 85-4 |
| 3 | 3 | — | — | 1号戸門 上駄 | 鐵石か | 2.5 | 2.4 | 0.5 | 3.6 10Y8R8/286白 | 181-8 |

表20 石器觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 法量(cm) | 重量(g) | 備考 | 登録No | |
|----|----|----|----------|----|--------|-------|-----|------|-------|
| 1 | — | 8 | 渋谷区東平 V層 | 石瓦 | 3.4 | 1.3 | 0.9 | 1.6 | 137-6 |

表21 その他觀察表

| No | 国版 | 写図 | 出土位置・層位 | 種類 | 備考 | 登録No | |
|----|----|----|---------|----|--------------|-----------|----|
| 1 | — | — | 1号出土 | 煉瓦 | 22.5×9.5×5.8 | 2800.0 被熱 | 46 |



1 調査区東半完掘（南から）



2 調査前状況（西から）



3 調査区西半完掘（南東から）



4 東側IV層検出状況（南から）



5 IV層国産陶器（No.57）出土状況

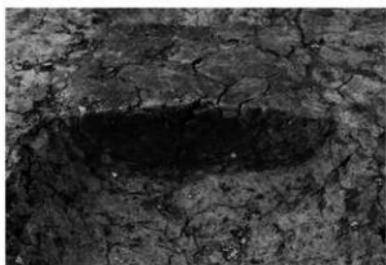
写真図版1



1 1号溝断面（西から）



2 1号溝完掘（西から）



3 2号溝断面（東から）



4 3・6号溝断面（北から）



5 4号溝断面（南から）



6 3号溝、2・3号土坑断面（南から）



7 3号土坑完掘（北から）



8 1号焼土完掘（南から）

写真図版2



1 調査区東壁、1号井戸上層断面（南西から）



2 1号井戸断面（北から）



3 1号井戸断面（西から）



4 1号井戸木枠出土状況（北西から）



5 P3断面（南から）

写真図版3



1 P12断面（南から）



2 P18断面（北から）



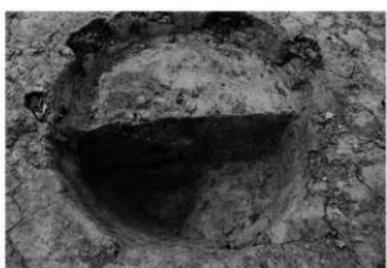
3 P19断面（東から）



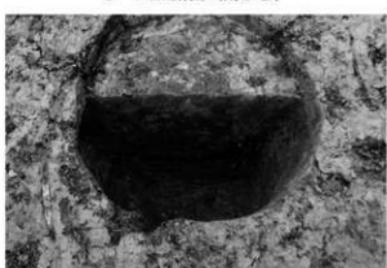
4 P21断面（南から）



5 P22断面（南から）



6 P23断面（南から）



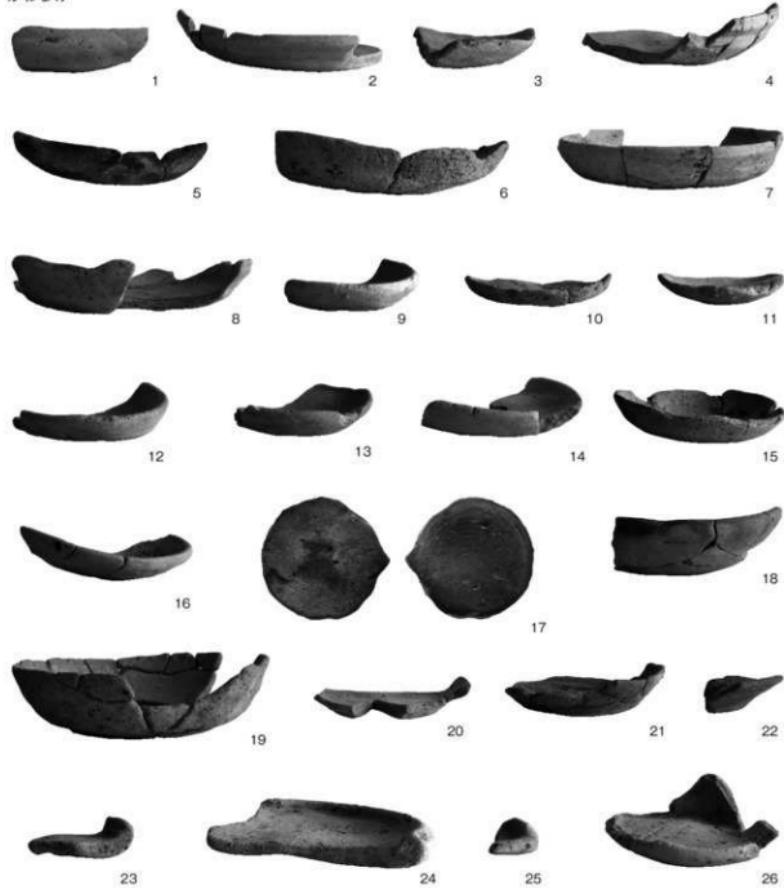
7 P24断面（東から）



8 P26断面（南から）

写真図版4

かわらけ



国産陶器



写真図版5 出土遺物（1）

国产陶器

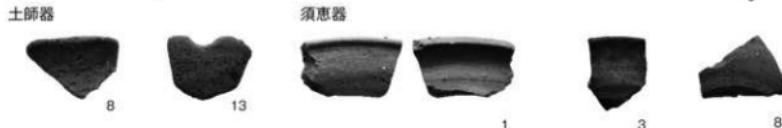
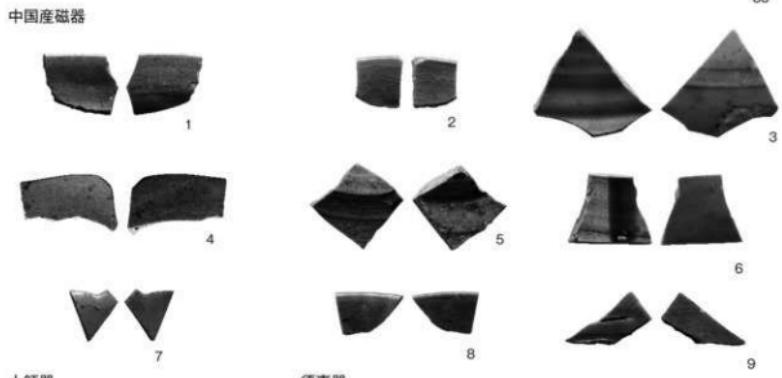


写真図版6 出土遺物（2）

国产陶器



写真図版7 出土遺物（3）

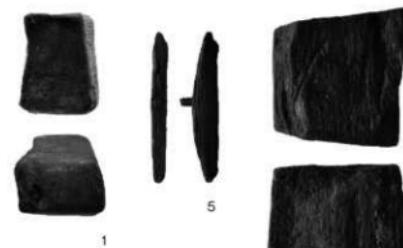


近世・近代国产磁器

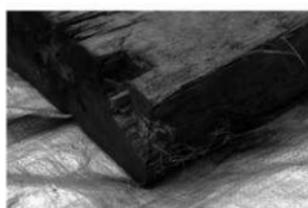


写真図版8 出土遺物 (4)

木製品



石製品



写真図版9 出土遺物（5）

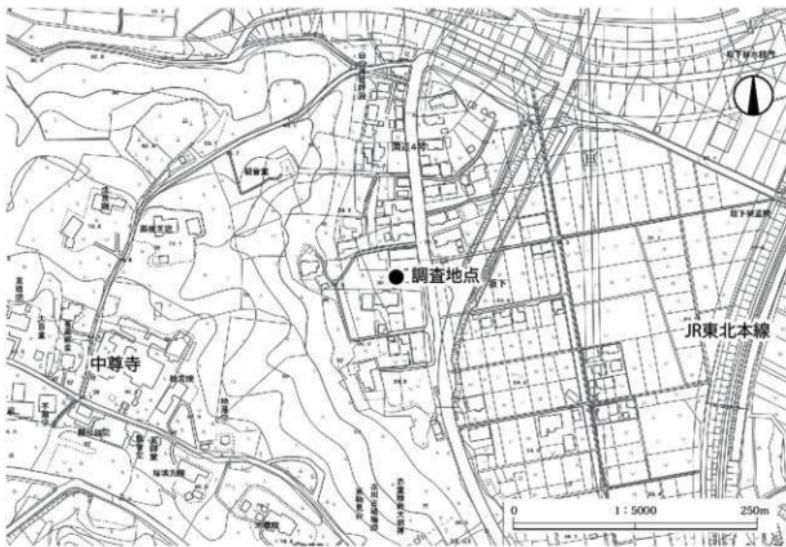
中尊寺跡第92次発掘調査

1 調査要項

- 地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字衣闌220番1
 調査面積 100 m²
 調査期間 令和元年5月15日～7月31日
 原 因 住宅新築
 調査担当 菅原計二

2 位置と概要

調査地点は町域の北側、特別史跡中尊寺境内が広がる関山丘陵の東麓に位置し、県道300号（旧国道4号）に面して住宅が並ぶ一角に当たる。地形は中尊寺本堂や東物見台の東側に当たる傾斜地から緩斜面に移行する一帯で、西隣は標高約30mの畠、東側の既存住宅はコンクリート擁壁に囲まれた盛土造成地に立つ。標高は約28.5mである。この既存住宅の西に住宅を新築し、南側に物置を建築するのに先立ち発掘調査を行った。範囲は住宅予定地が東西約9m×南北10m、南側の物置予定地が約4×4mである。調査の結果、火山灰土が堆積する9～10世紀の大溝や12世紀の遺物を含む柱穴、土坑、溝跡、近世以降の暗渠溝を検出した。以下は経過である。5月15日重機で表土と物置解体の搅乱を掘削、16日発掘資材搬入と残土除去、この後、遺構検出と精査・実測を行った。6月20日全体写真撮影。住宅予定地の位置変更に伴い7月22日から住宅予定地の南側コンクリートたたきを除去したところ、この南側拡張部で柱穴と溝跡の延長を検出した。これらの遺構について精査を行い、31日発掘資材を撤去して現地での調査を終了した。



第1図 位置図 (1/5,000)

3 調査成果

調査区は既存住宅を建築する際に西側斜面を平坦に切土して東側の造成に用いた様相で、切り土された平坦な地山面が遺構確認面となる。標高約28.5mである。

(1) 土層 (第8~10図・表1)

調査区の土層は削平を受けた地山を含めて4層に分けられる。I層は表土や住宅周囲のコンクリート・アスファルト敷き・搅乱土等である。II層は切土盛土で宅地造成土や搅乱土を含む。III層は畑耕作土とみられる東側の堆積土、IV層は地山で地点により土質が異なる地層が重なる。調査区中央の地山確認トレーニングでは上位が黄橙～明黄褐色粘土、中位が灰褐色～にぶい黄橙シルト、下位はにぶい黄橙粘土である。西や東ではグライ化した灰オリーブ粘土が酸化して浅黄粘土となる。1号溝の底面では砂質や礫主体の層がみられる。

表1 土層

| 層 | 内容 | 主な土質・土質 (年代) |
|-----|--------------|----------------------------------|
| I | 表土 | コンクリート・アスファルト敷き・搅乱 |
| | | 灰褐色・黒褐色シルト等 (現代) |
| II | 切土盛土 | 造成土 物置床土 |
| | | 土台石及び掘方搅乱 灰褐色シルト・畑耕作土少量混 (昭和・平成) |
| III | 畑耕作土とみられる堆積土 | 灰褐色～にぶい黄褐色シルト (昭和以前か) |
| IV | 地山 | 浅黄～にぶい黄粘土シルトや褐色シルト、砂質土、礫主体の自然層 |

(2) 遺構 (第2~5図・表2) 調査区全体で柱穴23個、土坑4基、溝跡4条を検出した。

柱穴 柱穴1と2は1号溝を掘り込む小規模な柱穴、柱穴3と4は調査区中央と東側、柱穴5・6と9~23は南側拡張部で検出した。柱穴の規模は直径8~36cmで、形状は掘方・柱痕跡共に円形または梢円形が主体で、柱穴4柱痕跡は方形である。埋土は柱痕跡が10YR3/3暗褐色シルト主体で、掘方は暗褐色シルトに浅黄粘土地山ブロックが少量混じるもの主体。柱穴同士と溝跡が重複するものがある。柱穴の年代は12世紀もしくはこれ以降の小規模な掘立柱建物の一部と推定されるものが主体だが、検出した範囲が限られ展開は不明である。

土坑 土坑は4基を検出した。1号土坑は直径80cmの円形で深さ34cm、底面標高28.18mで3号溝・4号溝に切られる。埋土上位は灰褐色シルト、下位は灰褐色シルトに地山ブロックが混じる。遺構の新旧関係と埋土の様相から12世紀の土坑とみられるが用途は不明である。物置予定地の南側トレーニングで検出した柱穴7・8と2号土坑・3号土坑の埋土はいずれも軟質でしまりがなく、近代以降の掘込みと推定した。4号土坑は東西1.00×南北1.60mの長方形の掘込みで深さ44cmを測る。埋土は灰褐色シルトに明黄褐色粘土が少量混じる。出土遺物は無いが、形状と埋土の様相から近代以降に埋められたムロ(貯蔵庫)とみられる。

溝跡

1号溝 調査区西側から東に下る古代の大溝を検出した。溝はN82°Eの軸線で新旧2時期の流路があり、新期1号溝、古期1号溝とした。溝跡は検出長9.60m、溝幅は新期1号溝が中央ベルトで2.40m、古期1号溝が西壁で2.20m以上、深さは新期1号溝西端で40cm、東端で深さ1.21mを測る。底面標高は新期1号溝で西端27.85m、東端27.08m。埋土は新期1号溝を便宜的にA~C群、古期1号溝をD群とした。埋土は土色や土質の内容により細分される。古期1号溝は西壁と北東側の一部に堆積土が残り、埋没した溝を同様の規模で浚渫あるいは新たな溝を掘ったものとみられる。新期1号溝の上層(A群)はにぶい黄褐色シルト～灰褐色シルトが主体で地山ブロックや砂質シルト、炭化物を含む層位が重なる。中層(B群)では流路の窪みや面的な厚みのある層として細かな粒子が特徴の火山灰土を検出した。これは十和田a降下火山灰(915年)とみられる灰白～にぶい黄橙色のテフラでB群の流路部分にU字型の堆積がみられるほか、上位の皿形の窪みには二次的に厚く堆積した様相である。同様の火山灰土が町内の遺跡で確認されており、近隣では中尊寺境内の溝跡、西は西光寺跡の低地、東は長島地区的

竜ヶ坂遺跡で検出例がある。下層（C群）は西壁で灰黄褐色粘土と砂質の混土（21～23層）、中央付近では上位にぶい黄褐色シルト（26～30層）と下位の礫層や砂質土（31～34層）に分かれ、逆台形に掘削した後の様相が似る。溝底には水流で洗堀された窪みがあり、水成堆積の礫や砂・粘土に被われる。古期1号溝の埋土（D群）は黒褐色粘土や灰黃褐色シルトと地山ブロックの混土が堆積する。新規1号溝から土師器や須恵器の破片が少量出土した。9～10世紀の区画溝の可能性がある。

2号溝 調査区東側で南北方向にN 33°～43°Eの軸線で検出した暗渠とみられる溝跡で、溝底から多數の礫を検出した。検出長は南側拡張部を含め8.00m、溝幅50cm、深さ20～35cmを測り、断面形は逆台形を呈する。溝底は南から北へ下る。柱穴4と3号溝・4号溝を切る。底面直上で検出した礫は拳大から最大27cm大の川原石とみられる円礫が主体で約150個が出土した。欠けた板状粘板岩が数個混じる。埋土は上位が黒褐色シルト主体で下位にはぶい黄褐色地山ブロックが混じるが、人為的な様相は認められない。北側では礫がほとんど無く砂質分が多くなる。埋土中からかわらけが少量出土した。2号溝の東側を直径約1.2mの楕円形の擾乱が掘り込み、この擾乱から近世瓦の破片や19世紀の型紙摺り肥前産磁器皿が出土している。当地点は西側斜面から雨水や湧水が流れ込む地形であり、この排水を目的とした施設と思われる。

3号溝・4号溝 調査区南東側でL字形に曲がる3号溝とその下に4号溝を検出した。いずれも2号溝に切られ、1号土坑より新しい。3号溝は検出長4.00m、溝幅1.00m、深さ26cmを測り、軸線はN 15°～90°Eの軸線で、南北方向に伸びて北端が東に屈曲する。断面形は浅い逆台形から皿形を呈する。埋土は灰褐色シルト主体で下位に地山ブロックが混じり2～4層に分けられる。埋土中からほぼ完形の手づくね大形かわらけ1点や破片が出土した。埋土の様相と出土遺物から12世紀後半と推定した。4号溝は3号溝の下で検出した。ほぼ同一地点で重なり、溝を掘り直したような形である。検出長2.00m、溝幅50cm以上、深さ22cmを測り、断面形は皿形を呈する。埋土は3号溝に似て3層に分けられる。かわらけが少量出土した。

(3) 遺 物 (第12図・表3・4)

かわらけ 調査区全体から85点(0.38kg)が出土し、この内2点を図示した。1と2は3号溝から出土した接合完形の1点と破片1点である。いずれも手づくね大形かわらけで年代は12世紀後半である。

土師器 12点が出土し、柱穴18出土の1点と新規1号溝出土の3点を図示した。3は甕、4～6は壺もしくは皿の破片で、年代は9～10世紀とみられる。3は12世紀以降の柱穴に混入した可能性がある。

中国産磁器 遺構外から12世紀の中国産白磁2点が出土した。7は白磁壺II系の大形壺の胴部、8は白磁壺類III系の胴部破片である。

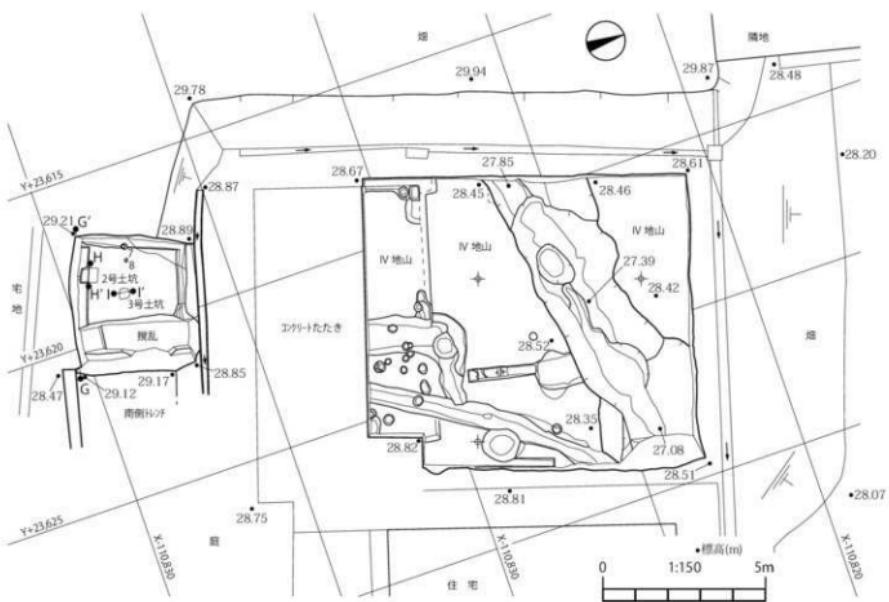
須恵器 9は新規1号溝から出土した9世紀の須恵器壺の底部で、底面にヘラナデ調整を行う。

その他 摆乱状の土坑や遺構外から近世・近現代の陶磁器、近世瓦2点、石製硯1点、不明鉄製品、粘板岩、ガラス片、ビニール等の雑物が少量出土した。

4まとめ

当地点は関山丘陵東麓の緩斜面に位置する。遺構と遺物から想定される様相は以下の通り。

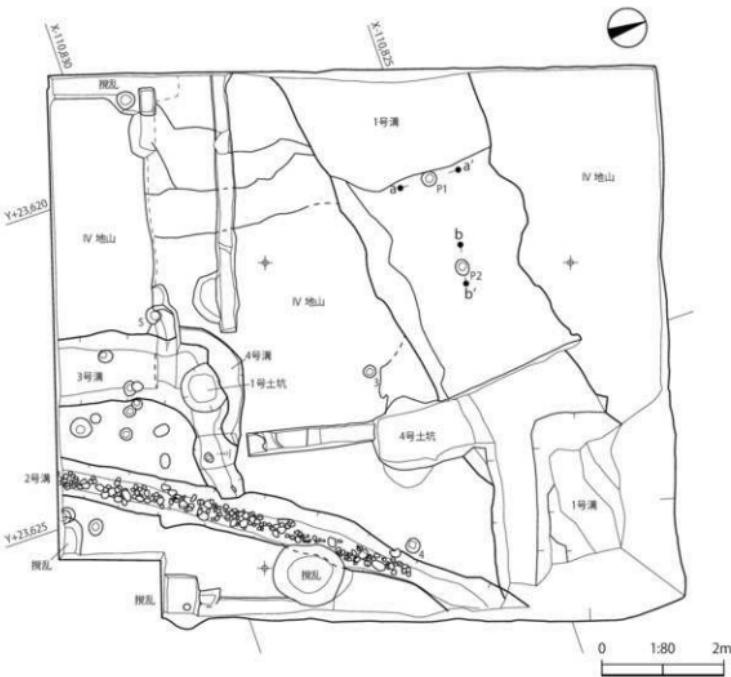
| 年 代 | 遺構と遺物 | 様 相 |
|----------|--------------------------|---|
| [9～10世紀] | 古期1号溝・新規1号溝 (土師器・須恵器) | 新旧2時期の東西溝で新規1号溝が古期1号溝を掘り込む新規1号溝に十和田a降下火山灰土(915年)が堆積 上位に人為的な埋め戻しがみられる |
| [12世紀] | 1号土坑・3号溝・4号溝 | 1号土坑は4号溝と3号溝に先行し、L字形に屈曲する3号溝からかわらけが出土、3号溝は4号溝を渡渉したか柱穴と重複し、遺構の変遷が想定される |
| [近 代] | 2号溝・2号土坑・3号土坑 | 2号溝は近代以前の暗渠か 南側トレンチの2号土坑・3号土坑や柱穴は近代以降の新しい掘り込みとみられる |



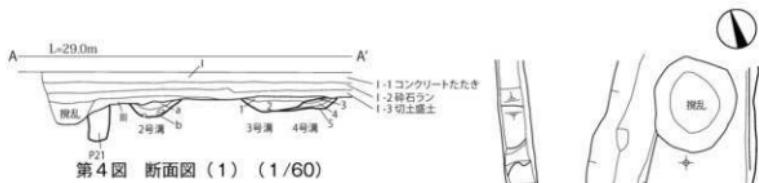
第2図 平面図（1）調査区全体（1/150）



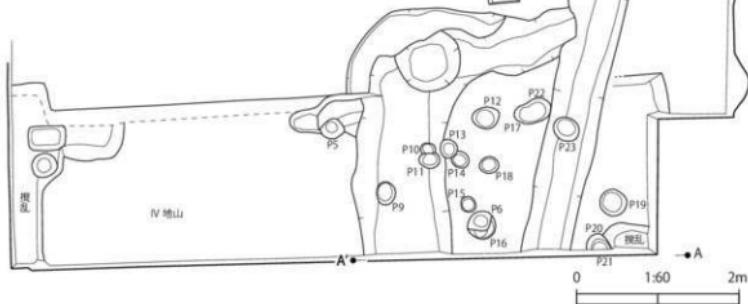
写真図版1 中尊寺跡第92次発掘調査区全体（北東から）



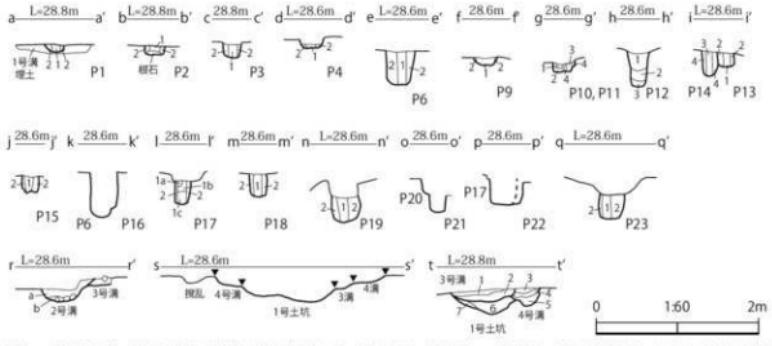
第3図 平面図（2） 柱穴プラン図（1/80）



第4図 断面図（1）（1/60）



第5図 平面図（3）南側遺構完掘（1/60）

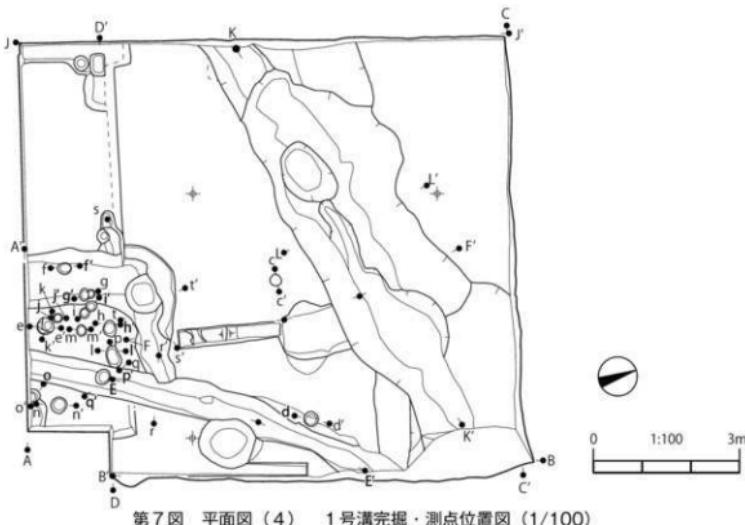


| 品種名 | 品種名 | 品種名 | 品種名 | 品種名 | 品種名 |
|--------------------|---------------------------------------|---|---|-------------------------------------|--|
| b 25YR2E/2黒桃シルト | c 2.57-3.47地山コブック粘土20%混入 沖縄産くるくる愛蜜 | d 25YR2E/2黒桃シルト+黒色文化土3-10mmで20%混入 カわらねの片上土 | e 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土10mmで20%混入 | f 25YR2E/2黒桃シルト+3-20mmの黒色文化土3%混入 | g 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土5mmで20%混入 |
| 3等苗 | | | | | |
| b 25YR2E/2黒桃シルト | c 2.57-3.47地山コブック粘土20%混入 沖縄産くるくる愛蜜 | d 25YR2E/2黒桃シルト+黒色文化土3-10mmで20%混入 カわらねの片上土 | e 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土10mmで20%混入 | f 25YR2E/2黒桃シルト+3-20mmの黒色文化土3%混入 | g 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土5mmで20%混入 |
| 4等苗 | | | | | |
| b 25YR2E/2黒桃シルト | c 2.57-3.47地山コブック粘土20%混入 沖縄産くるくる愛蜜 | d 25YR2E/2黒桃シルト+黒色文化土3-10mmで20%混入 カわらねの片上土 | e 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土10mmで20%混入 | f 25YR2E/2黒桃シルト+3-20mmの黒色文化土3%混入 | g 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土5mmで20%混入 |
| 4等苗 | | | | | |
| b 25YR2E/2黒桃シルト | c 2.57-3.47地山コブック粘土20%混入 沖縄産くるくる愛蜜 | d 25YR2E/2黒桃シルト+黒色文化土3-10mmで20%混入 カわらねの片上土 | e 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土10mmで20%混入 | f 25YR2E/2黒桃シルト+3-20mmの黒色文化土3%混入 | g 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土5mmで20%混入 |
| 4等苗 | | | | | |
| b 25YR2E/2黒桃シルト | c 2.57-3.47地山コブック粘土20%混入 沖縄産くるくる愛蜜 | d 25YR2E/2黒桃シルト+黒色文化土3-10mmで20%混入 カわらねの片上土 | e 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土10mmで20%混入 | f 25YR2E/2黒桃シルト+3-20mmの黒色文化土3%混入 | g 25YR2E/2黒桃シルト+2.57-4.16黄褐色コブック粘土5mmで20%混入 |
| 4等苗 | | | | | |

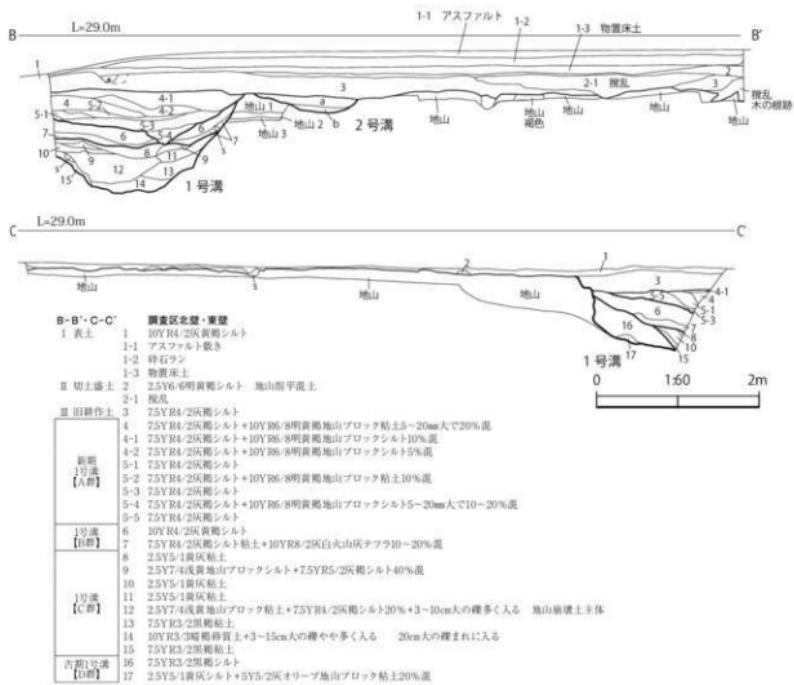
第6図 断面図(2) 柱穴・土坑・溝跡(1/60)

表2-1 柱穴

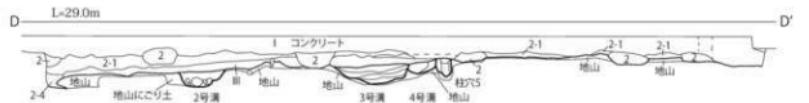
| 振方 | 形 | 柱頭部 | 厚 (cm) | 柱頭高 (mm) | 新旧関係 | 柱枝脚 | | 年代 |
|----|-------|-----|-----------|-------------|------|-------|---|--|
| | | | | | | 柱枝脚 | 柱頭部 | |
| 1 | 25×24 | 円 | 12 | 円 | 10 | 28.40 | 1>1清 | 1~2mmの黒色炭化物1%混 2>10YR3-3にい・黄褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+15~20mm大10%混 |
| | | | | | | | 2>10YR3-3にい・黄褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+20%混+炭化物1%混 | 不明 近世以降か |
| 2 | 25×22 | 椭円 | 11×12 | 円 | 4 | 28.44 | 1>2清 | 1~2mmの黒色炭化物1%混 2>10YR3-3にい・黄褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+15~20mm大10%混 |
| | | | | | | | 2>10YR3-3にい・黄褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+20%混+炭化物1%混 | 不明 近世以降か |
| 3 | 21×22 | 円 | 12×12 | 円 | 21 | 28.31 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 2>10YR3-3にい・黄褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+15~20mm大10%混 | 不明 近世以降か |
| 4 | 22×23 | 円 | 13×12 | 方形 | 13 | 28.26 | 4<2清 | 1>2清 |
| | | | | | | | 2>10YR3-3にい・黄褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+20%混 2>10YR3-3にい・黄褐色シート+2.57Y4-4にい・黄褐色シート+20%混 | 柱枝取りか 12cか |
| 5 | 28 | 円 | - | - | 27 | 28.27 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10清 2>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+5~10mm大10%混 2>10YR3-2黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+1.5~10mm大10%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 6 | 36×36 | 円 | - | - | 48 | 27.97 | 6<16 | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-2黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+3~5mm大の黒色炭化物2%混 10YR3-3(3)にい・黄褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+2.0~2.5mm大の黒色炭化物1%混 | 12cか |
| 7 | 18×17 | 円 | 10 | 円 | - | - | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10清 2>10YR3-2黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロックシート+10%混+10YR3-3黒褐色シート10% | 12cか |
| 8 | 8×8 | 方形 | - | - | - | - | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロックシート+10%混+10YR3-3黒褐色シート20%混 | 12cか |
| 9 | 19×25 | 椭円 | 12×11 | 円 | 30 | 28.18 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロックシート+30%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 10 | 13×13 | 円 | 8 | 円 | 27 | 28.13 | 10>11 | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロックシート+10%混+10YR3-3黒褐色シート20%混 | 12cか |
| 11 | 21 | 円 | 12 | 円 | 26 | 28.18 | 10>11 | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロックシート+10%混+10YR3-3黒褐色シート20%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 12 | 22×17 | 椭円 | - | - | 52 | 27.93 | - | 上位 10YR3-3(3)にい・黄褐色シート+2.57Y4-4にい・黄褐色シート+40%混 下位 10YR3-3(3)にい・黄褐色シート+40%混 |
| | | | | | | | 10YR3-3(3)にい・黄褐色シート+2.57Y4-4にい・黄褐色シート+10%混 10YR3-3(3)にい・黄褐色シート+10%混 | 12cか |
| 13 | 19×18 | 円 | 12 | 円 | 29 | 28.13 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+20%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 14 | 18×19 | 円 | 12×13 | 円 | 35 | 28.09 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+30%混 | 12cか |
| 15 | 16×17 | 円 | (10) | 円 | 21 | 28.23 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+10%混+1~2mm大の黒色炭化物1%混 2>2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+10YR3-3黒褐色シート30%混 | 12cか |
| 16 | 33×36 | 椭円 | 16×14 | 椭円 | 47 | 27.98 | 6<16 | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+30%+1~2mm大の黒色炭化物1%混 2>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+40%混 | 12cか |
| 17 | 25×19 | 椭円 | 10 | 円 | 41 | 28.05 | 17>22 | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+40%混 1b>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+40%混 1e>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+40%混 2>2.57Y4-6黄褐色地山ブロック粘土+10YR3-3黒褐色シート+40%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 18 | 21×21 | 円 | 12×12 | 円 | 29 | 28.15 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2~3mm大の黒色炭化物少混 10YR2-2黒褐色シート+10YR3-4淡黄地山ブロック粘土+20%混 | 土師器内 10c以降 |
| 19 | 28×26 | 円 | 14×14 | 円 | 60 | 27.80 | - | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+10%混+10YR3-3黒褐色シート+10%混 2>2.57Y4-6淡黄褐色地山ブロック粘土+10%混+10YR3-3黒褐色シート+10%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 20 | 28 | 円 | - | - | 44 | 28.18 | 20>21 | 1不明确 |
| | | | | | | | 2>2.57Y4-6淡黄褐色地山ブロック粘土+10%混+10YR3-3黒褐色シート+10%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 21 | 27 | 円 | - | - | 42 | 27.98 | 20>21 | 1不明确 |
| | | | | | | | 2>2.57Y4-6淡黄褐色地山ブロック粘土+10%混+10YR3-3黒褐色シート+10%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 22 | 18 | 円 | - | - | 39 | 28.03 | 17>22 | 1不明确 |
| | | | | | | | 2>2.57Y4-6淡黄褐色地山ブロック粘土+10%混+10YR3-3黒褐色シート+10%混 | 柱わらけ出土 12cか |
| 23 | 29×30 | 円 | 10 | 円 | 52 | 27.88 | 23>28 | 1>2清 |
| | | | | | | | 1>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+10%+2~3mm大の黒色炭化物1%混 2>10YR3-3黒褐色シート+2.57Y4-4淡黄地山ブロック粘土+10%+2~3mm大の黒色炭化物1%混 | 12cか |



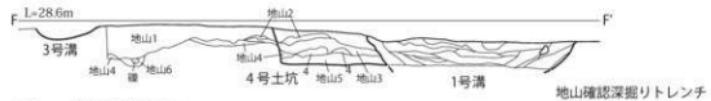
第7図 平面図(4) 1号溝完掘・測点位置図(1/100)



第8図 断面図(3) (1/60)

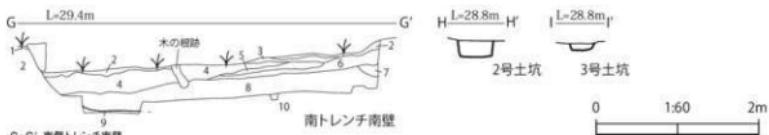


調査区南壁断面<拡張前>



F-F' 地山確認深掘りレンチ

- 地山1 10YR7.8黄褐色-2.5Y6.0明黄色粘土 所々に10YR4/2灰黄泥シート植物根の痕跡あり 地山
地山2 7.5YR2/2灰褐色-2.5Y6.0明黄色粘土 地山
地山3 10YR6.4赤い黄泥シート 地山
地山4 7.5YR4/2灰褐色シート 色灰色が濃い 地山
地山5 10YR6.4赤い黄泥シート 地山
地山6 7.5YR4/2灰褐色シート+7.5YR6.0赤褐色地山ブロック粘土20%度+碎質上10%度 水穴の跡み(自然流路)



G-G' 南側トレーン・南壁

- 1 10YR4/2灰褐色シート 土壌
2 10YR4/3に近い黄泥シート 密な細かな砂質分を含む河川堆積土を盛土したもの
3 10YR3/1黑褐色シート 土壌
4 10YR3/1黑褐色シート 近現代の陶器類を含む盛土
5 7.5YR3/1黑褐色シート+10YR4/3に近い黄泥シート30%混
6 10YR3/2黑褐色シート+7.5YR4/2灰褐色シート2cm大で30%混
7 7.5YR4/2灰褐色シート+10YR3/2灰褐色シート30%混 破損した骨頭
8 2.5Y7/4浅黄褐色地山ブロック粘土+7.5YR4/2灰褐色シート40%混 地山の切土土壌上
9 2.5Y7/4浅黄褐色 地山
10 露天
11 10YR3/1黑褐色シート 木根跡

第9図 断面図(4) (1/60)

表2-2 遺構 土坑

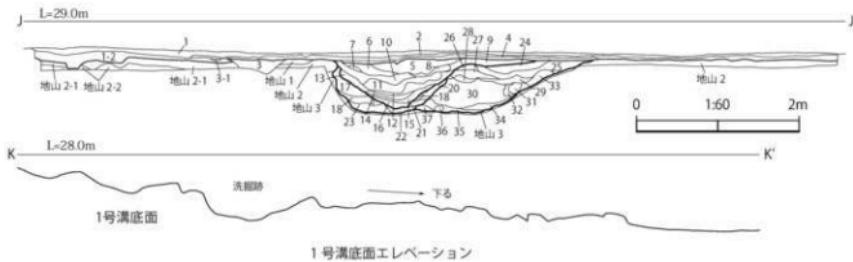
| | 長軸m | 短軸m | 平面 | 断面形 | 深さm | 底面標高(m) | 新旧関係 | 堆土・備考 | 年代 |
|------|------|------|-----|-----|------|---------|------------------|---|------|
| 1号土坑 | 0.80 | 0.80 | 円 | 直形 | 0.34 | 28.05 | 2号溝>3号溝>4号溝>1号土坑 | 上段:灰黒シート 下段:灰黒シート+明黄色粘土ブロック粘土30~40%混 地山: 7.5YR2/2灰褐色土+土体+2.5Y7/4浅黄褐色地山ブロック粘土2~3cm厚の隙間 | 12c |
| 2号土坑 | 0.45 | 0.54 | 方形 | U字形 | 0.26 | 28.33 | — | 地山: 2.5Y7/4灰褐色-2.5Y6.0明黄色粘土地山+土体+2.5Y5/2灰褐色シート20%混 | 近現代 |
| 3号土坑 | 0.34 | 0.36 | 方形 | U字形 | 0.11 | 28.49 | — | 地山: 2.5Y7/4灰褐色-2.5Y6.0明黄色粘土地山+土体+2.5Y5/2灰褐色シート20%混 | 近現代 |
| 4号土坑 | 1.60 | 1.00 | 長方形 | U字形 | 0.44 | 28.05 | — | 地山: 2.5Y5/2灰褐色シート+2.5Y6.0明黄色粘土地山ブロックシート20%混 | 近代以降 |

表2-3 遺構 溝跡

| | 横出し長m | 幅m | 袖幅 | 断面形 | 深さm | 底面標高(m) | 新旧関係 | 堆土・備考 | 年代 |
|-----|-------|----------------------------|---------------|-----------|--|---|---------------------------|---|----------|
| 1号溝 | 9.60 | 2.40 新規 古跡 2.20以上 | N82°E | 逆台形 | 西端 0.40 東端 0.40 東端 1.21 | 西端 22.85 東端 27.08 新規1号溝>古跡1号溝 | 柱穴1-2>2号溝> 新規1号溝>古跡1号溝 | 上層(全層)に近い黄泥シート+地盤シート、砂質シート、炭化物少量混 中層(B群)从白一に近い黄褐色火山灰アラフ、二次的に堆積 下層(C群)上層10YR4/3に近い黄泥シートを主とし、下位に砂や砂質土の堆積 古跡(D群)黒褐色粘土+灰黄泥シートと地山ブロックの混土 | 9~10c |
| 2号溝 | 8.00 | 0.74 | N33°~ 43°E | 逆台形 | 北0.35 南0.20 | 北28.02 南28.25 | — | a:7.5Y3R2黒褐色-7.5Y4/6灰褐色シート+土体+2.5Y7/3浅黄褐色地 b:7.5Y3R2黒褐色シート+2.5Y7/4浅黄褐色地山ブロック粘土20%混 内 側壁に人骨頭部 北端:7.5YR4/2灰褐色シート 北端:ナメリ無く砂質が多くなる 1. 7.5YR4/3黒褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色地山ブロック粘土20%混 | 近現代 か |
| 3号溝 | 4.00 | 1.00 | N15°~ 90°E | 浅い U字形 | 0.26 | 南28.33 南28.32 | 2号溝>3号溝> 4号溝>1号土坑 | 1. 7.5YR4/3黒褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色地山ブロック粘土20%混 2. 10YR4/3に近い黄泥シート+2.5Y6.4に近い黄褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色地山ブロック粘土20%混 | 12c |
| 4号溝 | 2.00 | 0.50 以上 | 3溝と 直線 | 直形 | 0.22 | 中28.31 南28.35 | — | 3. 7.5YR4/3黒褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色地山ブロック粘土20%混 4. 7.5YR4/3黒褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色地山ブロック粘土20%混 5. 7.5YR4/3黒褐色シート+2.5Y6.4に近い黄褐色地山ブロック粘土20%混 | 12c |



写真図版2 調査区西壁 1号溝断面（南東から）

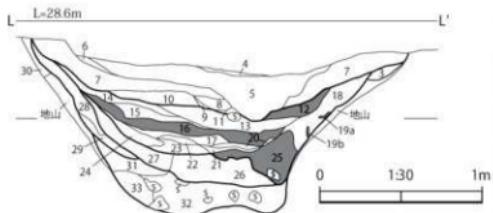


1号溝底面エレベーション

第10図 断面図(5) 調査区西壁：1号灌(1/60)



写真図版3 1号溝中央ベルト土層断面（東から）



第11図 断面図 (6) 1号溝 (1/30)

L-L' 新規1号溝 中央ベルト土層断面



写真図版4 1号溝完掘（東から）

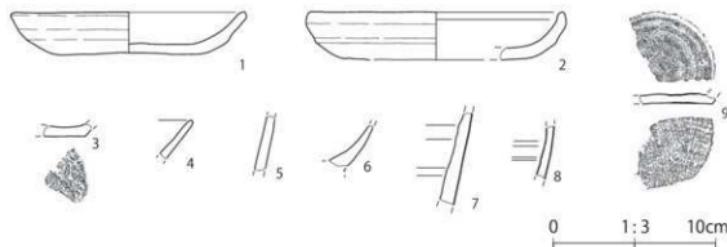


表3 遺物集計表

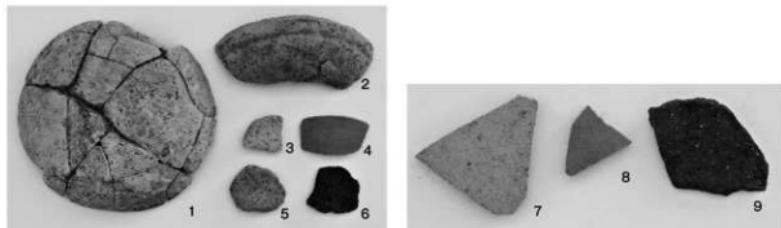
| 遺構・層位 | かわらけ | | | | 土師器 | 須恵器 | 中国産白磁 | 近世・近現代陶器等 | その他 |
|--------------|------|---|----|-----|-----|-----|-------|---------------|--|
| | 点数 | 手 | 口 | 不明 | | | | | |
| 柱穴5 柱頭跡 | 2 | | 2 | 1 | | | | | |
| 柱穴9 柱頭跡 | 1 | | 1 | 1 | | | | | |
| 柱穴14 柱頭跡 | 1 | | 1 | 10 | | | | | |
| 柱穴17 柱方棟出 | 1 | | 1 | 1 | | | | | |
| 柱穴18 柱頭跡 | | | | 1 | | | | | |
| 柱穴18 柱方 | 2 | | 2 | 1 | | | | | |
| 柱穴19 埋土 | 3 | 1 | 2 | 5 | | | | | |
| 柱穴21 柱頭跡 | 1 | | 1 | 1 | | | | | |
| 新開1号溝 A群(13) | | | | 2 | | | | | |
| 新開1号溝 墓土 | | | | 1 | | | | | |
| 2号溝 墓土 | 18 | 2 | 16 | 35 | | | | | 鉄製品1 |
| 3号溝 墓土 | 46 | 6 | 40 | 285 | | | | | |
| 表土・遺構外・括 | 10 | | 10 | 41 | 8 | | 白磁 2 | 陶器 6 磁器 18 | 近世瓦2、鉄製品3、鐵、鍬、石製硯、 鏡物(レンガ、プラスチック、ガラス瓶、鉢)等少量 |
| 合計 | 85 | 9 | 76 | 381 | 12 | 1 | 白磁 2 | 陶器 6 磁器 18 | |

表4 遺物観察表

| No | 図版 | 写真 国版 | 出土位置・層位 | 種類・形状 | 部位 | 法量(cm) | | | 残存率 (%) | 備考 (高さm) | 年代 | 台帳 |
|----|----|----------|----------------|-------|----------|--------|--------|----|------------|----------|-----------------------|----------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | 12 | 5 | 3号溝 1層 | かわらけ | 手づくね大形・皿 | 口径～底 | 14.5 | — | 2.4 | 95 | 内面サクラ紋装飾直 22片接合 突起 | 12c 50 |
| 2 | 12 | 5 | 3号溝 墓土 | | 手づくね大形・皿 | 体～底 | (16.0) | — | (2.6) | 20 | 一段接合ナデ | 12c 21 |
| 3 | 12 | 5 | 柱穴18 柱頭跡 | | 皿 | 底 | — | — | — | — | 破片 | 9～10c 24 |
| 4 | 12 | 5 | 柱穴18 柱頭跡 | 土師器 | 皿 | 口径～体 | — | — | — | — | 破片(27.87) | 9～10c 28 |
| 5 | 12 | 5 | 新開1号溝西～中央A群11層 | | 皿 | 底 | — | — | — | — | 破片(27.97) | 9～10c 36 |
| 6 | 12 | 5 | 新開1号溝堆上 | | 皿 | 体下 | — | — | — | — | 破片(27.61) | 9～10c 41 |
| 7 | 12 | 5 | 遺構外 | 中国産白磁 | 白磁・瓶 | 口径 | — | — | — | — | 須恵系 大形壺の破片 | 12c 45-2 |
| 8 | 12 | 5 | 車輪Ⅱ期 | 土師器 | 白磁・瓶 | 口径 | — | — | — | — | 須恵系 破片 | 12c 2-2 |
| 9 | 12 | 5 | 新開1号溝西～中央A群11層 | 須恵器 | 环 | 底部 | — | — | — | — | 底面ヘラ溝整(27.55) | 9c 37 |



第12図 出土遺物 (1/3)



1・2かわらけ (外面)

3~6土師器

7・8中国産白磁

9須恵器

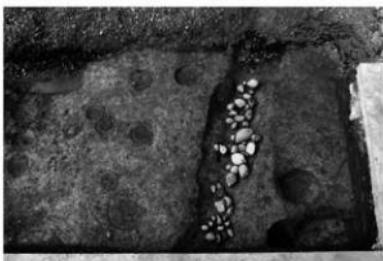
写真図版5 遺物



1 南側拡張部全体（北から）



2 2号溝暗渠・礫検出（南東から）



3 南側拡張部柱穴プランと暗渠礫（南から）



4 南側拡張部遺構完掘（南から）



5 南側トレンチ（北西から） 奥は高館山



6 1号土・3号溝・4号溝断面（北東から）

写真図版6

中尊寺跡第94次発掘調査

1 調査要項

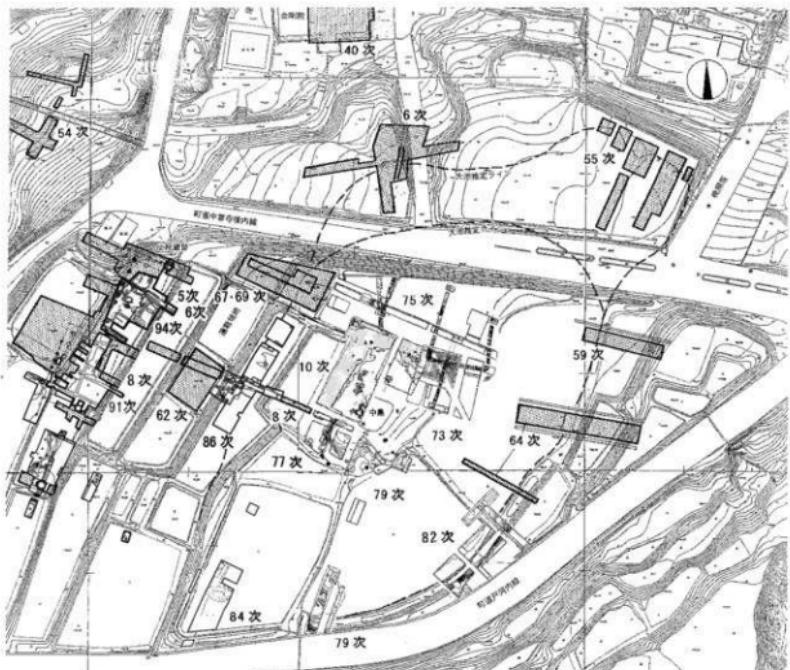
地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字衣闌94番
 調査面積 100 m²
 調査期間 令和元年10月9日～12月3日
 原 因 内容確認調査
 調査担当 菅原計二・鈴木博之

2 位置と概要

本調査は「特別史跡中尊寺境内」のほぼ中央、12世紀の菟池伽藍跡である「伝大池跡」の西側高位面に当たる「伝小経蔵跡」の内容確認調査である。当地点は中尊寺本堂から南西に約200m、金色堂から南に約100mに位置し、地形は奥羽山脈から東に延びる小起伏丘陵の一つである関山の中腹に立地する。大池跡の北側は中尊寺参道の月見坂を境として南に下る緩斜面、南と東は関山丘陵を開削して東流する桜川の小谷地形によって区切られる。西側は標高約120mの丘陵斜面が緩斜面に移行する標高76～77mの段切り地形が境となる。大池跡西側高位面の調査は、平泉遺跡調査会(会長：藤島亥治郎東京大学名誉教授)による「伝小経蔵跡」と「伝小経蔵跡南方遺跡」を対象として昭和36年7～8月に試掘調査、昭和37・38年(1962・63)に「伝小経蔵跡」の全域と「伝小経蔵跡南方遺跡」の礎石・根石の確認地域を全掘している。平泉遺跡調査会(以下調査会)の報告書「中尊寺－発掘調査の記録－」(以下調査会報告書)では伝小経蔵跡の遺構について「礎石4個と礎石抜取跡5個所、縁東石抜取穴10個所、雨落溝2条を検出し、方三間廻り縁付で各辺7.5m(25尺)、うち中の間2.7m(9尺)、両端の間2.4m(8尺)、縁東までの出は1.5m(5尺)、雨落溝までは約2.55m(8.5尺)であることが分かった」と記述し「方三間四面庇または回廊付建物」と推定している。この後平成8(1996)年から17(2005)年度まで平泉町教育委員会による第1期内容確認調査を実施した。この調査により大池跡の菟池が奥州藤原氏時代に新旧二時期の護岸堤防を築き、12世紀前半の造営当初に東西約70m×南北約120mの



第1図 位置図 (1/5,000)



第2図 中尊寺大池跡周辺調査位置図（1/1,000）

規模であった大池の石敷護岸堤防を、12世紀後半には護岸の礫を取り除き、池の北側を埋め立てて南北約90mの規模に改修している。古期の池跡埋土からはハスの種子が複数出土し、この発芽と開花に長島時子恵泉女子短期大学名誉教授が成功して「大池ハス」と名付けられた。平成18（2006）年度からは第2期内容確認調査を行っている。平成29・30年（2018・2019）の88次調査は、昭和37・38年（6・8次※）調査の「伝小経蔵跡南方遺跡」のトレーナーを追跡して井戸跡や地業層を確認するとともに、新たに柱穴や溝跡、土坑を検出した。91次調査では12世紀の地業と建物跡の礎石や根石状の集石を確認し、新たに近世以降の造成土や柱穴を検出した。

本調査（94次）は「伝小経蔵跡」の東西13m×南北15mの範囲を対象とした。調査会が検出した礎石建物跡の造構を追跡して再確認すると共に東側の未調査の部分を掘削して新たな遺構や痕跡を確認することを目的とした。標高は西側の畑地が約70.4m、休耕中の水田面が約69.7m、東側の低位水田面が約69.2mである。調査の結果、伝古経蔵跡の礎石と根石並びに掘方とみられる痕跡の位置を再確認した（第4図）。

調査区は便宜的に5区画を設定した。トレーナー1（以下T1）は調査会が南北に並ぶ礎石を検出した地点、T2は調査会の東西トレーナーを追跡して斜面堆積土の土層や溝跡断面、礫などを検出した。T3はT2の北側を拡張した部分で礎石掘方を追跡して、埋め戻した遺構プランと年代不明の柱穴を検出した。T4近くの北東トレーナーでは建物軸線の本来の据え方から移動したとみられる礎石状の礫や玉石の集積を検出した。T4は東側拡張部としてこれまで未調査であった水田部分を掘り下げ、近

世以降とみられる溝跡4条を検出した。これは3号溝と仮称した窪みを含む。T5は調査区南側の東西トレンチで、柱穴1・柱穴2と旧地形の土層を確認した。T1西側の礎石掘方周囲やT3の土層観察用ベルト、T4の斜面堆積土の直上では人為的な地業とみられる整地を検出した。整地の検出範囲はわずかであるが88・91次調査で検出した小経蔵跡南方遺跡の地業層に酷似する。調査会報告書では「伝古経蔵跡南方遺跡」について「遺構は二重になっていることが判明した。」として礎石や根石・掘方の重複を把握したことを記述している。88次調査の西側地業層は、出土した手づくねかわらけの年代から12世紀中～後半の整地と推定されるが、調査会の見解を踏襲すれば複数の地業や整地の存在が想定される。遺物は12世紀のかわらけや瓦、国産陶器、中世や近世の陶磁器、旧地形斜面堆積土から縄文土器が出土した。調査の終了後、礎石や掘方等の遺構や地山検出面には不織布を敷き、掘削土を用いて埋め戻した。※中尊寺跡関連の通算調査次数

3 調査成果

遺構：[礎石建物跡] 級石3、掘方（礎石据え方並びに根石抜取穴跡）、地業層（整地）、溝跡4、柱穴3

遺物：[12世紀・中世] かわらけ、国産陶磁器（涅美・常滑・須恵器系）、中国産陶磁器、瓦

〔近世〕 瓦、陶磁器

〔その他〕 縄文土器、石器片、近現代陶磁器、鉄製品、礫、砥石、雑物（ガラス・ビニール等）

(1) 土層（第3図・表1）

当地点の層序は、主にT2東西トレンチとT5南側トレンチ並びにT4東側拡張部の深掘りトレンチで観察した。調査区の土層は大きく6層（I～VI）に分けられる。（I）は表土・畑耕作土と水田耕作土、畑斜面土、畦畔、水田の床土である酸化鉄分沈着土および搅乱を一括した。（II）は昭和37・38年調査のトレンチ掘りや耕作地の全面調査を終えた後の埋戻し土、（III）は調査区東側の近世陶磁器を含む斜面堆積土（III）で上位と下位に分けられる。（III2）は切土盛土による造成土、（III）と（IV）との間の遷移層を（III B）とした。（IV）は地業層で地山と旧地形堆積土を切土した混土が主体の人為的な整地とみられる層位である。（IV）は後世の削平でわずかに残存するのみだが、礎石の掘方がIVを明瞭に掘り込み、12世紀の大池伽藍に係わる広範囲の地業（I期）もしくは12世紀後半の伽藍建物改築に係わる地業（II期）、あるいは伝小経蔵跡の礎石建物の基盤構築に係わる整地（地業）の可能性がある。（V）は黒～黒褐を呈する自然堆積土で縄文土器片をわずかに含む。同様の層位を88・91次調査でも検出しており、当地の西側から東に下る斜面地形を開削した自然沢の窪みや低地に堆積した層位である。（VI）は地山である。シルトや粘土が主体でT3とT4の境界付近では礫や細かな砂質を含む層位がある。現場調査に当たっては、層序を（1）畑や水田耕作土、（2）水田床土・酸化鉄分沈着土、（3）埋戻し土、（4）近世以降の盛土造成土、（5）近世以降の耕作土、（6）耕作土と整地の遷移層、（7）整地・地業層、（8）黒色味が強い斜面地形堆積土、（9）地山としていたが、層序が隣接する91次調査区との整合を図るために層序の表記を一致させた。

(2) 遺構

礎石と掘方（礎石の掘方と根石および抜取穴）（第3図・表2-1・写真図版3）

「伝古経蔵跡」の建物跡の礎石と掘方並びに掘方に残る根石、および掘方を調査した痕跡を検出した。遺構の展開は調査会報告書の図38の平面図と一致する形で検出した。調査会は埋戻しに際して礎石の上に土を被せ、その上をビニールで覆い、掘方や根石などの遺構や地山検出面にはムシロを敷いた上に掘削土を乗せて埋め戻していた。

今回の調査ではこれが地山や遺構と埋戻し土の境界を判断する目安となった。遺構の表記は礎石建物跡の北西隅を起点として東西軸線方向（Y）に英小文字（a～f）、南北軸線（X）に算用数字を当て、

その交点を礎石や礎石抜取跡等の名称としており、本報告もこれに従った。第6図に模式図を示す。

調査会報告書では「伝小経蔵跡」の礎石建物の展開を「方三間四面庇または回廊付建物」と推定し「礎石4個と礎石抜取跡5個所、縁東石抜取穴10個所、雨落溝2条を検出し、方三間廻り縁付で各辺7.5m(25尺)、うち中の間2.7m(9尺)、両端の間2.4m(8尺)、縁東までの出は1.5m(5尺)、雨落溝までは約255m(85尺)であることが分かった。」と記述している。調査会報告書で「礎石抜取跡」、「縁東石抜取穴」と記載された遺構については、本報告では「掘方」として一括した。礎石と掘方の諸元を表2-1に示す。

礎 石 調査区西側のb列(b:4)・(b:5)・(b:8)の礎石3個が原位置を保つ形で検出した。(b:8)礎石は(b:6)掘方の南側に配置されており、礎石の大きさや掘方・根石の様相は他の礎石と同様である。礎石建物の展開として中間に(b:7)あるいは7列の遺構を想定して検出したが、遺構は確認されなかった。北東トレーナーで検出した礎石状の礎1個は本来の据え方から動いた様相で、いずれも調査会報告書の平面図(図38)と現状が一致する。西側b列で検出した3個の礎石はN20°Eの軸線で南北に直線上に並び、北西側の(b:4)と南側の(b:8)の2個の礎石上面には柱を据えた基準とみられる十字形の線刻がある。また礎石の標高はいずれも74.93mではなく水平である。北東トレーナーで検出した礎石状の礎は(e:1)の想定地点から北側にずれた位置にあり便宜的に(e:1北1)とした。調査会ではこの西隣りにもう一つの礎を確認しているが本調査では追跡していない。以下は列ごとの礎石と掘方の検出状況である。

建物軸線のa列は畠の野菜作付け中のために発掘対象から外し、b列から東側の遺構を追跡した。

b列は(b:4)礎石と(b:5)掘方を検出して、双方の掘方に根石が密着して保存されている様子を確認した。北側の(b:2)と(b:3)は掘削を行わずに表上からボーリング棒を刺突したところ、(b:3)では礎石の感触を得られたが、(b:2)では盛土が厚く被い、礎石の確認には至らなかった。(b:6)は前回調査の埋戻し土が壅みを被い、この下に根石(栗石)が残されていた。小経蔵跡の礎石は斜面地形を切土造成した(IV)地業層と地山を直径約1mの円形に掘り込み、これに拳大~人頭大の円礎を掘方周囲や下位に配して根石とし、黒褐シルトや浅黃地山ブロックシルトの混土と共に埋め戻している。検出した3個の礎石はこうした根石に密着する形で検出した。c列は(c:3)、(c:4)、(c:5)、(c:6)を検出した。いずれも礎石は無い。(c:3)と(c:6)では調査会が掘り下げた遺構底面の地山面からムシロを敷いた痕跡を確認した。(c:3)は掘方の平面プランが浅い壅みで残る。d列は(d:3)、(d:4)、(d:5)を検出した。いずれも礎石は無い。(d:3)では埋戻し土を取り除くと掘方の痕跡がほとんど判別できず、地山面に自然礎が残るのみであった。(d:4)でT2の埋戻し土を取り除くと、20cm大の礎1個を検出した。東西方向の調査トレーナーに沿って礎の南側半分を地山まで精査した様相で、礎は原位置を保つ形で埋め戻されていた。礎石建物に伴う根石の可能性を考慮して掘方の有無を観察したが、ここは2号溝とも重複する地点でもあり、平面検出時や断面の土層でも掘方と認められる痕跡は確認できなかった。北東トレーナーの(c:1)を想定した地点には礎石は無く、少し北側に本来の位置から移動されたとみられる大形の礎を確認した。調査会がこの地点で検出した2個の内の1つで、便宜的に(c:1北1)とした。礎の西側にもう一つの礎(c:1北2)があるが、本調査では追跡していない。礎の周囲や下位には拳大の円礎が多数集積し、これらは本来礎石や根石として据えられていたものを後世、耕作の支障となり取り除かれた礎をまとめた一群とみられる。礎の南側から昭和40年代以降の電柱工事に伴う鉄製のアンカーが出土した。建物跡関連の遺物は(b:5)の掘方埋土から12世紀のロクロと手づくねかわらけ(第13図3・8)、(b:4)と(b:6)の掘方からかわらけが各1片出土した。

柱穴(第3図・表2-2・写真図版5)

3個を検出した。T5南側トレンチの西側で柱穴1、同北壁で柱穴2、T3北側拡張部の東壁で柱穴3を検出した。柱穴2は深さ36cmを測る。柱穴1と柱穴3は平面検出にとどめた。掘方の直径は18~24cm大と小規模である。個々の検出位置が離れているため関連性は掴めない。出土遺物も無く年代も不明である。

溝跡(第9図・写真図版2)

4条の溝跡は全てT4東側拡張部で検出した。1号溝・2号溝・4号溝は層位と出土遺物から近世以降の耕作地に伴う溝跡と推定した。3号溝は礎石建物跡の(d:5)を想定した地点で検出したものの、掘方とは断定できず便宜的に溝跡の名称を与えた。年代は12世紀以降~近世と推定した。

1号溝 T4の南西から南にかけてL字形に検出した溝跡で、軸線はN120°E~202°Eで南側に向かう。西端は調査会により掘削し、埋め戻されていた。西側の延長は不明である。南側約5m先が調査会トレンチ、10m先が91次調査区であるが、溝跡の延長は検出されていない。開田や耕作等により失われた可能性がある。検出長3.00m、溝幅1.60m、深さ24cmを測り、断面形は逆台形もしくは深い皿形を呈する。底面標高は西側74.28m、南側74.04mで南側に下る。埋土は黒褐シルト主体である。かわらけ片が少量出土した。

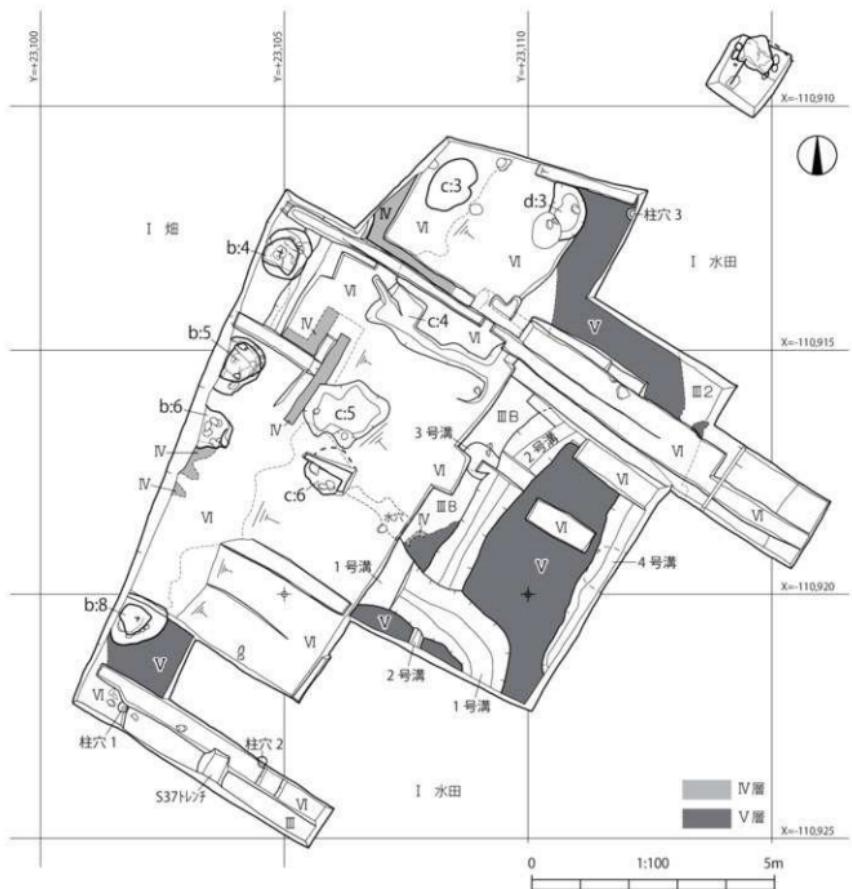
2号溝 北東~南西方向に伸びる溝跡でIV・V層の上で検出した。南側で1号溝に切られ、中央で3号溝を切る。北端はT2の埋戻し土や耕作土層と重複し、4号溝との新旧関係は不明である。検出長5.60m、溝幅0.90m、深さ27cmの規模で、N120°Eの軸線で東に下る。南側トレンチの北壁で脆弱な溝跡を検出し、底面標高は北74.15m、南74.22m、断面形は浅いU字形を呈する。埋土は黒褐シルトが主体である。

3号溝 T4の西側でN53°Wの軸線で梢円状に検出した。V層を掘込み、2号溝に切られる。検出長0.80m、溝幅0.30m、深さ0.08mの規模で、埋土は黒褐シルト主体である。この地点は礎石建物跡の(d:5)の想定地点に当たるが建物跡の掘方埋土と判断することは困難であった。出土遺物は無い。

4号溝 T4の調査区東側でN30°Eの軸線で南北方向に検出した。V層を掘込み北東側で2号溝と重複するものとみられるが、T2埋戻し土と斜面堆積土に被われ、新旧関係は不明である。中央部が旧トレンチに掘り込まれ、埋め戻されていた。検出長5.60m以上、溝幅1.35m、深さ35cmを測る。埋土は黒褐シルトが主体で、遺物はかわらけ4片と小礫が出土した。

(3) 遺物(第13・14図・表3-1・3-2・4写真図版6)

本調査で出土した遺物はかわらけ1732点(手づくね56・ロクロ32・不明1644)約3.8kg、国産陶器14点(12世紀常滑10・中世常滑2・12世紀渥美1・須恵器系1)、中国産陶磁器9点、瓦392点(近世瓦1点含む)、近世陶磁器(肥前産青磁・染付磁器他)、その他として繩文土器、鉄製品・鉄滓、礫、近現代陶磁器、雑物等が少量出土した。これらの遺物から特徴的な55点を抽出した。1~8はいずれも12世紀のかわらけで、3と8は(b:5)掘方埋土から出土したロクロと手づくねの破片である。9~22は国産陶器で9・10はT字形口縁の中世常滑壺、11~18・20・21は12世紀の常滑壺もしくは壺、19は渥美壺、22は須恵器系壺の破片である。23~31は中国産陶磁器で白磁3点(23碗、24・25壺)、青磁2点(26は12世紀の碗、27は14世紀の碗)、褐釉陶器4点(28~31同一個体・12世紀)である。32~48は瓦で、32・33・35~48は12世紀、34は近世とみられる還元炎焼成の丸瓦で表面に半光沢がある。49~52は肥前産や瀬戸の近世陶磁器、53~55は繩文土器の破片である。この他に遺構外から多数の礫が出土した。一辺25.6cm以上(特大)が1個、12.8~25.6cm未満(大)が30個、6.4~12.8cm未満(中)が119個、6.4cm未満(小)が773個、合計987個である(写真図版6)。検出した根石



第3図 遺構名称・平面土層図 (1/100)

表1 土層

層 内 容 (断面図9)

- I 表土 煙・水田 (1) (1-2他)
水田床土・酸化鉄分沈着土 (2)
- II 埋戻し土 (3) (3-1他)
- III 造成土 (4)
- IV 近世以降堆積土 (5)
- III B 遷移層 (6)
- V 地業層 (整地) (7) (7-1)
- V 旧地形堆積土 (8) (8-1他)
- VI 地 山 (9) (9-1他)

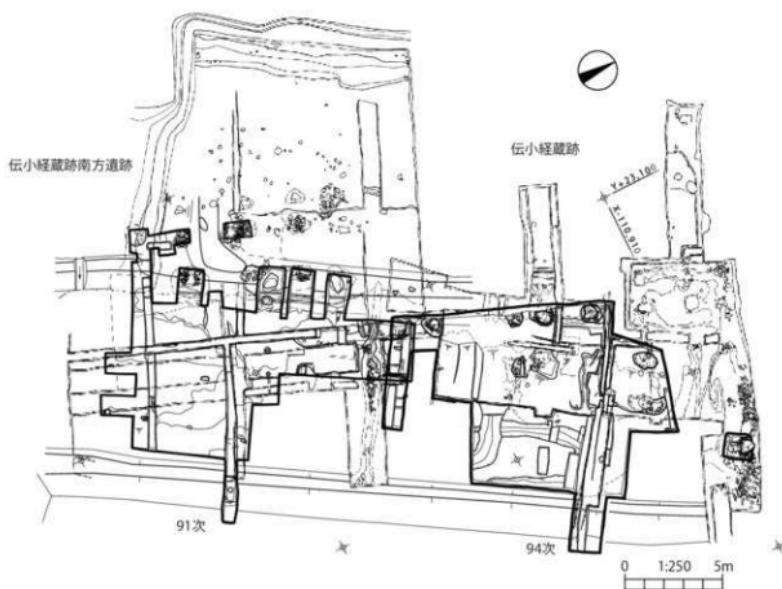
土色・土質 (年代等)

- 灰黄褐～にぶい黄褐色シルト・耕作土・搅乱・不明一括 (近現代)
灰褐色シルト + 褐色醸化鉄分20%混
にぶい黄褐色シルト～粘土地山ブロックと耕作土・旧表土等の混土 (調査埋戻し土)
近世以降造成土 にぶい黄褐色シルト + 黑褐色シルト + 灰黄褐色シルトの混土
にぶい黄褐色シルト主体 斜面堆積層 III-1 (5-1) 上位 III-2 (5-2) 下位
黒褐色シルト主体+灰黄褐色シルト20%混 かわらけ片少量混
オリーブ灰粘土～シルトと灰褐色シルト主体の混土 (12世紀の地業)
黒・黒褐色シルト～粘土 斜面地形の自然堆積土 自然流路含む (12世紀以前)
オリーブ灰～緑灰・浅黄～にぶい黄褐色シルト～粘土・細砂 自然地

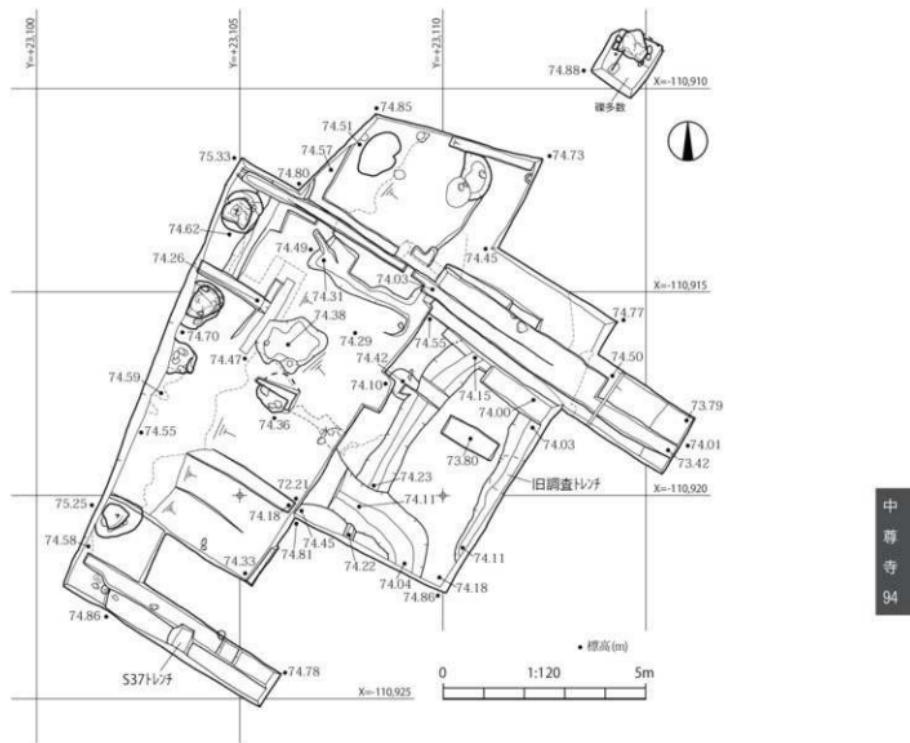
に似た形や石質の礫が多くみられるが、本來の用途や位置は不明である。礫には粘板岩も少量含まれていた。これらの礫は調査の終了後、T2東側の畦畔下に埋め戻した。

4まとめ

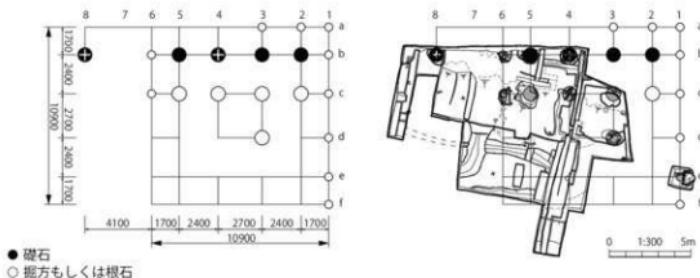
本調査は中尊寺大池跡西側に位置する「伝小経蔵跡」の内容確認調査である。調査の結果、礎石建物跡を検出し、礎石や掘方が良好に保存されていることを確認した。調査区西側と中央では人為的な整地（地業層）を検出した。これは「伝小経蔵跡南方遺跡」を含む西側高位面で施工された12世紀の礎石建物構築に係わる二時期の地業もしくは「伝小経蔵跡」の礎石建物に伴う基盤層（土壌）の可能性がある。礎石建物の（b:5）掘方埋土からは12世紀のかわらけが出土し、12世紀中頃～後半もしくはこれ以降の建築物と考えられる。本調査区の遺構外から13世紀の常滑窯の口縁が出土しているが、これは礎石建物跡と直接関連するものではない。今回の調査で礎石建物の所属年代を確定することはできないが、12世紀後半の可能性があると推定している。調査区東側のT4では、近世以降とみられる溝跡3条や溝状の窪み1か所を検出したほか、北側と南側調査区から年代不明の柱穴3個を検出した。遺物は12世紀のかわらけや国産陶器、中国産陶磁器、瓦のほか、中世から近世にかけての国産陶磁器、繩文土器などが少数出土した。



第4図 伝小経蔵跡・伝小経蔵跡南方遺跡 検出遺構合成図 (1/250)



第5図 平面完掘図 (1/120)

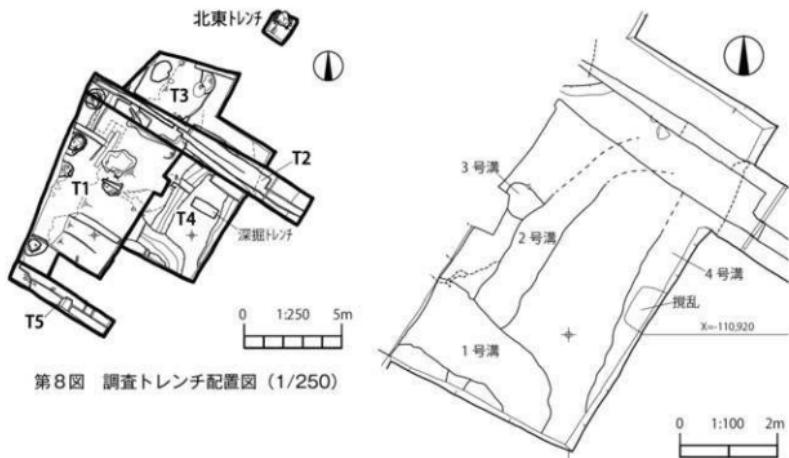


第6図 位

第6図 伝小経藏跡模式図

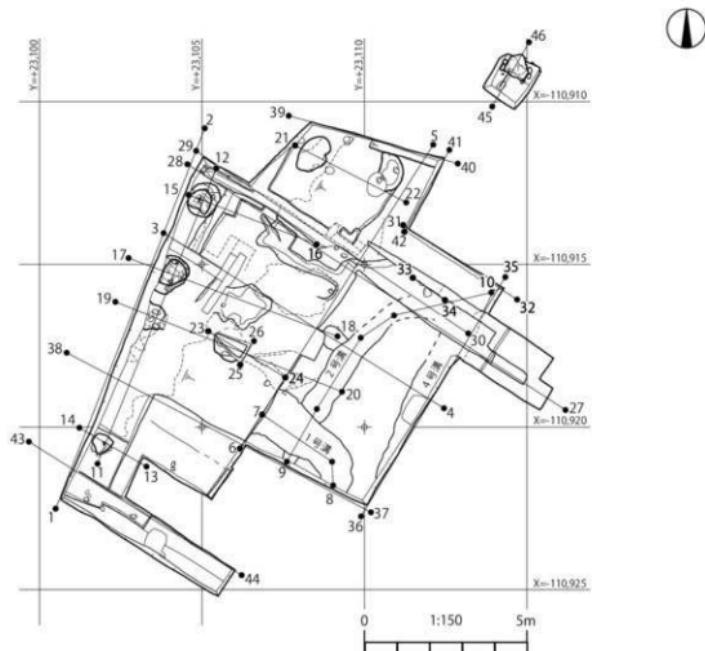
第7図 検出構造・模式図合成

模式図は平泉遺跡調査会「中尊寺－発掘調査の記録－」図38を元に作図

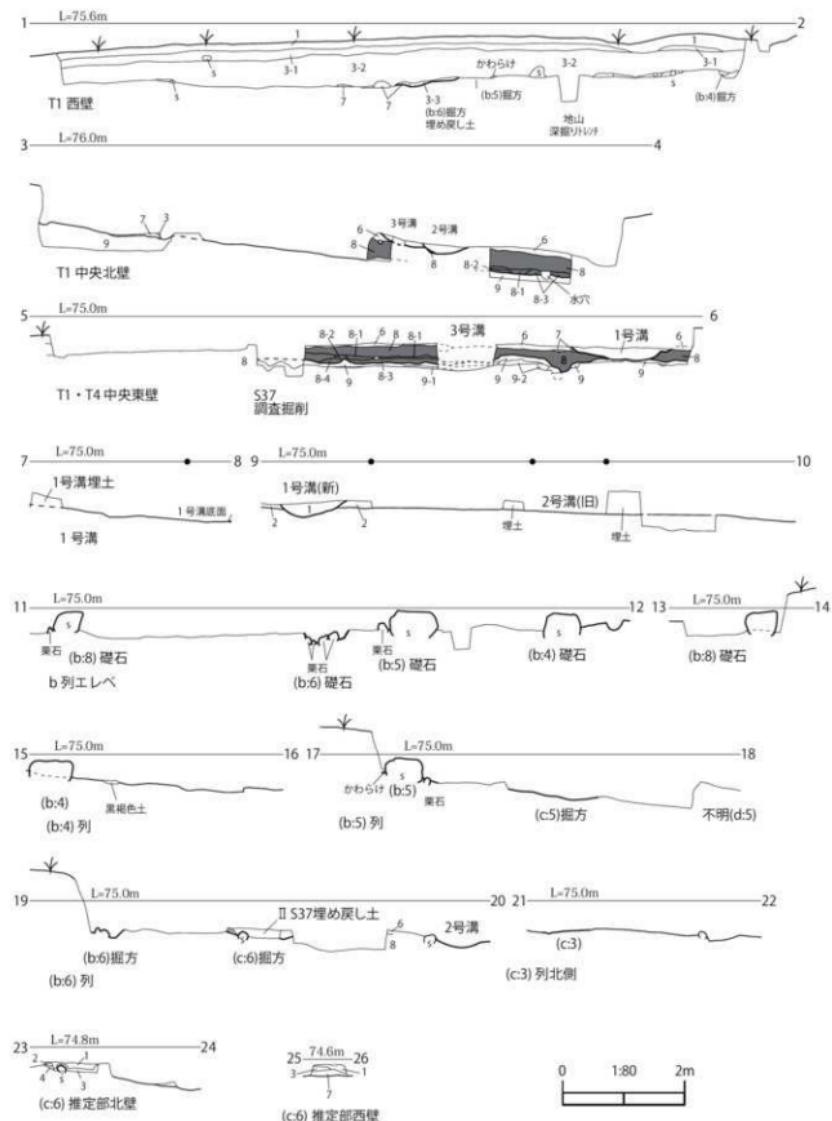


第8図 調査トレンチ配置図 (1/250)

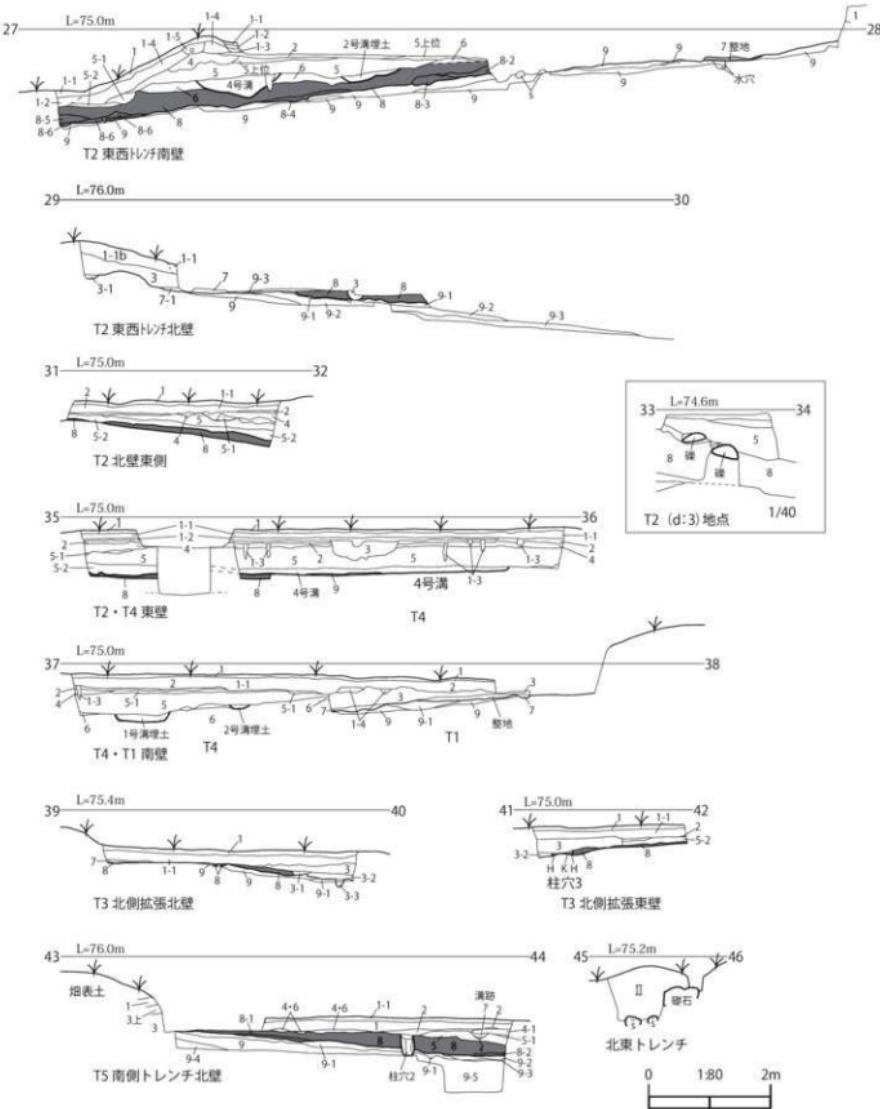
第9図 溝跡検出プラン図 (1/200)



第10図 測点位置図 (1/150)

中
尊
寺
94

第11図 断面図(1) (1/80)



第12図 断面図(2) (1/80・33-34 1/40)

表2-1 碓石建物跡 碓石・掘方

| 磚石 (東西×南北m) | 平面形 | 掘方 (東西×南北m) | 平面形 | 深さ (cm) | 底面標高 (m) | 掘方土質(地盤:地山ブロック) | 備考 |
|--------------------|-------|--------------------------|------|------------|-------------|---|--|
| b:2 有り#1 | 未確認 | — | — | — | — | — | 未確認 |
| b:3 有り#1 | 未確認 | — | — | — | — | — | ボーリング棒の柄穴で存在を確認 |
| b:4 0.73×0.65 | 不整五角形 | 1.00×1.04 | 円 | 未掘 | 未掘 | 10YR3/1黒褐色シルト+2.5Y6/4 に2m黄褐色シルト-2m大30% +10YR4/2灰褐色シルト20% | 礎石上面標高4.93m 柱当たりに十字縞模様(東西14×南北18cm) 掘方現石6個 磚石に寄せ |
| b:5 1.24× | 不整稍円 | 南北1.24m | 稍円 | 未掘 | 未掘 | 10YR3/1黒褐色シルト+2.5Y6/4 に2m黄褐色シルト-2m大30% +10YR4/2灰褐色シルト20% | 礎石上面標高4.93m 礎石表面剥離 掘方現石8個 磚石に寄せ |
| b:6 無し | — | 0.84×0.65m上 | 不整円 | 31 | 74.39 | 2.5Y6/4に2m黄褐色シルト+ 10YR3/2黒褐色シルト30% +10YR4/2灰褐色シルト10-20% 現 磚石残存 | 掘方の充満土 塗刷の調査で検査 掘方周囲に現石残存 上の2箇は埋戻し の際に混入 |
| b:7 無し#3 | — | — | — | — | — | — | b:6#5-1.3mの地点に7列の遺構を想定したが遺構の跡跡無し |
| b:8 0.62×0.60 | 不整五角形 | 1.20×1.06 | 稍円 | 未掘 | 未掘 | 10YR3/2黒褐色シルト主体 | 礎石上面標高 74.93m 柱当たりに十字縞模様(東西11×南北11cm) 掘方現石5個 磚石建物跡の面に位置 掘方周囲に幾つか分集積 |
| c:3 無し | — | 0.86×1.36 | 稍円 | — | — | II(埋戻し土が被う) | 掘方地山面上にミクロ検出 埋戻調査の埋戻し土はそのまま残した |
| c:4 無し | — | 不明 | 不整形 | — | — | II(埋戻し土が被う) | 浅く不整形な窪み 掘方埋戻し面上にミクロ検出 形状不明 |
| c:5 無し | — | 1.75×1.40 | 不整形 | — | 74.38 | II(埋戻し土が被う) | 全体浅く細かな不整形な窪み |
| c:6 無し | — | 1.70×1.40 | 不整稍円 | — | — | II(埋戻し土が被う) | 北側未掘 南側は埋戻調査の埋戻し土 |
| d:3 無し | — | 0.57×0.75 北東0.76×1.16 | 稍円 | 一部未掘 | 北東74.38 | II(埋戻し土が被う) | 全体直線的な窪み |
| d:4 無し | — | — | — | — | — | — | 想定地点に埋戻し土が残存 磚石建物との関連不明 |
| d:5 無し | — | — | 不明 | — | — | — | 3号溝の検出地点と重なる 関連不明 |
| d:6 無し | — | — | — | — | — | — | — |
| e:1北1 0.70×0.70 | 不整円形 | — | — | — | — | II(埋戻し土が被う) 本來の掘方から移動か | 北東トレンチ (e:1) 想定地点の北側 周囲に根石群の複数枚 西側の標(e:1北2)は未確認 |

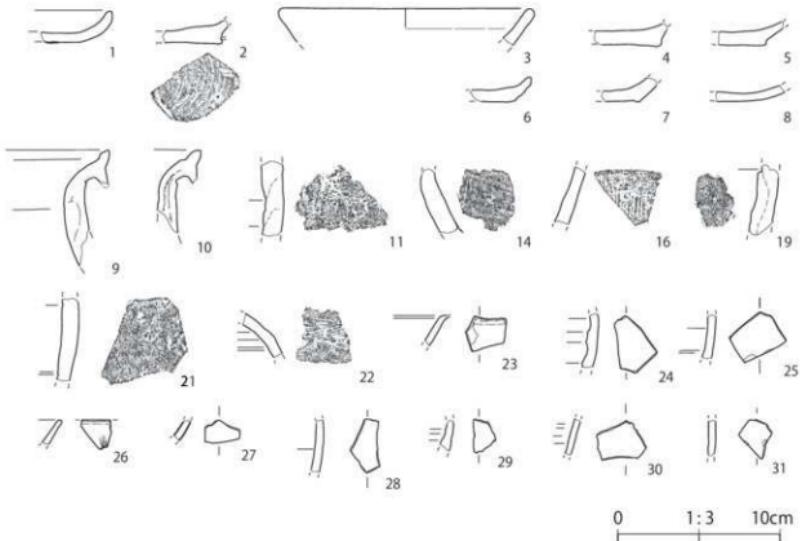
※1 調査会報告書による ※2 a列未確認 ※3 7列は全ての想定地点で遺構は確認されなかった

表2-2 柱穴

| 位置 | 掘方 (cm) | 形 | 柱根跡 (cm) | 形 | 深さ (cm) | 底面標高 (m) | 新旧関係 | 埋土・備考 | 年代 |
|---------|------------|----|-------------|----|------------|-------------|------|---|----|
| 1 T5 | 23×18 | 稍円 | 10 | 円 | 未掘 | — | — | 1 柱根跡: 10YR3/1黒褐色シルト主体+7.5Y6/2灰オリーブシルト5%混 2 埋 方 7.5Y6/2灰オリーブシルト+10YR3/1黒褐色シルト30%混 平面検出のみ | 不明 |
| | 22 | 円 | 10 | 円 | 36 | 74.20 | — | 1-1上位理上: 10YR3/2黒褐色シルト+地山ブロック50%混 1 柱根跡: 10YR3/2黒褐色シルト主体 2 埋 方 10YR3/1黒褐色シルト | 不明 |
| 3 | T3 | 24 | 円 | 13 | 円 | 未掘 | — | 1 柱根跡: 埋戻西側予子を検出 平面検出のみ 2 埋 方 7.5Y6/2灰オリーブシルト地山ブロック+10YR3/1黒褐色シルト30%混 | 不明 |

表2-3 溝跡

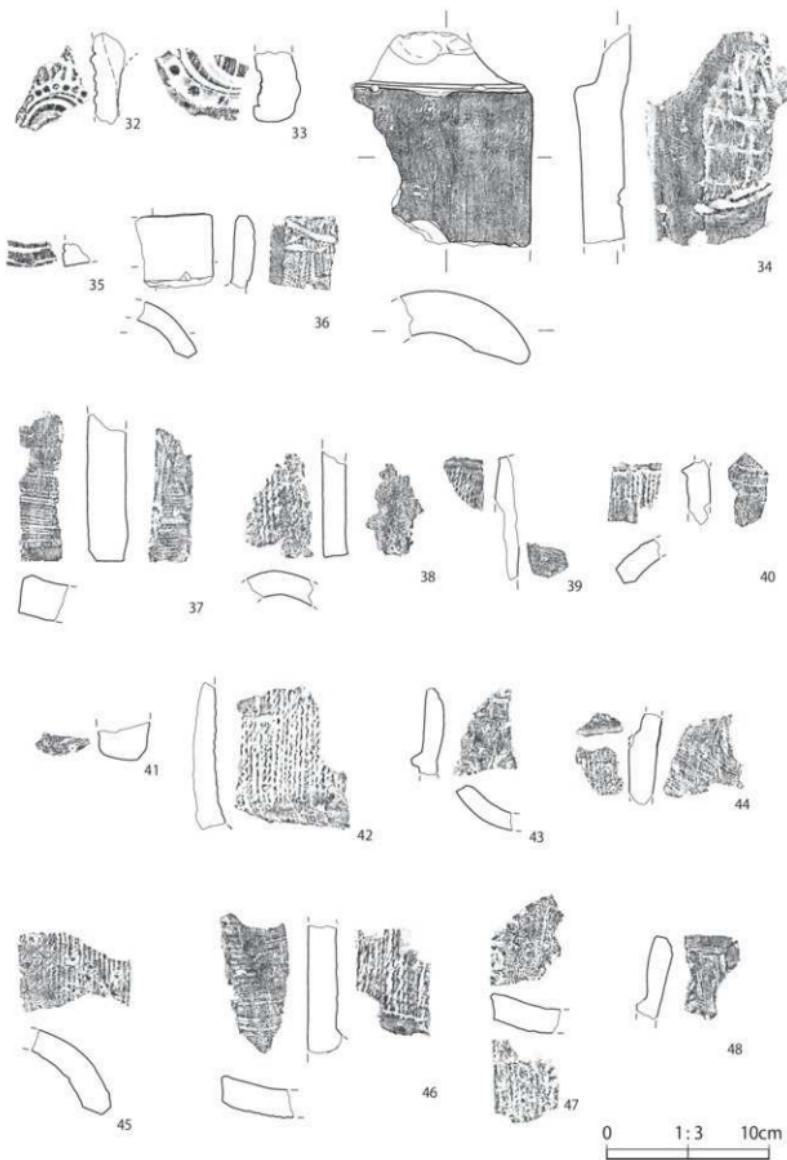
| | 検出長m | 幅m | 地緯 | 断面形 | 深さ cm | 底面標高 (m) | 新旧関係 | 埋土・備考 | 年代 |
|-----|--------|--------|------------------|------------|----------|------------------|--|--------|----|
| 1号溝 | 3.60 | 1.60 | N120°E~ 202°E | 直形 | 22 | 西74.28 南74.04 | 埋:10YR2/3黒褐色シルト主体+黒粘土ブロック1-2cm大3%+砂質1%混 軸轍:北西から東方向へ屈曲 | 近世以降 | |
| 2号溝 | 5.50以上 | 0.90 | N31°~92°E | 直形 | 27 | 北74.15 南74.22 | 埋:1:10YR2/2黒褐色シルト 中位黑色炭化物微量混 下段黒褐色シルト 軸轍:南から北東へ下る | 近世以降 | |
| 3号溝 | 0.70 | 0.60 | N53°W | 浅V U字形 | 14 | 74.42 | 埋:1:10YR3/2黒褐色シルト主体 磚石検出地点で検出した深みを溝跡と仮称 掘方埋土とは想定できず | 12世紀以降 | |
| 4号溝 | 5.00以上 | 0.40以上 | N30°E | 邊台形 ~直形 | 35 | 北南 | 埋:1:10YR3/2黒褐色シルト 北東側は2号溝と重複か T2に切られ新旧関係は不明 | 近世以降 | |



第13図 出土遺物(1) (1/3)

表3-1 遺物観察表

| No. | 銘版 | 写真銘版 | 出土位置・層位 | 種類・形状 | 部位 | 法量(cm) | | | 残存率 (%) | 備考 | 年代 c | 台帳 |
|-----|----|-------|-----------|--------|----|--------|----|----|---------|------------------------|-------|-------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | 13 | 6 | T1 1層 | 手づくね大形 | 皿 | 口縁~底 | — | — | 30 | 磁片 外周付着物 | 12 | 7 |
| 2 | 13 | 6 | T1 3層 | ロクロ | 皿 | 底部 | — | — | — | 磁片 底部削軋系切刃 | 12 | 68 |
| 3 | 13 | 6 | b:5 極方板出面 | ロクロ大形 | 皿 | 口縁 | — | — | — | 磁片 検定口径15.6cm | 12 | 81 |
| 4 | 13 | 6 | T2 5層 | ロクロ小形 | 皿 | 口縁~全体 | — | — | — | 磁片 | 12 | 55 |
| | | | | ロクロ小形 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 127 |
| 5 | 13 | 6 | T4 南西 | ロクロ小形 | 皿 | 体下 | — | — | — | 磁片 | 12 | 79 |
| 6 | 13 | 6 | T5 3層 | ロクロ小形 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 98 |
| 7 | 13 | 6 | 1号溝 球土中 | 手づくね | 皿 | 全体 | — | — | — | 磁片 厚約5mm | 12 | 138 |
| 8 | 13 | 6 | b:5 極方板出面 | 常滑 | 皿 | 口縁~底 | — | — | — | 9-10同一個体 口縁T字形 中世常滑 | 13 | 5 |
| 9 | 13 | 6 | T1南 1層 | 常滑 | 皿 | 口縁~底 | — | — | — | — | 13 | 83-2 |
| 10 | 13 | 6 | T1 1層 | 常滑 | 皿 | 底 | — | — | — | 磁片 | 12 | 146-2 |
| 11 | 13 | 6 | 1道橋外 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 20-2 |
| 12 | 6 | T4 1層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 3-2 | |
| 13 | 6 | T2 2層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 54-2 | |
| 14 | 13 | 6 | T2 5層 | 常滑 | 皿 | 底 | — | — | — | 磁片 | 12 | 52-3 |
| 15 | 6 | T1 3層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 68-2 | |
| 16 | 13 | 6 | T1 3層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 外縁 磁子状突起 | 12 | 57-2 |
| 17 | 6 | T4 3層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 106-2 | |
| 18 | 6 | T4 5層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 146-2 | |
| 19 | 13 | 6 | 1道橋外 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 磁片 | 12 | 133-2 |
| 20 | 6 | T5 3層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 内底スリ面有り | 12 | 52-2 | |
| 21 | 13 | 6 | T1 3層 | 常滑 | 皿 | 側 | — | — | — | 壁位ヘラ状調整痕 | 12 | 41-2 |
| 22 | 13 | 6 | T4 南東 3層 | 須磨郡系 | 皿 | 底 | — | — | — | 底状文四耳垂破片 | 12後 | |



第14図 出土遺物(2) (1/3)

表3-2 遺物観察表

| No. | 国版 | 写真国版 | 出土位置・層位 | 種類・形状 | | 部位 | 法量(cm) | | | 残存率(%) | 備考 | 年代 c | 台帳 |
|-----|----|------|-----------|--------|------|------|--------|-----|----|--------|--------------|---------|-------|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 23 | 13 | 6 | T1 1層 II | 白磁 | 碗 | 口縁~体 | — | — | — | — | 白磁碗V-1 磚片 | 12 | 28-2 |
| 24 | 13 | 6 | T2東3層 | 白磁 | 壺 | 胴 | — | — | — | — | 白磁壺II系 磚片 | 12 | 30-2 |
| 25 | 13 | 6 | T4 1層 | 白磁 | 壺 | 胴 | — | — | — | — | 白磁壺系 磚片 | 12 | 20-3 |
| 26 | 13 | 6 | T1 1層 | 青磁 | 碗 | 口縁 | — | — | — | — | 青瓷碗I-6 外面繪日文 | 12 | 25-3 |
| 27 | 13 | 6 | T4 1層 | 青磁 | 碗 | 体 | — | — | — | — | 青瓷碗I-1 磚片 中世 | 14 | 16-2 |
| 28 | 13 | 6 | T1 1層 II | 褐釉陶器 | 壺 | 胴 | — | — | — | — | — | — | 12 |
| 29 | 13 | 6 | T4 5層 II | 褐釉陶器 | 壺 | 胴 | — | — | — | — | 磚片 28~31同一個体 | 12 | 51-2 |
| 30 | 13 | 6 | T4 5層 III | 褐釉陶器 | 壺 | 胴 | — | — | — | — | — | — | 12 |
| 31 | 13 | 6 | T4 5層 III | 褐釉陶器 | 壺 | 胴 | — | — | — | — | — | — | 12 |
| 32 | 14 | 6 | T4 5層 III | 軒瓦 | 瓦当 | — | — | 1.3 | — | — | 陽刻網目連珠:巴文 磚片 | 12 | 49 |
| 33 | 14 | 6 | I 造標外 | 軒瓦 | 瓦当 | — | — | 2.5 | — | — | 陽刻連珠:巴文 磚片 | 12 | 150 |
| 34 | 14 | 6 | 北側延塗 II | 近狀丸瓦 | 胴~玉縁 | — | — | 2.5 | — | — | 磚片 | 近世 | 139 |
| 35 | 14 | 6 | 1号溝 墓土中 | 軒瓦 | 瓦当 | — | — | — | — | — | 陽刻:巴文 磚片 | 12 | 73 |
| 36 | 14 | 6 | T4 5層下位 | 丸瓦 | 玉縁 | — | — | 1.1 | — | — | 磚片 | 12 | 59-4 |
| 37 | 14 | 6 | T4 1層 | 平瓦 | 瓦当 | — | — | 2.3 | — | — | 磚片 | 12 | 20-7 |
| 38 | 14 | 6 | 西側 II | 丸瓦 | 玉縁 | — | — | 1.4 | — | — | 磚片 | 12 | 61-3 |
| 39 | 14 | 6 | T1 1層 I | 丸瓦 | 胴 | — | — | — | — | — | 磚片 | 12 | 68-5 |
| 40 | 14 | 6 | II b6付近 | 丸瓦 | 胴 | — | — | — | — | — | 磚片 | 12 | 113-2 |
| 41 | 14 | 6 | II | 瓦当 | 胴 | — | — | 2.8 | — | — | 磚片 | 12 | 118-3 |
| 42 | 14 | 6 | I-II-延 | 軒平瓦 | 胴 | — | — | 1.4 | — | — | 磚片 | 12 | 122-2 |
| 43 | 14 | 6 | T4南西 II | 丸瓦 | 玉縁 | — | — | 1.1 | — | — | 磚片 | 12 | 127-2 |
| 44 | 14 | 6 | II | 丸瓦 | 胴 | — | — | 1.6 | — | — | 磚片 | 12 | 133-4 |
| 45 | 14 | 6 | I 造標外 | 丸瓦 | 胴 | — | — | 1.9 | — | — | 磚片 | 12 | 141-2 |
| 46 | 14 | 6 | II | 軒平瓦 | 胴 | — | — | 1.8 | — | — | 磚片 | 12 | 140 |
| 47 | 14 | 6 | I 造標外 | 平瓦 | 胴 | — | — | 1.5 | — | — | 磚片 | 12 | 150 |
| 48 | 14 | 6 | I 造標外 | 丸瓦 | 玉縁 | — | — | 1.4 | — | — | 磚片 | 12 | 150 |
| 49 | 6 | 6 | T4 5層 III | 肥前焰器 | 輪鉢 | 体 | — | — | — | 6 | 磚片 | 18 | 45 |
| 50 | 6 | 6 | T4 5層 III | 灘瓦陶器 | 碗 | 口縁~体 | — | — | — | 6 | 磚片 | 18 | 46 |
| 51 | 6 | 6 | T4 5層 III | 肥前焰器 | 碗 | 体 | — | — | — | 4 | 磚片 | 18 | 47 |
| 52 | 6 | 6 | T4 5層 III | 肥前染付焰器 | 粗 | 底 | — | — | — | 4 | 外面染付 | 18 | 106 |
| 53 | 6 | 6 | T4 8層 V | 深鉢 | — | 胴 | — | — | — | 27 | 磚片 | 縦文 | 63 |
| 54 | 6 | 6 | T4 8層 V | 深鉢 | — | 胴 | — | — | — | 45 | 磚片 | 縦文 | 64 |
| 55 | 6 | 6 | T2 8層 V | 深鉢 | — | 胴 | — | — | — | 47 | 磚片 | 縦文 | 65 |

表4 遺物集計表

| 地點 | 遺構・削除 | 層位 | かわらけ | | | 因産陶器 | | | 中国産陶器 | | | 瓦 | 近世陶器 | 近現代陶器 | 石 | その他 | | |
|-------|--------------------------------|----|------|----|----|------|-------|----|-------|-----|----|----|------|-------|--------------|------------------|---|---------------------|
| | | | 点数 | 手 | 口 | 不明 | 重量(g) | 常滑 | 源銘 | 忠應系 | 白磁 | | | | | | | |
| 礫石 | b:4 | 瓶 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | |
| | b:5 | 瓶 | 22 | 9 | 2 | 11 | 78 | | | | | | 2 | | | | | |
| | b:6 | 瓶 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | 1号溝 | 埋土 | 67 | 3 | 3 | 47 | 165 | | | | | 21 | | | 38 | 鉄製品1、鉄洋1、砾石1、土塊2 | | |
| | 2号溝 | 埋土 | 137 | 3 | | 134 | 188 | | | | | 28 | | | 76 | 鉄製品1 | | |
| | 4号溝 | 埋土 | 4 | 1 | | 3 | 8 | | | | | | | | 4 | | | |
| 調査区全体 | I(美土) 植木田耕作土(1)他、木田上土(2)、道標外一括 | | 643 | 18 | 9 | 616 | 1429 | 8 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 152 | 陶器5 焰器2 | 陶器12 焰器9 | 437 鉄製品1、鉄洋1、不明陶器1、不明土器1、縦文土器1、凝物(ガラス・ビニール等) | |
| | II (3) 深居土上 | | 330 | 19 | 13 | 298 | 926 | 5 | | 1 | 1 | 1 | | 101 | 陶器1 焰器4 | 陶器7 焰器2 | 200 | 土塊1、石器片1、灰少量、雜物(缶等) |
| | III (4) 近世以降耕作土 | | 9 | | | 9 | 35 | | | | | | | | | 11 | | |
| | III (5) 近世以降耕作土 | | 497 | 2 | 4 | 491 | 888 | 4 | | | | | | 3 | 75 | 陶器5 焰器5 | 215 | |
| | III (6) 移耕剝 | | 35 | 1 | 1 | 33 | 84 | | | | | | | | 13 | | 21 | 鉄製品(釘か) |
| | IV (7) 地葉剝 | | | | | | | | | | | | | | | | | 縦文土器3 |
| | V (8) 旧地形堆積土 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 合計 | | 1746 | 56 | 32 | 1644 | 3803 | 17 | 1 | 1 | 3 | 2 | 4 | 392 | 陶器11 焰器11 | 陶器19 焰器11 | 1002 | |



1 中尊寺跡第94次調査区全体（南から）



2 T5 南側トレンチ北壁土層断面及び柱穴2断面（南東から）

写真図版1



1 調査区全体（東から）



2 伝古経蔵跡の礎石（奥）と旧地形斜面堆積土及び溝跡（東から）

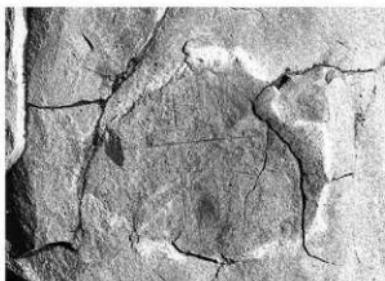
写真図版2



1 伝小経蔵跡礎石建物跡 b列 (b:4) (b:5) (b:6)、c列 (c:3) (c:6)、d列 (d:3) (北西から)



2 础石 (b:4) 础石と掘方 (北西から)



3 础石 (b:4) 十字が刻まれた礎石 (北西から)



4 础石 (b:5) と掘方 (南から)



5 (b:6) 掘方根石検出 (南東から)

写真図版3



1 南西側の礎石 (b : 8) と掘方 (北西から)



2 磂石 (b : 8) 十字が刻まれた礎石 (西から)



3 (c : 6) 掘方 根石検出 (南西から)



4 北東T (c : 1北1) 磂石状の礎と円礎 (南から)



5 T 3北側拡張部とT 2東西トレンチ (西から)

写真図版4



1 T 5 南側トレンチ 柱穴1検出（東から）



2 碓石（b : 5）掘方 かわらけ出土（南東から）



3 T 3 柱穴3検出（北西から）



4 T 2 (d : 3) 地点の礎（南西から）



5 T 4 東側側拡張部 2号溝・3号溝・深掘りトレンチ断面（南から）

写真図版5



1~8 かわらけ



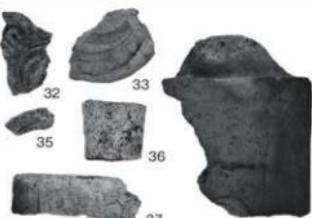
出土磚一括



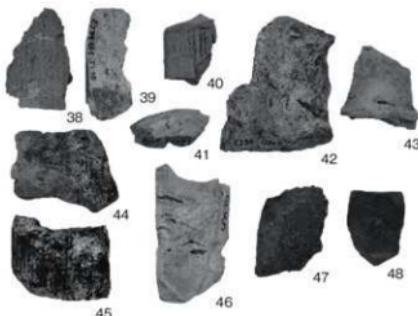
9~22 国産陶器



23~31 中国産陶器



32~37 瓦



38~4 瓦



49~52 近世陶磁器



53~55 縄文土器

無量光院跡第43次発掘調査

1 調査要項

地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立162-6
 調査面積 81 m²
 調査期間 平成31年4月15日～平成31年4月23日
 原 因 宅地造成
 調査担当 鈴木博之 二階堂里絵

2 遺跡の位置と概要（第1図）

本調査地点はJR平泉駅の北西約500mに位置する。調査前の現況は宅地で、標高は概ね28mである。本調査区は無量光院の西側土塁南端部の南東に隣接する地点である。近隣では、第35・37・39次調査が行われている（第2図）。南に隣接する35次（平成28年度調査）では鉄製品の工房とみられる痕跡を確認している。西に隣接する37次（平成29年度調査）では12世紀前半期のかわらけや、擦文土器等が出土しており、本調査区付近における無量光院造営以前からの土地利用の様子がうかがえる成果を得られている。また南西に隣接する39次（平成30年度調査）では、井戸状遺構と、それに伴う可能性のある溝跡を確認している。

本調査区は住宅基礎がⅡ層（地山）にまで及んでおり、一部は削平を受けている。

3 基本土層

- I. 10YR3/2黒褐粘土 しまり密 地山ブロック（φ10cm）5% 炭化物1% 現代盛土層
- II. 10YR6/4にぶい黄橙粘土 しまり密 地山



第1図 位置図（1/5,000）

4 調査概要

重機によりⅡ層上面まで掘削し、人力により遺構検出及び精査を行った。

検出遺構：土坑2基、溝跡1条、柱穴列1条、柱穴12個、遺物包含層2ヶ所を検出した。

1号土坑(図3・4、写真図版1・2) <位置・検出状況>

検出状況>調査区北西部に位置する。検出面はⅡ層上面である。本調査区では東半のみの検出である。<重複遺構>2号土坑と重複していたが、検出時に範囲を明確に捉えることが出来ず、断面で本遺構が古いことを確認した。<規模・形状>平面形は開口部径が約3.6mの円形と推定される。断面形は楕円形で、深さは50cmを測る。<埋土>上～中層はφ5～10cm程度の地山ブロックが混入する灰黄褐色粘土主体である。下層にはぶい黄褐色粘土が主体で地山ブロックが多く混入する。<遺物>かわらけ(No.5)、壁土(No.16・17)が出土した。かわらけの中には、鉢状になるとみられるものがある(No.5)。<時期>出土遺物から12世紀と考えられる。

2号土坑(図3・4、写真図版1・2) <位置・検出状況>

調査区北西部に位置する。検出面はⅡ層上面である。<重複遺構>1号土坑と重複していたが、検出時に範囲を明確に捉えることが出来ず、断面で本遺構が新しいことを確認した。<規模・形状>平面形は開口部径が1.7×1.0mの概ね隅丸方形を呈する。断面形は皿形で、深さは10cmを測る。<埋土>φ5cm程度の地山ブロックが混入するオリーブ褐色粘土主体である。<遺物>かわらけ小片、鉄滓(No.22・23)が出土した。<時期>出土遺物から12世紀と考えられる。

1号溝(図3・4、写真図版1・2) <位置・検出状況>

調査区南部に位置する。検出面はⅡ層上面である。その大半を搅乱に壊され、途切れ途切れであるが、全長4.9mを検出した。<埋土>地山粒が混入するぶい黄褐色粘土を主体とした堆積土である。断面形は皿形を呈する。<方向>東西方向である。<遺物>かわらけ小片が出土した。<時期>詳細な時期は不明である。

1号柱穴列<位置・検出状況>

調査区南東部に位置する。検出面はⅡ層上面である。P1、10、14で構成され、南側に展開する掘立柱建物跡になる可能性もある。<規模>柱間寸法は約2.9mである。<方向>E-8°-Sである。<埋土>にぶい暗褐色粘土を主体で地山ブロックが混じる。P1、14で柱痕跡を確認した。<遺物>P1からかわらけ(No.1)と白磁(No.8)が、P10、14からかわらけ小片が出土した。<時期>出土遺物から12世紀と考えられる。

柱穴(図3・4、写真図版1・2) 12個を検出した。

P2～4・13は北東包含層の上面で検出しており、これより新しい。それ以外の検出面はⅡ層上面である。平面形は円形もしくは楕円形を呈し、概ね径20～30cm前後、深さ15～20cm前後のものが多い。埋土はφ3～5cm程度の地山ブロックが混入し、炭化物を若干含む黒褐色～灰黄褐色粘土のものが多い。個々の属性は表1のとおりである。

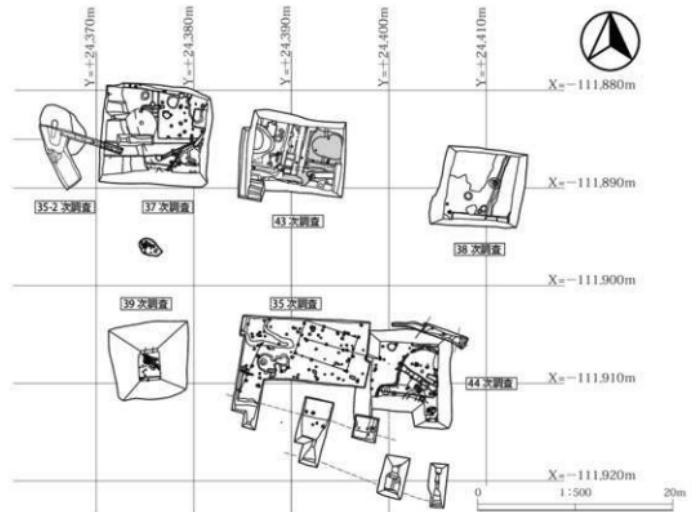
表1 柱穴観察表

| ()推定値 | | | | | | | | | |
|-------------|-----|--------|---------|---------|----------------|------|--------|---------|------|
| 幅(cm) | 平面形 | 深さ(cm) | 底面標高(m) | 遺物 | 幅(cm) | 平面形 | 深さ(cm) | 底面標高(m) | 遺物 |
| P1 50×46 | 楕円形 | 59 | 27.20 | かわらけ、白磁 | P8 17×17 | 円形 | 15 | 27.43 | |
| P2 22×18 | 楕円形 | 25 | 27.56 | かわらけ | P9 19×17 | 円形 | 8 | 27.52 | |
| P3 21×17 | 楕円形 | 32 | 27.38 | かわらけ | P10 (31)×28 | 楕円形か | 68 | 27.87 | かわらけ |
| P4 14×14 | 円形 | 31 | 27.35 | かわらけ | P12 25×22 | 楕円形 | 30 | 27.46 | かわらけ |
| P6 15×15 | 円形 | 18 | 27.52 | かわらけ | P13 25×15 | 楕円形 | 9 | 27.73 | |
| P7 19×16 | 円形 | 29 | 27.40 | かわらけ | P14 35×26 | 楕円形 | 23 | 27.29 | かわらけ |

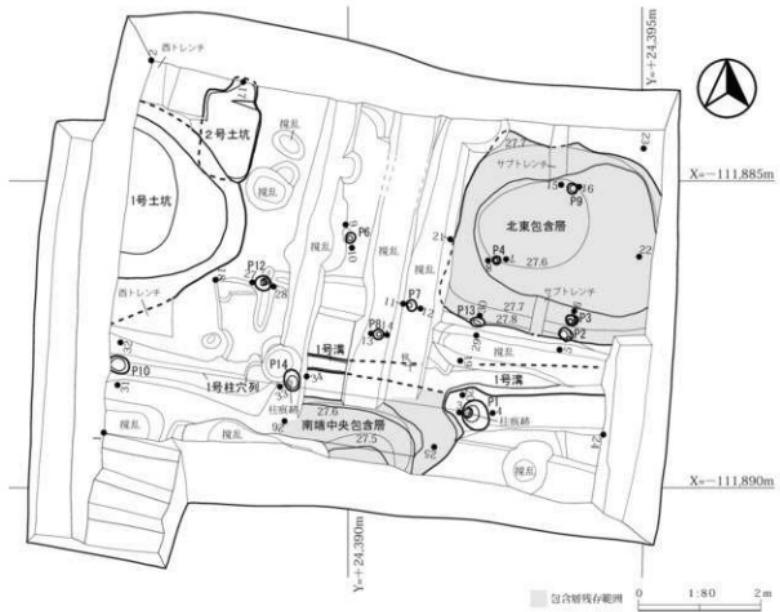
*P5, 11は欠番



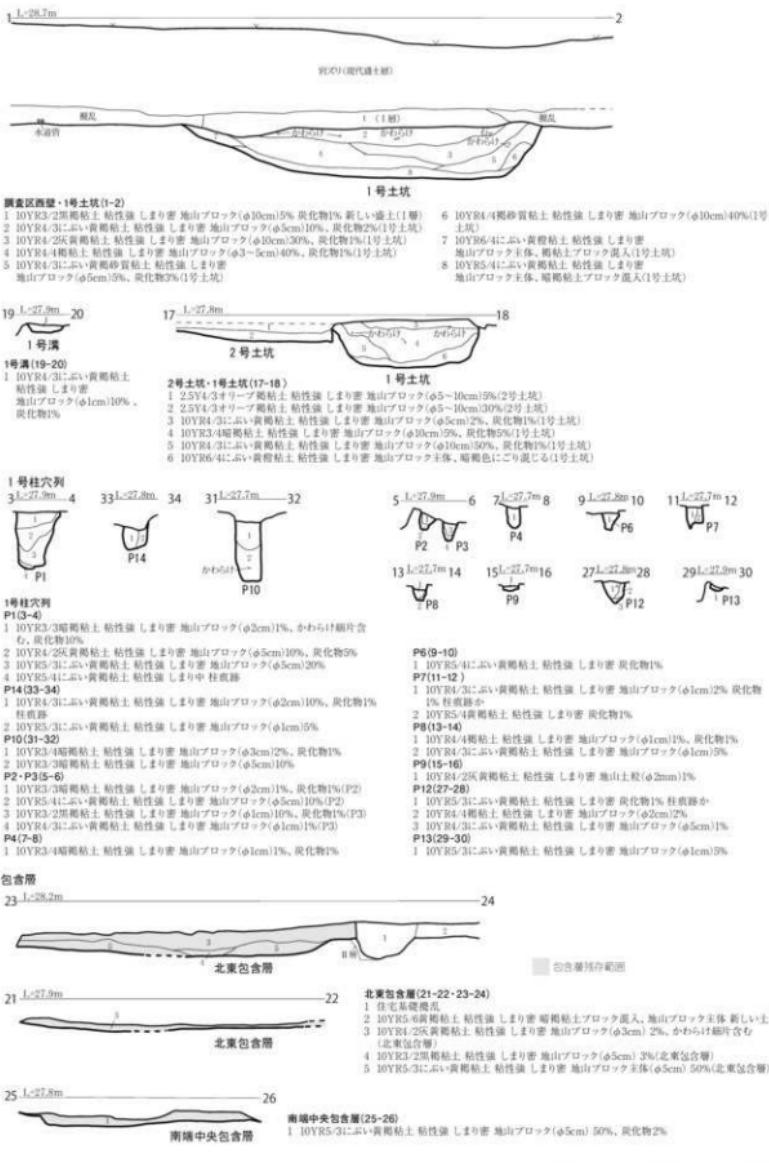
参考写真： 1・2号土坑断面（西トレニチ東壁）



第2図 周辺調査位置図



第3図 全体図



第4図 断面図

遺物包含層（第3・4図、写真図版1・3） 2ヶ所で検出した。いずれも浅い崖みに堆積した層とみられるが、整地層が削平されて最下部だけが残存したものである可能性がある。北東包含層は約10mを検出し、層厚は最も厚いところで25cmである。堆積土は地山ブロックを含む黄褐色粘土が主体である。P 2～4・13をその上面で検出しており、本包含層が古い。遺物はかわらけ（No.2）、国産陶器（須恵器系・No.7）、土師器（No.9・10）、壁土（No.18）、鉄滓（No.25）が出土した。

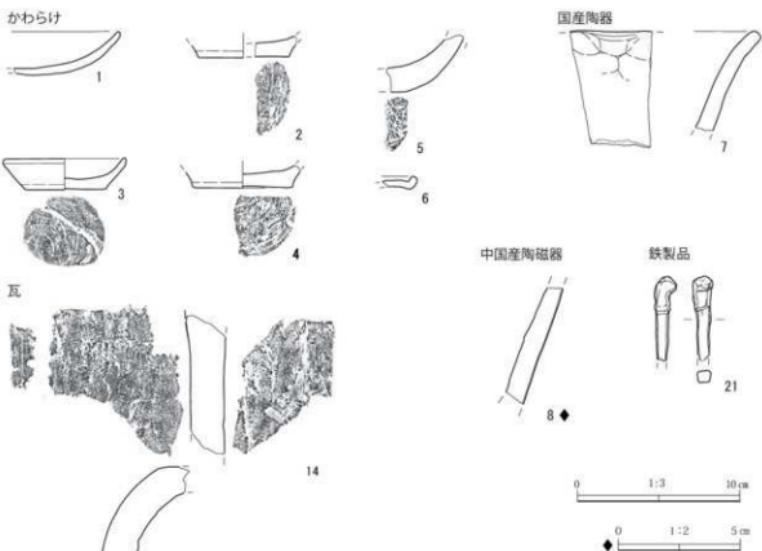
南端中央包含層は約3mを検出した。南側調査区外へ広がるものとみられる。層厚は最も厚いところで15cmである。堆積土は地山ブロックを含む黄褐色粘土が主体である。遺物はかわらけ小片、土師器（No.11）、壁土（No.19）が出土した。

出土遺物：かわらけはコンテナ（534×348×120mm）に1箱出土し、その中から器形が推定出来るもの、特殊な形状のものを選抜し6点を掲載した。また国産陶器1点、近世磁器1点、中国産磁器1点、土師器3点、縄文土器1点、瓦1点、用途不明の土製品1点、壁土5点（総重量34g）、角釘1点、鉄滓7点（総重量30g）、石鎚1点が出土し、掲載した。

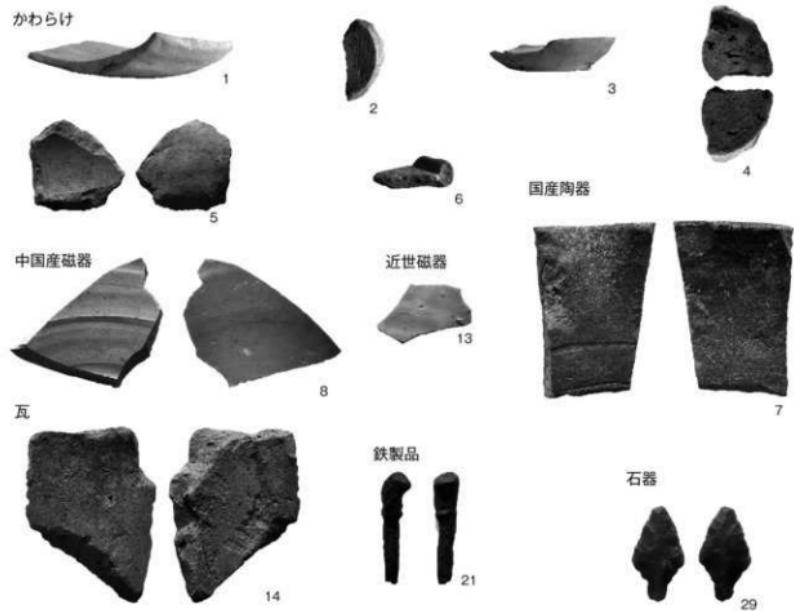
かわらけは包含層、1号土坑からの出土が多く、概ね総量の5割と2割を占める。掲載したかわらけの内訳は、大型の手づくねかわらけが1点（No.1）、小型のロクロかわらけが3点（No.2～4）、鉢状の器形になるとみられるものが1点（No.5）、内折れが1点（No.6）である。手づくねかわらけ（No.1）はP 1から、鉢状のかわらけ（No.5）は1号土坑から出土した。国産陶器は、須恵器系の鉢の口縁から体部（No.7）で、北東包含層から出土した。中国産磁器は白磁の壺の胴部（No.8）で、P 1から出土した。土師器は壺が1点（No.9）、甕が2点（No.10・11）であり、いずれも包含層から出土した。瓦（No.14）は丸瓦で、遺構外からの出土である。

5まとめ

今回の調査では、土坑2基、溝跡1条、柱穴列1条、柱穴9個、遺物包含層2ヶ所を検出した。小面積の調査であり、土坑、溝跡はその一部を検出したのみで、建物を想定することも出来なかった。しかし、柱穴のいくつかを北東包含層の上面で検出し、この包含層からは手づくねかわらけや須恵器系陶器の鉢など12世紀後半の遺物が出土した。無量光院造営後以降に、この周辺に掘立柱建物があった可能性が高い。



第5図 出土遺物



写真図版 出土遺物

表2 かわらけ観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | | | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------------|-------|--------|-------|-------|----|-----|----------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 1 | 5 | ○ | P1 | 手づくね大 | — | — | <2.6> | 20 | 12c | 19 |
| 2 | 5 | ○ | 北東竪合縫 | ロクロ小 | — | (5.6) | <1.3> | 25 | 12c | 6-6 |
| 3 | 5 | ○ | 湖田区西トレンド重機掘削時 | ロクロ小 | (7.6) | 5.0 | 1.9 | 50 | 12c | 2-4 |
| 4 | 5 | ○ | 桃山前 | ロクロ小 | — | (6.2) | <1.3> | 25 | 12c | 内面にタル付音か |
| 5 | 5 | ○ | 1号土坑西トレンド | 鉢状 | — | — | <3.0> | 10 | 12c | 17-2 |
| 6 | 5 | ○ | 湖田区西端 盛土堆 | 内折丸 | — | — | 0.8 | 小片 | 12c | 7-2 |

表3 国産陶器観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 形種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|------|-----|-------|-----|----|------|
| 7 | ○ | ○ | 北東竪合縫3層 | 須恵器系 | 口縁部 | 口縁-体部 | 12c | | 58-2 |

表4 中国産磁器観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 形種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|----|----|----|-----|----|------|
| 8 | ○ | ○ | P1 | 白磁 | 壺 | 胴部 | 12c | 直系 | 18 |

表5 土師器観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 形種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|----|-----|----|----|----|------|
| 9 | — | — | 北東竪合縫3層 | 环 | 口縁部 | 平安 | | | 58-3 |
| 10 | — | — | 北東竪合縫 | 甕 | 胴部 | 平安 | | | 35-2 |
| 11 | — | — | 南東中央竪合縫 | 甕 | 胴部 | 平安 | | | 63-2 |

表6 繩文土器観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 形種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|-----|----|----|----|----|------|
| 12 | — | — | 北東竪合縫 | 深鉢か | 胴部 | 縄文 | | 摩城 | 6-2 |

表7 近世磁器観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 形種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|----|----|-----|----|-------|------|
| 13 | — | ○ | 系機掘削時 | 細鉢 | 瓶 | 口縁部 | 近世 | 肥前 榆花 | 1-2 |

表8 瓦観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|------------|----|--------|-------|-----|-------|----------------------------|------|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 14 | 5 | ○ | 西トレンド重機掘削時 | 丸瓦 | <10.0> | <7.6> | 2.3 | 141.0 | 門面に布目 凸面に網目, ケズナデ 鏡面にヘラケアリ | 2-2 |

表9 土製品観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|----|--------|-----|-----|-------|----|------|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 15 | — | — | 北東竪合縫か | 不明 | 3.6 | 1.2 | 1.3 | 7.0 | | 6-3 |

表10 壁土観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|------------|---------|---------|---------|------|-------|------|------|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 16 | — | — | 1号土坑 | 1.5-2.1 | 1.1-1.3 | 0.8-0.9 | 2.6 | 有 | 2点 | 37-2 |
| 17 | — | — | 1号土坑西トレンド | 3.1 | 2.7 | 1.9 | 11.3 | 無 | | 17-2 |
| 18 | — | — | 北東竪合縫 4層 | 1.9 | 1.8 | 1.0 | 3.2 | 有 | 一部炭化 | 59-2 |
| 19 | — | — | 南東中央竪合縫 | 1.4 | 1.1 | 1.0 | 1.1 | 無 | | 63-3 |
| 20 | — | — | 西トレンド重機掘削時 | 1.1-3.6 | 0.8-2.6 | 0.7-2.0 | 16.2 | 有 | 4点 | 2-3 |

表11 鉄製品観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|----|--------|-----|-----|-------|----|------|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 21 | 5 | ○ | 検出面 | 角釘 | <5.2> | 1.2 | 1.3 | 10.2 | | 15-3 |

表12 淋観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 重量(g) | 感看 | 種類 | 法量(cm) | | | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|-------|----|----|--------|---|----|----|------|
| | | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 22 | — | — | 2号土坑 | 3.6 | 有 | 鉄滓 | 2.0 | | | | 30-2 |
| 23 | — | — | 2号土坑 | 0.4 | 有 | 鉄滓 | | | | | 40-2 |
| 24 | — | — | 北東竪合縫 | 9.3 | | 鉄滓 | | | | | 6-1 |
| 25 | — | — | 北東竪合縫 | 0.9 | | 鉄滓 | | | | | 59-3 |
| 26 | — | — | 検出 | 9.0 | 有 | 鉄滓 | 3.0 | | | | 9-1 |
| 27 | — | — | 検出 | 1.7 | 有 | 鉄滓 | 2.0 | | | | 26-2 |
| 28 | — | — | 検出 | 4.7 | | 鉄滓 | | | | | 64-1 |

表13 石器観察表

| No | 国版 | 写真 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|---------|----|--------|-----|-----|-------|----|------|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 29 | — | ○ | 検出 | 石器 | 2.2 | 1.2 | 0.5 | 1.1 | | 8-2 |



1 調査前状況（南東から）



2 北側周辺状況（南から、家屋の奥に土塁）



3 検出状況（西から）



4 調査風景



5 調査区完掘全景（南から）

写真図版1



1 調査区西半完掘（北東から）



2 1号溝断面（西から）



3 1・2号土坑断面（西から）



4 1号土坑断面（東から）



5 1・2号土坑完掘（西から）

写真図版2



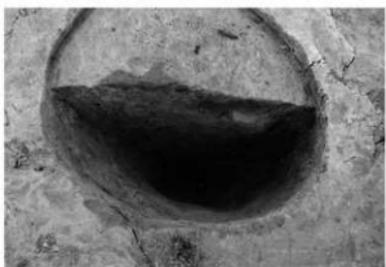
1 P1遺物出土状況（南から）



2 P1断面（南から）



3 P10断面（東から）



4 P12断面（南から）



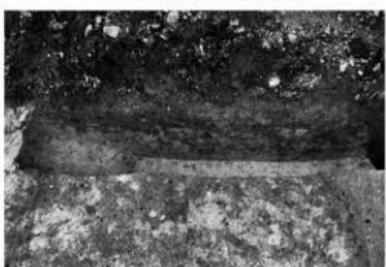
5 P14断面（南から）



6 北東包含層断面（西から）



7 北東包含層完掘（南東から）



7 南壁中央包含層断面（北から）

無量光院
43

無量光院跡第44次発掘調査

1 概 要

| | |
|-------|---------------------|
| 地 点 | 平泉町平泉字花立161-12 |
| 調査面積 | 90 m ² |
| 調査期間 | 平成31年4月9日～令和元年5月23日 |
| 調査原因 | 住宅新築 |
| 位 置 図 | 無量光院跡43次調査72頁参照 |
| 調査担当 | 鈴木江利子 |

2 位置と状況

調査地点は、特別史跡無量光院跡の南西側で、JR東北本線と県道300号（旧国道4号）の間にある。宅地化が進み、発掘調査の件数が増加している地域で、北西側に43次調査区、北側に38次調査区、西側では35次調査区に接している（第6図参照）。35次調査を終了後、調査区周辺は盛土されたため、調査区内では1m以上の現代盛土層が確認された。調査の結果、12世紀と考えられる溝や沢跡、柱穴跡などが検出した。

3 棟出遺構

柱穴30個、土坑5基、溝跡4条を検出した。以下、遺構別に記述する。

(1) 柱穴

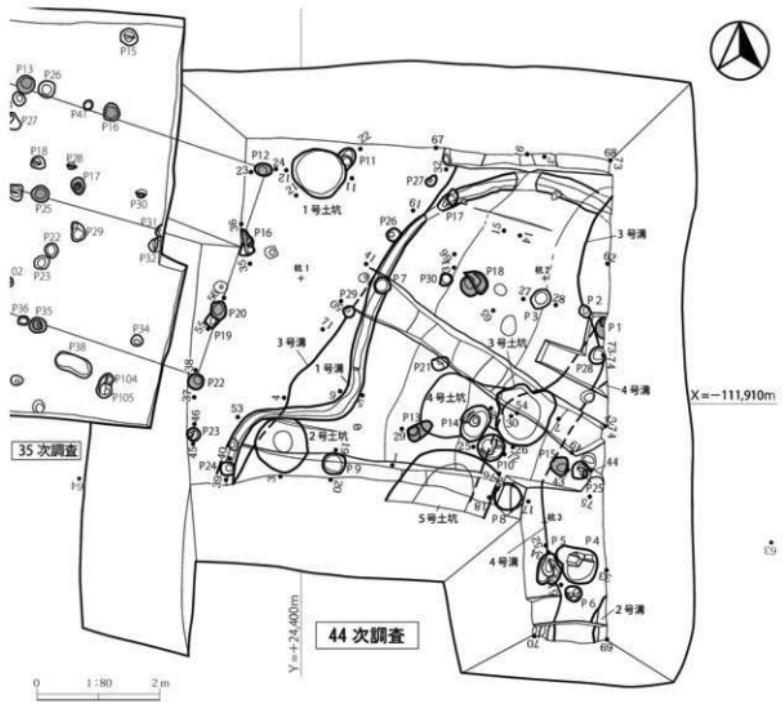
柱穴は調査区全域から検出した。西側のP12、16、20、22は35次調査区検出の1号掘立柱建物跡の東辺を構成する柱穴である。中央から東寄りに検出しているP18、1、13、15は柱間寸法が2.1～2.3m間隔で、東、南側に広がる建物の一部となる可能性がある。3号溝と重複する全ての柱穴は3号溝の整地層（人為堆積土）上面で検出した。

(2) 土坑

5基検出した。属性は観察表を記載し、個別事項のみ本文中に記載した。

表1 柱穴観察表

| No. | 掘り方 (cm) | 柱跡径 (cm) | 真高標高 (m) | 深さ (cm) | 出土遺物 | No. | 掘り方 (cm) | 柱跡径 (cm) | 真高標高 (m) | 深さ (cm) | 出土遺物 | < - >残有値 | |
|-----|-----------|-----------|----------|---------|------------------|-----|-------------|----------|----------|---------|------------------|----------|----|
| | | | | | | | | | | | | 柱穴 | 溝跡 |
| 1 | <18> × 35 | <16> × 15 | 26.48 | 36 | かわらけ | 16 | <20> × <20> | — | 26.52 | 50 | かわらけ | | |
| 2 | 19 × 20 | — | 26.72 | 8 | | 17 | 16 × 30 | 13 × 16 | 26.63 | 43 | かわらけ 金属製品 溝片 | | |
| 3 | 39 × 30 | <21> × 25 | 26.66 | 28 | かわらけ 石 | 18 | <23> × 43 | <9> × 23 | 26.67 | 34 | かわらけ 鉄津 石 | | |
| 4 | <16> × 29 | — | 24.46 | 56 | かわらけ 板状金属製品 | 19 | 25 × 25 | — | 26.84 | 17 | 石 | | |
| 5 | 57 × 59 | 25 × <10> | 26.56 | 42 | かわらけ 鉄津 板石 石 | 20 | 24 × 29 | — | 26.59 | 43 | かわらけ 石 | | |
| 6 | 27 × 25 | — | 26.68 | 32 | かわらけ 石 | 21 | 30 × 35 | 9 × 17 | 26.67 | 33 | かわらけ 薄 | | |
| 7 | 27 × 28 | — | 26.91 | 9 | かわらけ | 22 | 24 × 25 | — | 26.58 | 42 | かわらけ 板状金属製品 石 | | |
| 8 | 45 × 45 | 16 × 19 | 26.77 | 18 | かわらけ 石 | 23 | 22 × 22 | — | 26.82 | 19 | かわらけ | | |
| 9 | 36 × 35 | 16 × 15 | 26.73 | 27 | かわらけ 板状金属製品 薄 | 24 | 24 × 24 | 11 × 11 | 26.70 | 27 | かわらけ 鉄津 | | |
| 10 | 44 × 44 | 29 × 32 | 26.48 | 47 | かわらけ 口沿 洋 石 | 25 | 25 × 28 | 15 × 12 | 26.65 | 30 | かわらけ | | |
| 11 | <25> × 28 | 19 × 13 | 26.84 | 18 | かわらけ 鉄津 | 26 | 25 × 21 | — | 26.72 | 35 | かわらけ 石 | | |
| 12 | 28 × 19 | 15 × 12 | 26.74 | 30 | かわらけ 石 | 27 | 20 × 15 | — | 26.86 | 14 | かわらけ | | |
| 13 | 33 × 30 | 20 × 17 | 26.37 | 57 | かわらけ 石 | 28 | 23 × 28 | — | 26.67 | 13 | | | |
| 14 | 50 × 61 | 30 × 25 | 26.72 | 19 | かわらけ 陶器（灰瓦） | 29 | 18 × 19 | — | 26.81 | 37 | | | |
| 15 | 27 × 31 | 17 × 17 | 26.48 | 25 | かわらけ 上壁 石 | 30 | 23 × 20 | — | 26.64 | 16 | かわらけ 石 | | |



第1図 調査区平面図

1号土坑 調査区北西に検出し、P 11を切っている。レンズ状の堆積を示し、上層から中層にかけては炭を多く含み、かわらけが多く出土した。

2号土坑 調査区南西に検出した。円形状を呈する。周辺の土が赤く焼け、焼土ブロックや炭を多く含み、かわらけも清掃段階ですぐに露出した。検出状態から上層は後世の水田耕作等で削られていると思われる。

3号土坑 調査区南東で検出した。径1.0m程度の不正形状を呈する。埋土は炭や焼土、かわらけ片を多く含み、非常に浅い。2号土坑と同様に後世に上層を削平されたか、3号溝の人が堆積層の一部の可能性もある。

4号土坑 調査区南東で検出した。3号土坑に隣接している。浅い遺構で範囲は明瞭でない。断面29-30と71-72で確認できるが窪み状である。浅い遺構のため、3号土坑との新旧関係は不明である。

5号土坑 調査区の南端で検出し、調査区外に続いている。深さは15cm程度である。3号土坑と同じ様に3号溝の人が堆積層の可能性がある。手のひら大の石、かわらけが出土。

< > 残存値

| 遺構名 | 平面形 | 検出断面(m) | 断面形 | 深さ(m) | 検出標高(m) | 底面標高(m) | 出土遺物 |
|------|-----|--------------|-----|-------|---------|---------|-------------|
| 1号土坑 | 円形 | 0.87 < 0.26 | 崩壊 | 0.50 | 27.05 | 26.55 | かわらけ・種子等 |
| 2号土坑 | 円形 | 0.86 < 0.83 | 崩壊 | 0.07 | 27.00 | 26.93 | かわらけ・土塊等 |
| 3号土坑 | 不整形 | 1.00 < 1.09 | 崩壊 | 0.07 | 26.99 | 26.92 | かわらけ・油1-鐵浮等 |
| 4号土坑 | 不整形 | <1.23> <1.02 | 崩壊 | 0.11 | 26.94 | 26.83 | かわらけ・鉄浮等 |
| 5号土坑 | 半円形 | 1.65 < 1.11> | 崩壊 | 0.15 | 26.70 | 26.85 | かわらけ・陶器・土塊等 |

(3) 溝

4条検出した。属性は観察表を記載し、個別事項のみ本文中に記載した。

1号溝 調査区北東から南西側において蛇行して検出した溝である。北側で3号溝を横断し、中央から南西側では3号溝の西縁を南に進んで、35次調査区に続いている。柱穴と重複しているが、大半の柱穴を切っており、当遺構の方が新しい。

2号溝 調査区南東で西肩側を検出した。北の38次1号溝と35次4号溝と埋土が類似しており一連の溝と思われる。小規模ではあるが12世紀の道路側溝と考えられる。

3号溝(沢跡) <位置・新旧関係>調査区の西側を除く範囲で広がっている。北東から南西方向に延びているが南側に位置する35次調査の6区で検出した区画溝の南壁において、切られている状況を確認した。北側に向かうにつれて浅くなっている、38次調査区までは延びていないようである。<埋土>下層は自然堆積、中～上層は人為堆積を呈している。上層では粘土層と遺物・炭を含む層が互層になっている箇所があり、薄い整地が数回施された様子がうかがえる。数珠と考えられるガラス製品(No.54)は南壁断面の10層から出土した。かわらけ等の出土遺物から12世紀に整地されたものと思われるが、下層からは遺物を出土しておらず、堆積状態などから12世紀以前からの沢跡であった可能性もある。

4号溝 調査区東側で、南北方向に延びている。前述した3号溝の複数ある整地の古い面を検出面としていることが、断面49-50において確認できたが、平面で認識できた範囲は限定的で、北側の断面ではっきりしない所がある。白磁碗の口縁(No.22)が出土した。

< >残存値

| 遺構名 | 検出長(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 方位 | 検出標高(m) | 底面標高(m) | 出土遺物 |
|-----|--------|-----------|-------|-----------|-------------|-------------|----------------|
| 1号溝 | 9.5 | 0.14-0.54 | 0.32 | 東西から南北 | 26.96-27.03 | 26.78-26.99 | かわらけ・陶・焼瓦等 |
| 2号溝 | 0.8 | <0.5> | 0.25 | N15°E程度 | 27.02 | 26.77 | かわらけ・焼瓦等 |
| 3号溝 | 6.2 | 2.27-5.3 | 0.91 | N17°-18°E | 27.01-26.77 | 26.10-26.38 | かわらけ・ガラス製品・石器等 |
| 4号溝 | 4.7 | 0.8-1.2 | 0.40 | 北東～南北 | 26.75-26.94 | 26.47-26.76 | かわらけ・白磁・焼瓦等 |

柱穴

23.27.10m 24

P1235.27.10m 36

P1655.27.10m 56

P19 P20

23-24

1. 2.5Y3/2黒帯粘土 10YR2/8黄青粘土や
2.5Y8/3赤黄粘土ブロック混入 無合
2. 2.5Y6/6明黄青粘土や2.5Y8/3淡黄
3. ブロック主体 2.5Y6/2赤黄粘土混入

37.27.10m 38

P22

35-36

1. 2.5Y4/1黄青シルト 75YR4/6褐粘土ブロッ
ク混入
2. 2.5Y8/4/6褐粘土 2.5Y4/1黄青シルト混じる

17.27.10m 18

P8

55-56

1. 10YR4/1褐灰シルト 10YR5/6赤褐粘土混入 無合
2. 10YR4/1褐灰シルト 10YR5/6赤褐粘土ブロック
3. 深口より大きさ
3. 10YR4/1褐灰シルト 10YR5/6赤褐粘土ブロッ
ク混入

19.27.10m 20

P9

37-38

1. 2.5Y3/2黒帯粘土 10YR2/8黄青粘土ブロッ
ク 2.5Y8/3赤黄粘土ブロック混入
下の方は2.5Y4/1黒帯粘土
2. 2.5Y3/2黒帯粘土 10YR2/8黄青粘土ブロッ
ク 2.5Y8/3赤黄粘土ブロック混入

25.27.10m 26

P10

17-18

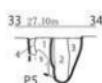
1. 2.5Y3/1黒帯粘土 2.5Y7/3浅黄の粘土ブロ
ク少々混入 黄土粒少し混じる
2. 2.5Y6/6明黄青粘土混入 少し混じる

22.27.10m 28

P3

19-20

1. 10YR3/3褐粘土 10YR4/6褐と2.5Y8/3
2. 2.5Y8/3赤黄粘土 10YR6/3に深い黄橙
シルト混入
3. 2.5Y3/3暗オーリーブ色シルト 2.5Y7/6明黄
青粘土ブロック混入 鉄分合

33.27.10m 34

P5 P4

25-26

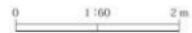
1. 2.5Y3/2黒帯粘土 2.5Y7/6明黄青粘土
ブロック混入 無合
2. 2.5Y3/2黒帯 10YR5/8赤黄粘土ブロック混入 無合
3. 10YR5/4/6に深い黄青粘土 略りある 2.5Y4/1赤灰
4. 2.5Y4/1赤灰 10YR6/4に深い黄粘土ブロック混入

27-28

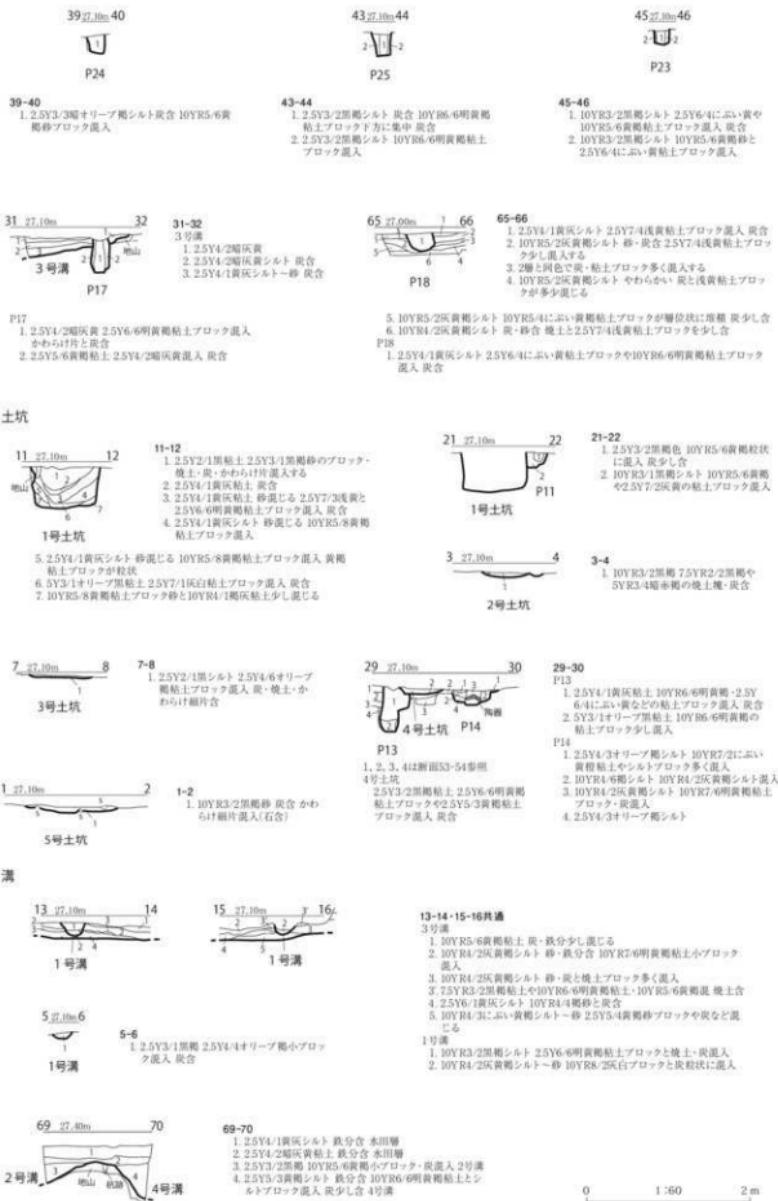
1. 2.5Y3/2黒帯粘土 10YR5/6黄青粘土ブロッ
ク少々混入 褐粘土3枚の影響か
2. 2.5Y3/1黒帯シルト 10YR5/6黄青
3. 2.5Y5/2赤黄シルト 小ブロック少々混入 無合
4. 木本桃鉢
3号溝 10YR6/2赤黄シルト 略りあり

33-34

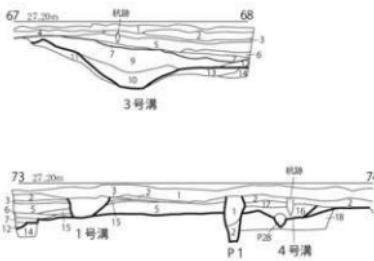
1. 2.5Y3/1黄青シルト 10YR6/6明黄青と2.5Y8/4赤黄粘土ブ
ロック混入
2. 2.5Y4/1赤黄シルト 10YR6/6明黄青と2.5Y8/4赤黄粘土ブ
ロック多く混入
3. 10YR3/2黒帯シルト 2.5Y8/4赤黄シルトブロック混入 無
合 無土少々合
4. 10YR6/6明黄青粘土ブロック 2.5Y3/1黒帯シルト混入



第2図 断面図1



第3図 断面図2



61-62

1. 2.5Y6/6明黄褐色シルト 稕合 2.5Y5/1黃灰シルト混じる かわらけ片・斑合
2. 2.5Y3/2黒褐シルト 岩・石合 2.5Y6/6明黄褐色ブロック混入

41-42

1. 10YR6/6明黄褐色-2.5Y6/4にい黄粘土 しまり有 10YR3/2黒褐粘土ブロック混入
2. 10YR2/3黒褐シルト 10YR6/6明黄褐色ブロック混入 従多く含 機上ブロック含
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト 2.5Y7/2灰黄褐色 稕合 分・合
4. 10YR5/3-5.5-6黄褐色粘土 稕合 10YR5/2黄褐色粘土混じる
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト 岩・転合 2.5Y7/2灰黄褐色混じる
6. 10YR5/3-5.5-6黄褐色シルト 2.5Y7/3浅黄色や2.5Y6/3にい黄シルトブロック混入 かわらけ片・斑合
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR6/2灰黄褐色や2.5Y7/6明黄褐色のシルトブロック多く混入する かわらけ片・斑合
8. 10YR4/2灰黄褐色粘土 従多く含 10YR7/3にい黄褐色ブロック混じる 斑合
9. 10YR5/4-6灰黄褐色シルト 稕合 分多く含 10YR5/2灰黄褐色シルトブロック混入する 機上層 10YR2/2黒褐シルト 岩や赤褐色粘土状に含まれる

49-50

1. 10YR5/6黄褐色
2. 2.5Y4/1灰黄褐色シルト 2.5Y6/6明黄褐色や2.5Y5/4黄褐色の粘土ブロック混入 斑合
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト 稕合 分
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト 稕合 分
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト 稕合 10YR7/4にい黄褐色シルトブロック混入
6. 2.5Y5/2灰黄褐色シルト 稕合 分 合 機上層 少し含
7. 10YR5/3灰黄褐色シルト 稕合 2.5Y6/4にい黄褐色の細小ブロック混入 岩・斑合
8. 2.5Y5/3灰黄褐色粘土 稕合 分 粉粒状に混じる
9. 10YR5/4-6灰黄褐色シルト 2.5Y6/4灰黄褐色が混じる 岩・斑合
10. 2.5Y7/4灰黄褐色シルト 2.5Y7/4灰黄褐色の粉粒状に混じる 岩・斑合

67-68-73-74断面

1. 本田屋 2.5Y4/1黄褐色 稕合 分
2. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色 かたくしまる 10YR2/3灰褐色シルト混入 岩・斑合
3. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色 かたくしまる 稕合 分
4. 本田屋 2.5Y7/2灰黄褐色シルト 稥合 分 合 少し まり有
5. 10YR5/2灰黄褐色シルト 2.5Y7/2灰黄褐色(10YR7/2にい黄褐色)の砂が2.5Y6/3にい黄褐色ブロック混入 岩合
6. 丹山 10YR5/2灰褐色 2.5Y5/4灰褐色シルトブロック少し混入 岩上下に集中
7. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色粘土 稥合 分 合 10YR5/2灰黄褐色シルトや10YR5/6灰褐色の砂が混じる 岩・斑合
8. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色粘土 稥合 分
9. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色シルト 稥合 少し 合 稕合 分
10. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色粘土 2.5Y7/4灰褐色粘土ブロック 稥・斑合
11. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色粘土 2.5Y7/4灰褐色粘土ブロック 稥・斑合
12. 10YR5/3灰褐色シルト 10YR5/2灰黄褐色少しある 岩合
13. 2.5Y7/4灰褐色粘土 2.5Y5/4灰褐色粘土ブロック少し混入 岩・斑合
14. 地山 10YR5/6明黄褐色粘土
15. 6番と同 施工式
16. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色シルト 2.5Y5/4灰褐色粘土ブロック少し混じる 岩・斑合
17. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色 2.5Y7/4浅黄色シルトブロック少し混入 かわらけ片・斑合
18. 2.5Y6/3にい黄褐色粘土 稥合 分
P1
1. 10YR3/2灰褐色粘土 稥合 分
2. 10YR5/4にい黄褐色粘土 上合 10YR5/2灰黄褐色粘土混じる
P28
10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色シルト 10YR6/6明黄褐色粘土ブロック混入

3. 2.5Y4/2灰暗黄褐色シルト 2.5Y6/2灰暗黄褐色シルトや2.5Y5/6灰褐色の粘土ブロック・幾
土粒混入
4. 2.5Y4/2灰暗黄褐色シルト 2.5Y5/6灰褐色粘土ブロックや灰混入する
5. 10YR5/2灰黄褐色シルト 2.5Y7/4灰褐色粘土ブロック 稥・斑合・灰合
6. 2.5Y4/2灰暗黄褐色シルト 稥合 カタムツ 2.5Y6/4灰褐色 少し灰合
7. 10YR4/2灰暗黄褐色粘土 2.5Y6/4灰褐色粘土ブロック 灰少しあ
8. 10YR4/3にい黄褐色シルト 混入する
9. 10YR4/3にい黄褐色粘土 しまりある 斑合 白っぽい砂が入る
10. 10YR4/3にい黄褐色シルト-微砂 10YR5/3-4にい黄褐色の砂が混入
11. 2.5Y4/2灰暗黄褐色シルト 稥合 分・斑合 水分含みやわらかい 一見均一に見える
が10YR5/6灰褐色など混じる

11. 2.5Y5/3灰褐色シルト 2.5Y7/2灰暗黄褐色混入 稥合 分
12. 10YR5/4-5.5-6灰褐色シルト 稥合 分・斑合
13. 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色粘土ブロック 稥合 分
14. 2.5Y5/4灰褐色シルト 稥合 少し 稥合 分
15. 10YR5/2灰暗黄褐色シルト 稥合 分
16. 10YR5/3-4にい黄褐色シルト 2.5Y6/2灰褐色や2.5Y6/3にい黄褐色粘土ブロック
混入 部多く含
17. 2.5Y5/4灰褐色シルト 2.5Y6/2灰暗黄褐色ブロックや灰を混入する
18. 2.5Y4/2灰暗黄褐色シルト 稥・ブロックや2.5Y7/4灰褐色粘土ブロック混入
19. 10YR5/6灰褐色粘土 かたむきしる 10YR4/4褐色や10YR6/3にい黄褐色の粘土
ブロックが混じる
20. 10YR5/6灰褐色粘土 10YR5/2灰暗黄褐色が筋状に入り込んでいる
21. S.D.の10YR5/6灰褐色粘土 2.5Y6/3-4.5-5.5-6灰褐色シルト しまり有 10YR5/1黄褐色が混じる
22. 丹山 10YR5/3-4.5-5.5-6灰褐色粘土 方の方に2.5Y7/4灰褐色粘土ブロック混入
2.5Y6/4灰褐色が混じる
23. 10YR5/3-4にい黄褐色粘土 2.5Y2/1灰褐色多く含 斑合 分
24. 10YR5/3灰褐色粘土 2.5Y6/3灰褐色粘土ブロック多く含 斑合 分
25. 10YR5/6灰褐色粘土 10YR4/6灰褐色粘土や褐色の砂多く含
26. 2.5Y7/4灰褐色粘土 粒子上部 ブロック状で2.5Y5/6灰暗黄褐色少し混じる
27. 10YR5/6灰褐色粘土 2.5Y6/3にい黄褐色粘土ブロック多く含 斑合 分・合
28. 10YR5/6灰褐色粘土 丹山
29. 10YR5/4にい黄褐色粘土 10YR4/3にい黄褐色粘土ブロック混入 マンダム含

0 1:60 2m

第4図 断面図3

(4) 出土遺物

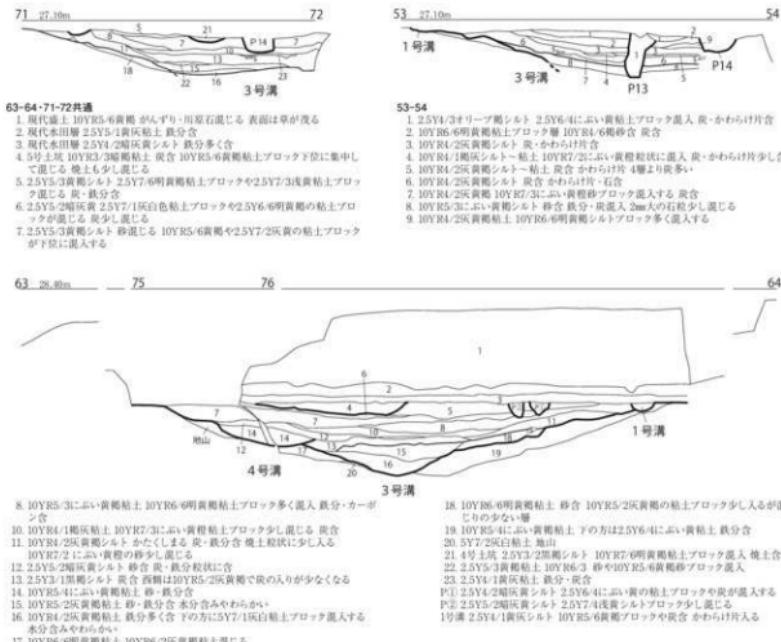
今回の調査ではかわらけ、国産陶器、中国産白磁、鉄製品、土壁、鉄滓、植物遺体、石器、数珠等が出土した。

かわらけの全体量は整理箱2箱程度で、柱状高台(No.20)が3号溝上層からが出土している。国産陶器1点(No.24)は35次の区画溝出土の物と同じである。土壁は各遺構から多少の違いはあるが整理箱で1/2の量が出土している。大きさは1~3cm大で小さいためスサの痕跡が認められない物も多い。鉄滓は3号溝上層で炭を含む層から多く出土し、整理箱1/3程度である。測定は表以外7点、3号溝や柱穴から出土した。ガラスで作られた数珠が2点出土している。両方3号溝南側からで、1点は上部、1点(No.54)は10層からである。

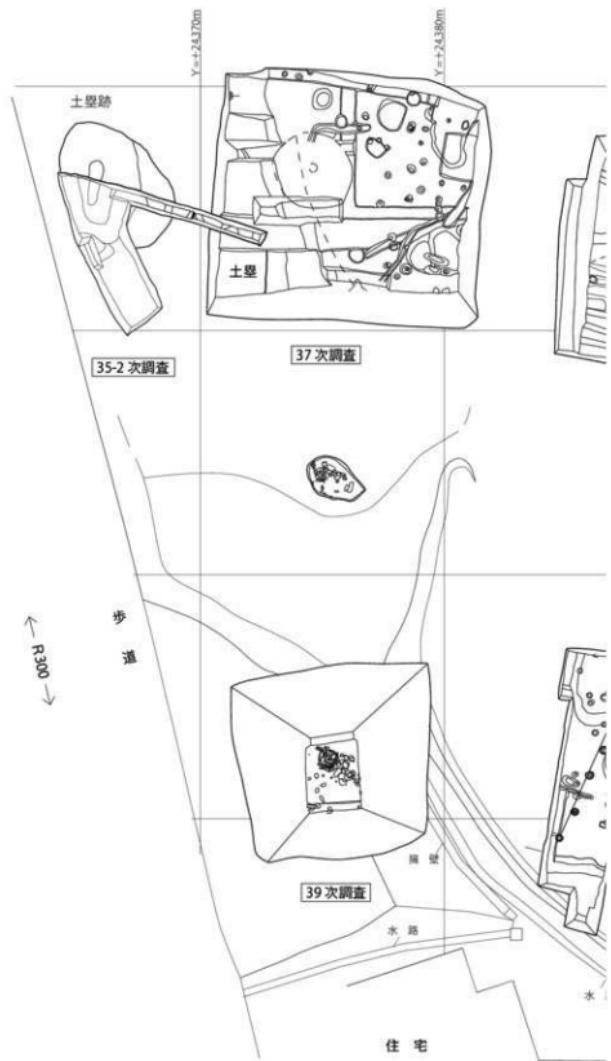
4まとめ

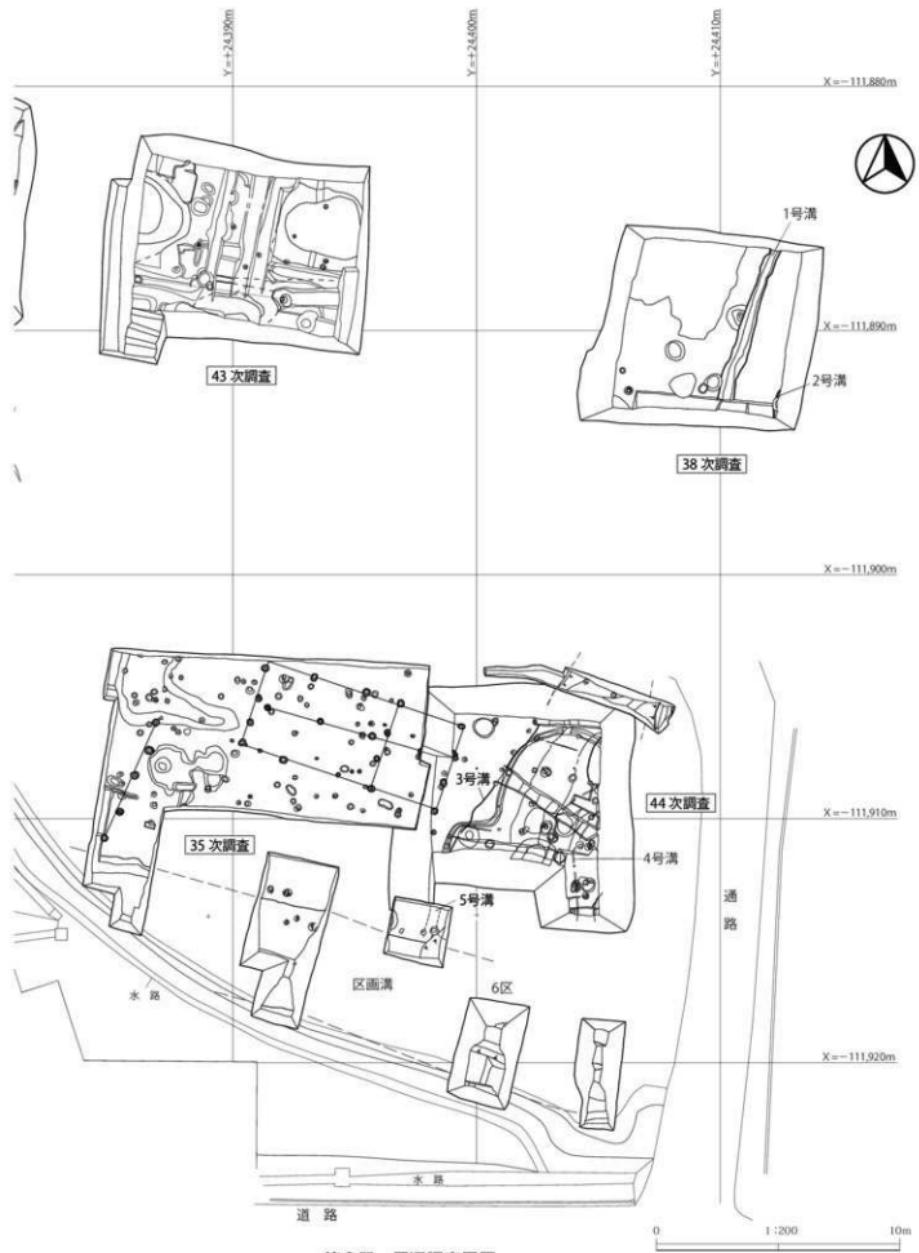
今回の調査では12世紀に沢の上を数回整地し、土地利用していることが分かった。整地層上面ではかわらけや鉄製品、鉄滓、土壁及び炭を多く含む層があり、周辺には工房があった様子がうかがえる。第6図では周辺調査区を合わせた平面図を載せている。北西の35-2では特別史跡無量光院跡の南端の土塁を調査している。南に続いていると思われるが西側の県道敷設の際に削られたようである。

南の35次調査では区画溝が検出し、無量光院跡の南を区画したものと思われる。39次調査区では井戸枠を有する井戸状遺構を検出している。区画溝延長の北側の位置であるが周辺は35次調査区より1m以上低い。井戸底の深さは区画溝底と同じ程度と考えられる。

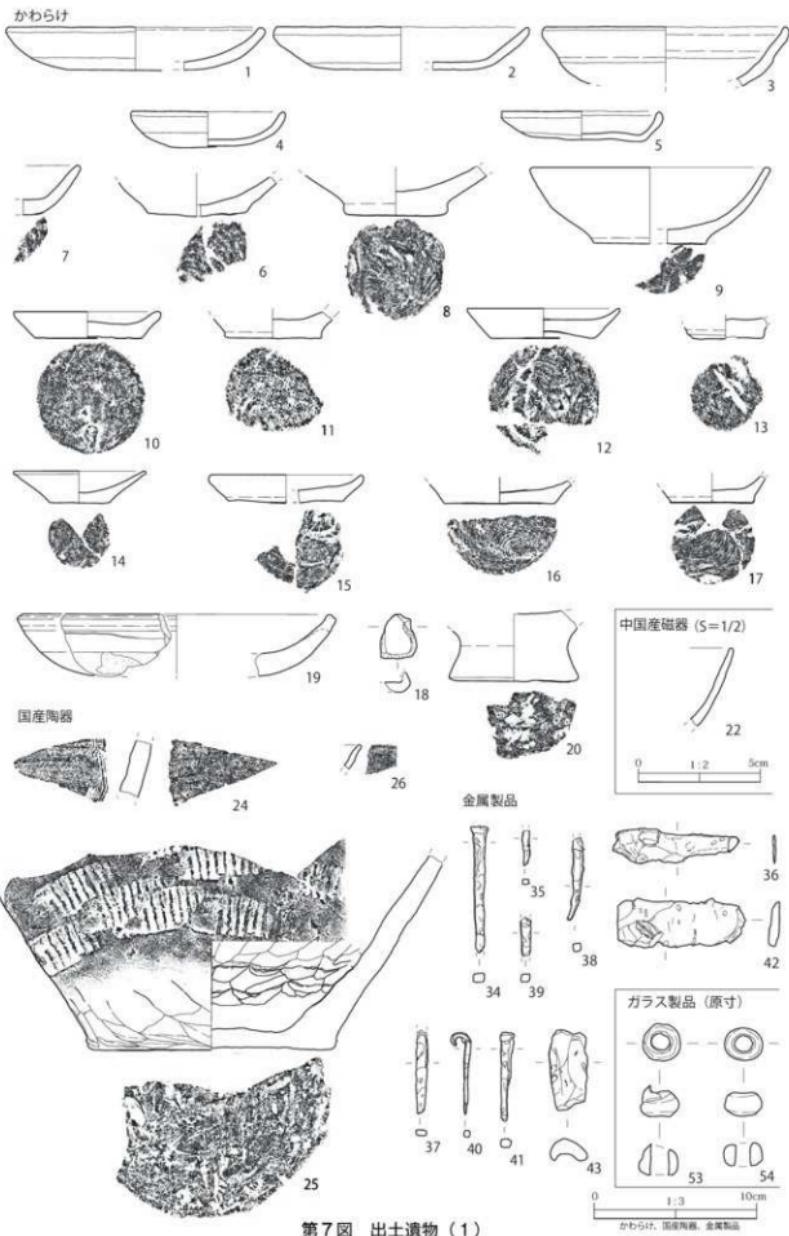


第5図 断面図4





第6図 周辺調査履歴



第7図 出土遺物 (1)

表2 カわらけ

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | | | 残存率 (%) | 備考 | 登録No |
|----|----|----------|-------------------|-------|--------|-----|---------|------------|-------------------|---------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 厚さ | | | |
| 1 | 7 | 4 | 1号土坑 北手 | 手づね 大 | 16.0 | — | 2.6 | 30 | 47と接合 反転実測 ぶみ 焼け跡 | 217-5 |
| 2 | 7 | 4 | 1号土坑 北手 | 手づね 大 | 13.6 | — | 2.6 | 30 | 反転実測 全体に黒い | 217-6 |
| 3 | 7 | 4 | 1号土坑 北手 | 手づね 大 | 15.2 | — | 3.4 | 10 | 反転実測 | 217-7 |
| 4 | 7 | 4 | 5号土坑 | 手づね 小 | 9.6 | — | 2.1 | 80 | 穿孔有 摩滅 | 19 |
| 5 | 7 | 4 | 5号土坑 | 手づね 小 | 10.0 | — | 2.0~1.5 | 80 | ぶみ 摩滅 | 36 |
| 6 | 7 | 4 | 3号土坑上層 | ロクロ 大 | — | 6.0 | — | 20 | 摩滅 | 109 |
| 7 | 7 | 4 | 1号通 東側 | ロクロ 大 | — | — | — | 10 | 摩滅 | 41-3 |
| 8 | 7 | 4 | 3号通 南レントンの板刷 | ロクロ 大 | — | 6.4 | — | 40 | 摩滅 厚い | 140 |
| 9 | 7 | 4 | 3号通 板2 南西端 | ロクロ 大 | 14.6 | 7.0 | 4.7 | 40 | 摩滅 内外面一部無げ跡 | 261 |
| 10 | 7 | 4 | 2号土坑 | ロクロ 小 | 9.0 | 6.6 | 2.6 | 20 | 摩滅 壁面 | 13 |
| 11 | 7 | 4 | 3号通 芝生 | ロクロ 小 | — | — | — | 50 | 穿孔有(ひいの)石混入 | 89 |
| 12 | 7 | 4 | 3号通 南レントン 南端 | ロクロ 小 | 9.4 | 6.6 | 1.5~1.8 | 70 | 反転実測 摩滅 ぶみ 小石混入 | 159 |
| 13 | 7 | 4 | 3号通 北トレンチ ブロック混刷 | ロクロ 小 | — | 4.8 | — | 50 | 底部のみ 摩滅 亂切刃無い | 178-5 |
| 14 | 7 | 4 | 3号通 上面 断面53-54 1期 | ロクロ 小 | 8.2 | 3.8 | 2.0 | 60 | 少し摩滅 焼熱 | 18719-1 |
| 15 | 7 | 4 | 1号土坑 北手 | ロクロ 小 | 9.6 | 6.8 | 1.6 | 40 | 反転実測 スコボ 摩滅 | 5241-2 |
| 16 | 7 | 4 | 3号通 断面41-42 3期 | ロクロ 小 | — | 6.8 | — | 30 | 底部のみ 反転実測 内面保付着 | 218 |
| 17 | 7 | 4 | 3号通 断面41-42 11期 | ロクロ 小 | — | 5.2 | — | 40 | 摩滅 滑れ | 240 |
| 18 | 7 | 4 | 全体移築 木手桶 | 鉢形 | — | — | — | 小片 | 口縁内面部 留封入る 全体黒い | 4-9 |
| 19 | 7 | 4 | 5号土坑 | 鉢形 | 20.8 | — | — | 小片 | — | 37-3 |
| 20 | 7 | 4 | 3号通 南トレントンの板刷 | 柱状凸台 | — | 8.0 | (4.4) | 30 | 反転実測 摩滅 保付着 | 156 |
| 21 | — | 4 | 19 | 鉢形 | — | — | — | — | 板状 | 60 |

表3 中国産磁器

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 種類 | 断面 | 部位 | 年 代 | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------------|--------------------|----|----|----|-----|------|-------|
| 22 | 7 | 4 | 断面63-64 14期(4号室)対応 | 白磁 | 輪 | 口縁 | 12C | II期 | 251 |
| 23 | — | 3号通 断面41-42 6期 | 白磁 | 輪 | 全体 | — | 12C | V小埋附 | 231-2 |

表4 国産陶器

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 種類 | 断面 | 部位 | 年 代 | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------|-------------|----|-----|----|-------------|----------|------|
| 24 | 7 | 4 | 1号通 | 輪窓 | すり跡 | 体部 | 12C末~ 初期 | 骨針入り 鋼目有 | 23 |
| 25 | 7 | 4 | P14 | 輪窓 | 裏 | 底部 | 12C | II期 | 82 |
| 26 | 7 | 4 | 全体移築 進掛面模作業 | 輪窓 | 山茶輪 | 口縁 | 12C | 輪輪の網毛目 | 6-2 |

表5 土壁

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 法量(cm) | 重量(g) | 点数 | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------|---------|---------|-------|------|-----|-------|
| 27 | — | 4 | 1号土坑 断層 | 0.3~3.6 | 108.8 | 73点 | — | 14-2 |
| 28 | — | — | 1号土坑 北手 | 0.2~3.0 | 115.7 | 104点 | — | 217-2 |
| 29 | — | — | 2号土坑 | 0.3~3.3 | 414 | 35点 | — | 16-2 |
| 30 | — | — | 3号土坑 | 0.2~2.5 | 88.7 | 115点 | — | 17-2 |
| 31 | — | 4 | 3号土坑 | 0.1~4.1 | 136.6 | 66点 | — | 34-3 |

表6 種子

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 種類 | 大きさ(cm) | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------|---------------|----|---------|------|------|
| 22 | — | — | 1号土坑 断層～ブロック層 | 橢形 | 1.6 | 1個 | 32-3 |
| 23 | — | 4 | 3号通 脊 | 橢形 | 2.2 | 1/2個 | 80-6 |

表7 金属製品

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | 重量(g) | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------|------------------------|-----|--------|-------|----------|------|
| 34 | 7 | 4 | 調査区 南トレント | 釘 | 2.7 | 1.6 | 0.5 | 8.9 |
| 35 | 7 | — | 調査区 南トレント | 釘 | 2.2 | 0.5 | 0.3 | 0.5 |
| 36 | 7 | 4 | P18 | 小刀状 | 2.7 | 2.1 | 0.7~10.3 | 8.7 |
| 37 | 7 | 4 | P18 | 釘 | 5.1 | 0.7 | 0.4 | 1.9 |
| 38 | 7 | 4 | 3号通 中央トレンチ 中央灰層 | 釘 | 5.1 | 0.9 | 0.5 | 2.7 |
| 39 | 7 | — | 3号通 南トレント 中央灰層 | 釘 | 2.4 | 0.6 | 0.5 | 1.0 |
| 40 | 7 | — | 3号通 断面41-42 2期後、焼土集中範囲 | 釘 | 5.1 | 0.3 | 0.4 | 2.2 |
| 41 | 7 | 4 | 3号通 断面41-42 2期後、焼土集中範囲 | 釘 | 5.5 | 0.8 | 0.5 | 4.1 |
| 42 | 7 | 4 | 3号通 断面7-7 10期 | 不明 | 7.9 | 2.8 | 0.2~0.9 | 19.7 |
| 43 | 7 | 4 | 3号通 中央トレント 小先灰層 | 不明 | 4.9 | 2.3 | 0.9 | 17.1 |
| | | | | 釘 | — | — | 板状(半分) | 111 |

表8 鉄滓（炉底滓）

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 大きさ(cm) | 重量(g) | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------|-----------|---------|-------|-----|------|
| 44 | — | 4 | 3号通 北側 上面 | 6.2×3.0 | 26.7 | 有 | 炉底滓 |
| 45 | — | 4 | 3号通 北側 上面 | 5.0×2.8 | 17.1 | 有 | 炉底滓 |
| 46 | — | 4 | 3号通 北側 上面 | 4.8×4.3 | 13.5 | 有 | 炉底滓 |

表9 石製品

| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | 重量(g) | 色調 | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------|-----------------------|----|--------|-------|-----|------|-----------|
| 47 | — | 4 | 3号通 中央トレンチ 断面41-42 2期 | 砾石 | 8.5 | 1.5 | 1.4 | 32.7 | 7.5Y3/1灰白 |
| 48 | — | 4 | 3号通 断面61-62 2-3層対応 | 砾石 | 1.6 | 1.0 | 0.6 | 2.1 | NW灰白 |
| 49 | — | 4 | 3号通 南側(黄土層) | 砾石 | 2.0 | 1.8 | 0.5 | 2.8 | NW |
| 50 | — | 4 | プラン植生一筋 | 砾石 | 1.7 | 1.6 | 0.4 | 9.8 | 10YR8/2白緑 |
| 51 | — | 4 | 3号通 上面 | 砾石 | 2.0 | 1.4 | 0.2 | 0.5 | 2.5Y9/6灰白 |
| 52 | — | 4 | 3号通 上面 | 砾石 | 3.4 | 2.1 | 0.4 | 5.7 | 2.5Y7/1灰白 |

表10 ガラス製品

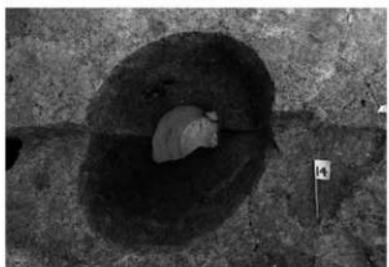
| No | 図版 | 写真 図版 | 出土位置・部位 | 種類 | 法量(cm) | 重量(g) | 備 考 | 登録No |
|----|----|----------|------------|----|--------|-------|-----|------|
| 53 | 7 | 4 | 3号通 上面 | 珠 | 0.8 | 0.8 | 0.6 | 0.4 |
| 54 | 7 | 4 | 3号通 南面 10期 | 珠 | 0.8 | 0.7 | 0.5 | 0.1 |



表土除去状況（南東から）



プラン検出状況（南から）



遺物出土状況P14



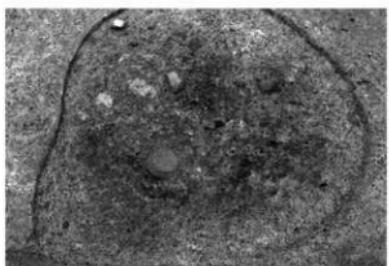
P22断面



P4・P5断面



1号土坑（南から）



2号土坑遺物出土状況



5号土坑断面（北から）

写真図版1



調査状況（西から）



断面71-72（南西から）



断面49-50（北から）



断面67-68（南西から）



断面49-50（北から）



完掘状況（北から）



4号溝断面（北から）



3号溝断面（北から）



調査区全景（北から）



調査区全景（北から）



調査区全景（南から）

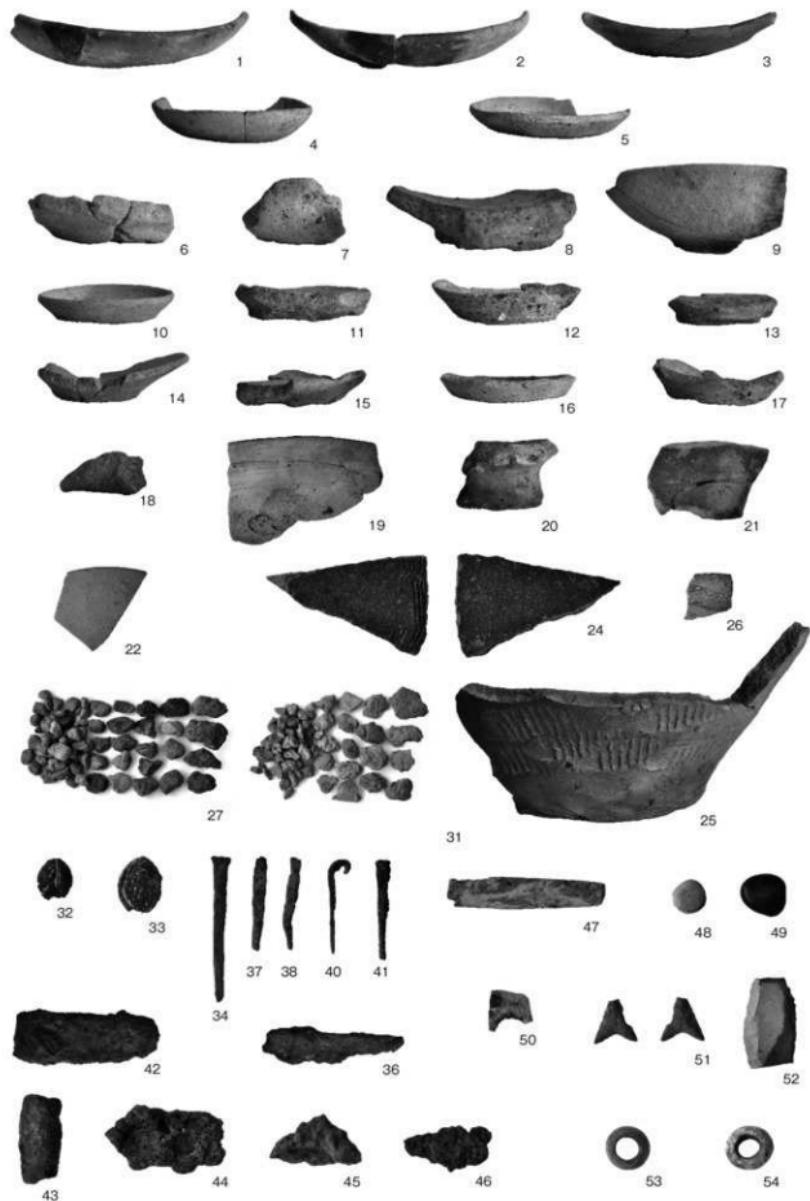


断面69-70（北から）



4号溝・2号溝（南から）

写真図版3



写真図版4 出土遺物

無量光院跡第45次発掘調査

1 調査概要

調査地点 平泉町平泉字花立212番地5
 調査面積 156 m²
 調査期間 令和元年7月2日～8月7日
 調査原因 住宅建替
 調査担当 鈴木江利子

2 位置と概要

調査箇所は平泉駅と中尊寺を結ぶ通称中尊寺通りと呼ばれる県道沿いに位置する。特別史跡無量光院跡の東側土塁から40mの地点で、調査区から北西側を見ると無量光院跡の土塁が視認できる。この付近は西から東に向かい緩く下がる地形である。前述の県道は近世には奥州道中にあたり調査区東端と接している。道路の東側には伽羅之御所跡が隣接している。

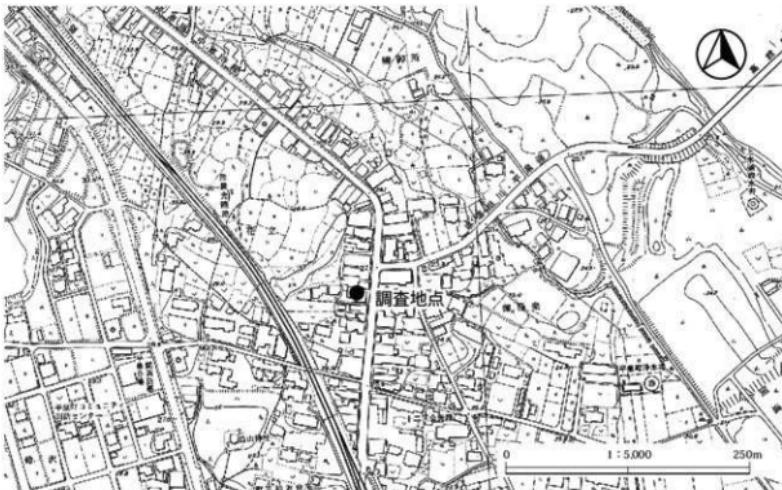
道路沿いという立地条件から、近世以降の生活面が色濃く残り、その影響で12世紀の遺構の残存状況は良くないことが予想された。調査結果からも、現代遺構が色濃く残り、建物の基礎跡や配管跡、炉の様な施設があったのか、焼土跡なども確認している。また、宅地化の過程で、調査区西側は削平されている可能性が認められた。

3 調査結果

掘立柱建物2棟、柱穴36個、土坑3基、溝跡2条を検出した。以下、遺構別に記述する。

(1) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡<位置・規模>調査区東側で検出した梁間1間、桁行3間の東西棟で、軸方向はN12°E (N78°W)を示す。柱穴寸法は、桁行は2.0mを基本としているが、北東側のP5とP7の間は



第1図 調査地点位置図 (1/5,000)

1.9 mを測る。また、西側のP1とP2、P25とP14の間隔は2.6～2.7 mで、梁間方向は3.9～4.0 mを測る。<埋土>P2、7、14、16では5～10 cmを超える大きさの石が数個土と共に埋められていた。P2だけは礎板に使われたのか柱穴底に平たい石が置かれていた。<遺物>大半の柱穴から、かわらけ小片が少量出土している。P7から土壁と思われる小片1点、P2から砥石、鉄製品、P16から陶器が出土している。<時期>全般的に上層に縞まりのない土が堆積しており、近世の建物跡の可能性がある。

2号掘立柱建物跡<位置・規模>調査区北端で検出した。P3、27、34が建物の南辺として3個並んだ状態である。柱間寸法は2.2 mを測り、西側は搅乱によって、東、北側の調査区外のため建物の全容は不明である。軸方向はN25°E (N65°W)を測る。北拡張5の箇所に2号溝を切って柱穴1個が検出しておらず、P3からは1.35 mの地点であるため、可能性の示唆に留める。P3は1号建物のP2に切られており、本建物が古い。<出土遺物>かわらけ細片が出土した。<年代>軸方向が2号溝に近いことから、12世紀の可能性が想定される。

(2) 柱穴

柱穴は、調査区東側を中心に検出した。個々の属性は表1を参照願いたい。

<出土遺物>大半の柱穴から、かわらけ細片が少量出土している。また、P53から陶器が出土している。<帰属時期>12世紀と近世以降が混在している。

(3) 土坑

1号土坑<位置・検出状況>北拡張4の東壁側に検出した。東半分は調査区外に延びている。2号溝を切っており、本遺構の方が新しい。<規模>上層は搅乱により掘削されているが、検出径は60 cm以上あり、深さは35 cmを測る。<出土遺物>無。<年代>2号溝を切っているため、同遺構より新しいことは確かだが、出土遺物が無いため不明である。

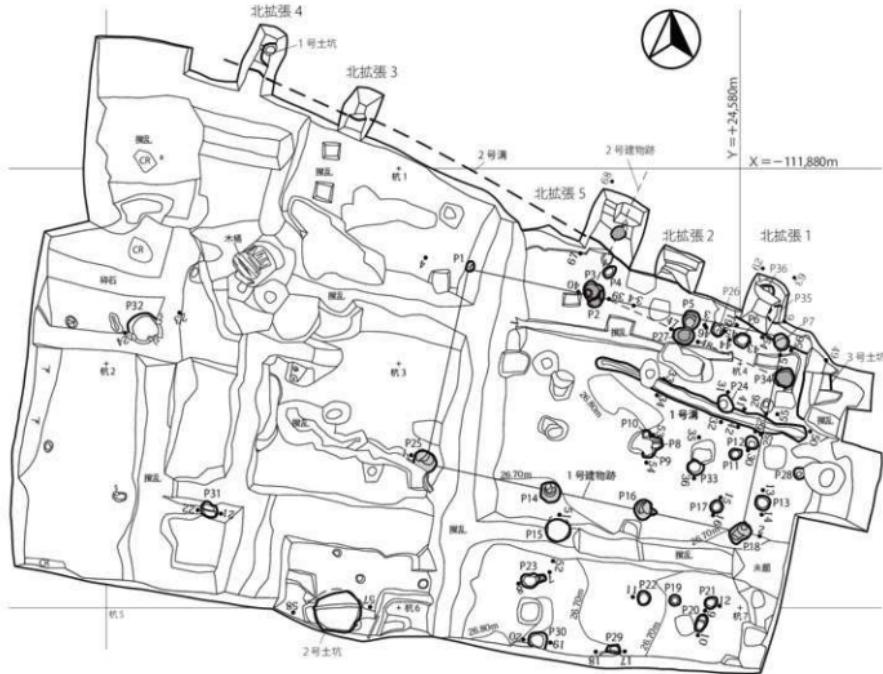
2号土坑<位置>調査区中央南で検出した。<規模>開口部径が85～96 cmで、深さ1.2 mまで掘削したが底には到達していない。<出土遺物>現代磁器、土器片1個と木片が出土した。<時期>出土遺物及び埋土の状態から現代に埋められた土坑と判断した。

3号土坑<位置>調査区北東側で検出した。搅乱の影響を受けたため、形状ははっきりしないが、かわらけ片や炭が多く混入した範囲を遺構として捉えた。<規模>南北1.0 m、東西0.6 mを測る。深さは搅乱の影響で12～13 cm程度と浅い。<出土遺物>かわらけが多く出土したが、接合に至らない小破片主体であった。他に1.5 cm程度の鉄滓や、錫びた3～4 cmの鉄塊を出土した。<帰属時期>出土遺物から12世紀の遺構と判断した。

表1 柱穴観察表

< >残存値

| No | 掘り方(cm) | 柱軸距(cm) | 底面標高(m) | 深さ(cm) | 出土遺物 | No | 掘り方(cm) | 柱軸距(cm) | 底面標高(m) | 深さ(cm) | 出土遺物 |
|----|-----------|-----------|---------|--------|-----------------|----|-----------|----------|---------|--------|-------------|
| 1 | 20 × 21 | — | 26.57 | 11 | | 19 | 22 × 23 | — | 26.46 | 25 | かわらけ |
| 2 | 34 × 45 | 14 × 12 | 26.34 | 19 | かわらけ 金属製品 砥石 板石 | 20 | 22 × 36 | 10 × 12 | 26.36 | 38 | かわらけ |
| 3 | 40 × 43 | — | 26.22 | 57 | かわらけ | 21 | 28 × 24 | — | 26.54 | 20 | かわらけ |
| 4 | 28 × 25 | 14 × 10 | 26.63 | 98 | | 22 | 26 × 29 | 11 × 18 | 26.60 | 8 | |
| 5 | 38 × 40 | 11 × 13 | 26.50 | 27 | かわらけ | 23 | 32 × 30 | — | 26.55 | 24 | かわらけ 石 |
| 6 | 31 × 28 | 15 × 14 | 26.39 | 30 | かわらけ | 24 | 30 × 37 | — | 26.36 | 39 | かわらけ 封状金属製品 |
| 7 | 32 × 32 | — | 26.40 | 29 | かわらけ 陶器 石 | 25 | 43 × 46 | 10 × 17 | 26.40 | 39 | かわらけ |
| 8 | <24> × 16 | 10 × 10 | 26.73 | 6 | | 26 | 36 × 27 | 10 × 11 | 26.43 | 30 | かわらけ |
| 9 | 27 × <18> | — | 26.62 | 18 | | 27 | 43 × 35 | 16 × 17 | 26.19 | 53 | かわらけ |
| 10 | 33 × <14> | — | 26.72 | 13 | かわらけ | 28 | 22 × 24 | 12 × 11 | 26.63 | 90 | かわらけ 石 |
| 11 | 22 × 26 | — | 26.61 | 14 | かわらけ 封状金属製品 | 29 | 29 × <14> | 12 × <7> | 26.44 | 29 | |
| 12 | 27 × 28 | 14 × <10> | 26.40 | 30 | かわらけ | 30 | 37 × 37 | 8 × 10 | 26.68 | 12 | |
| 13 | 30 × 33 | 25 × 20 | 26.56 | 18 | | 31 | 47 × 37 | — | 26.48 | 19 | 複丸コンクリート |
| 14 | 40 × 42 | — | 26.48 | 22 | かわらけ | 32 | 67 × 59 | — | 26.53 | 29 | |
| 15 | 51 × 45 | — | 26.23 | 43 | かわらけ | 33 | 35 × 30 | 13 × 15 | 26.51 | 27 | かわらけ 石 |
| 16 | 35 × 40 | 13 × 10 | 26.35 | 40 | かわらけ 陶器 石 | 34 | 44 × 41 | — | 26.14 | 18 | かわらけ |
| 17 | 25 × 25 | 9 × 10 | 26.64 | 18 | かわらけ | 35 | 16 × 35 | 12 × 12 | 26.46 | 19 | |
| 18 | 37 × 46 | 12 × 20 | 26.40 | 32 | かわらけ | 36 | 61 × 48 | — | 26.50 | 15 | 石 |



第2図 調査区全体図

0 1:100 3m

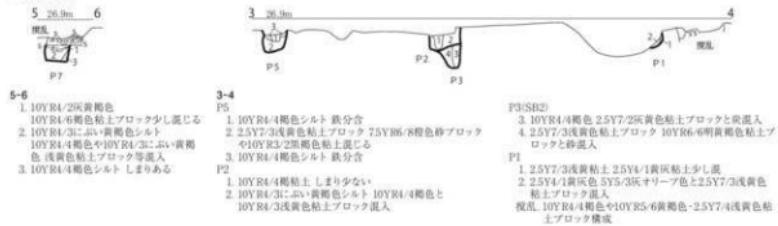
(4) 溝

調査区北側で東西方向に走る溝2条を検出した。

1号溝<位置>調査区北側で検出した。<規模>全長4.6m、幅は16～33cmを測り、深さは6～10cmと浅い。底面標高は西側が26.75m、東側が26.65mを測り、東に傾斜している。<方向>N69～70°Wを測る。<出土遺物>かわらけ片、土壁と思われる細片が少量出土した。<帰属時期>12世紀と判断した。

2号溝<位置・検出状況>北側に調査範囲を拡張した地点で検出した。北拡張1と5では柱穴に、北拡張4では1号土坑に切られている。遺構の重複関係からみて本遺構が検出遺構の中で最も古い遺構である。<規模>全長は12.8m、深さは55～78cmを測る。底面標高は、西側が26.24m、東側が25.97mで西から東に傾斜している。幅は、北側の肩を検出していないため不明であるが、南肩から最低1m以上であることを確認した。<軸方向>N63°Wである。<埋土>明黄褐色～黄褐色粘土を主体としている。ただし、北拡張3では、鈍い黄褐色から灰色の粘土に淡黄から灰白色の粘土ブロックが混じっており、壁も垂直に掘られている状態であった。2号溝とは異なる状態から、この箇所では別の遺構に切られていると思われる。<出土遺物>かわらけ、土師器、鉄製品、鉄滓が出土した。鉄製品は1cm程度のものと5cm大の球状のもので、錫びて製品なのかも不明である。<帰属時期>遺構

1号建物跡



1-2

- P25
1. 10YR5-4に多い黄褐色シルト 10YR6/6明黄色粘土ブロック混入
2. 10YR6/6明黄色粘土ブロック 2.5Y7/3淡黄色粘土と 10YR6/6明黄色粘土
層ブロックなどが混入 10YR4/2暗褐色シルトブロックも混入
- P14
1. 10YR4/3に多い黄褐色粘土 粘分・粘合
2. 2.5Y8/3淡黄色粘土ブロック 2.5Y6/6明黄色と2.5Y7/3淡黄色のブロッ
ク混入

2号建物跡



柱穴

- 7-26.9m 8
7-26.9m 16
P23
7-8
1. 10YR4/3に多い黄褐色粘土 2.5Y7/4淡黄色や
10YR5-6黄褐色粘土ブロック混入 に多い黄
褐色土は上部に入る
- 15-26.8m 16
P17
15-16
1. 10YR4/2灰褐色 2.5Y7/3淡黄色粘土ブロックと2.5Y6/4に
多い黄褐色土ブロック混入 砂合
2. 10YR4/2灰褐色 2.5Y7/3淡黄色粘土ブロックと2.5Y6/4に
多い黄褐色粘土ブロック混入 砂合 砂合

- 9-26.8m 10
P20
9-10
1. 住居跡 10YR5-4に多い黄褐色シルト 粘分合
2. 2.5Y8/3淡黄色粘土や10YR6/6明黄色粘土粘土ブロック混入
3. 10YR4/6黄褐色シルト 粘分合 10YR5-6黄褐色粘土下の方
にはSY8/3淡黄色粘土ブロック混入
- 17-26.8m 18
P29
17-18
1. 10YR4/2灰褐色シルト
10YR6/6明黄色粘土やBY7/2灰白色粘土ブ
ロック混入
2. 1.同じ 面合 砂合の力が若干薄い・合台、



- 11-12
1. 10YR5-1褐色粘土上 10YR5-8黄褐色色等ブロック混入
2. 2.5Y6/6明黄色のブロックで構成
- P19
1. 10YR4/2灰褐色粘土 5Y7/2灰白色粘土や10YR5-8黄
褐色の粘土ブロック混入 砂合
2. 2.5Y7/2灰白色 10YR5-8黄褐色粘土ブロック 砂合

- 17-26.8m 18
P29
17-18
1. 10YR4/2灰褐色シルト
10YR6/6明黄色粘土やBY7/2灰白色粘土ブ
ロック混入
2. 1.同じ 面合 砂合

- 13-26.8m 14
P13
13-14
1. 10YR5-4に多い黄褐色 粘分合 2.5Y7/3淡黃
色粘土ブロック混入
2. 10YR5-4に多い黄褐色シルト 2.5Y7/3淡黃
色粘土ブロック混入
- 19-26.8m 20
P30
19-20
1. 10YR5-2灰褐色粘土 砂少し合 10YR5-6黄褐色粘土上
ブロック混入
2. 10YR5-6黄褐色粘土 一部砂合
3. 10YR5-6黄褐色粘土ブロック 10YR4/6褐色シルトブロ
ック混入

第3図 断面図1

0 1:60 2m

の重複関係及び出土遺物・埋土の状況から12世紀の遺構と判断した。

(5) 出土遺物

今回の調査ではかわらけ、国産陶器、鉄製品、土師器、鉄滓、砥石等が出土した。かわらけは細片が主体で、搅乱や遺構から整理箱で1/2程度出土している。国産陶器は後世の柱穴などの埋め土から出土している。鉄製品は、柱穴から出土した2点は釘と思われるが、他は錫びついたり割れたりで形が不明である。砥石はP2から、他の川原石と共に出土した。

4まとめ

全体的に近現代の搅乱が著しかったものの、北側の敷地境界にある現代の排水路とほぼ同一箇所から2号溝を検出した。2号溝は隣地境界線上に位置するため、全幅の確認ができないものの、12世紀の区画溝の可能性が想定される溝である。12世紀当時の区画が、現在の区画に影響を与えている良い資料になると考えられる。

かわらけが集中するのは3号土坑と1号溝である。東側は搅乱されずに遺構が残っている可能性がある。

表2 出土遺物観察表

かわらけ

| No | 図版 | 写真 | 国版 | 出土位置・層位 | 種類 | 法量(cm) | | | 残存率(%) | 備考 | 登録No |
|----|----|----|----|---------|-------|--------|----|-------|--------|--------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | |
| 1 | — | — | — | 3号土坑 表面 | 手づくね大 | 13.8 | — | 19~24 | 40 | 摩滅が著しい | 72 |

国産陶器

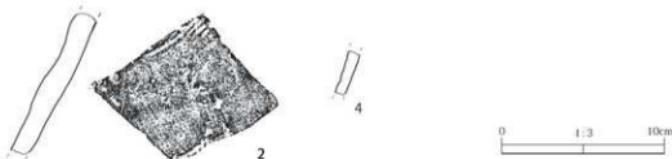
| No | 図版 | 写真 | 国版 | 出土位置・層位 | 種類 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|-----|---------|----|----|----|-----|----|------|
| 2 | 5 | — | P7 | — | 陶瓦 | 瓦 | 側 | 12C | — | 53 |
| 3 | — | — | P16 | — | 常滑 | 壺 | 側 | 12C | — | 34 |
| 4 | 5 | — | P16 | — | 常滑 | 壺 | 側 | 12C | — | 94-1 |

土師器

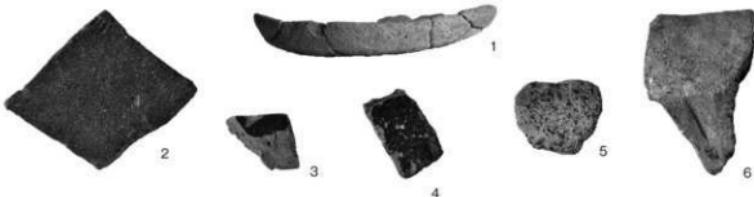
| No | 図版 | 写真 | 国版 | 出土位置・層位 | 種類 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|----|----|----|----|---------|-----|----|----|----|----|------|
| 5 | — | — | — | 2号溝 下層 | 土師器 | 壺 | 側 | 平安 | — | 124 |

石製品

| No | 図版 | 写真 | 国版 | 出土位置・層位 | 種類 | 器種 | 部位 | 年代 | 備考 | 登録No |
|--------|----|----|-------|---------|------|-----|-----|-------|----|------|
| 法量(cm) | | | | | | | | | | |
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 6 | — | — | P2 墓土 | 砥石 | 10.7 | 7.4 | 3.7 | 345.6 | — | 54-8 |



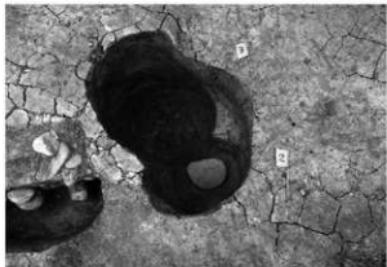
第5図 出土遺物



写真図版1 出土遺物



調査区全景（東から）



P2・P3



P7



P14



P27

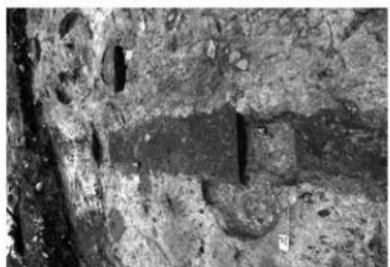
写真図版2 調査区全景・柱穴



北拡張4 1号土坑（西から）



3号土坑（南から）



1号溝（北西から）



3号土坑（西から）



北拡張（南東から）



北拡張5 2号溝（東から）



北拡張2 2号溝（北から）



北拡張1 2号溝（西から）

写真図版3 土坑・溝・北拡張

令和元（平成 31）年度 工事立会調査表

| NO | 遺跡名 | 所在地 | 原 因 | 所 見 |
|----|-------------|----------------------|-----------|-------|
| 1 | 毛越Ⅲ遺跡 | 平泉字大沢地内 | 電話柱支線設置 | 支障無 |
| 2 | 柳之御所跡 | 平泉字柳御所地内 | 電力設置設備 | 陶磁器出土 |
| 3 | 佐野遺跡 | 平泉字佐野80-2 | 住宅建築 | 支障無 |
| 4 | 泉屋遺跡 | 平泉字泉屋35-3 | 通信柱設置 | 支障無 |
| 5 | 三日町Ⅲ遺跡 | 平泉字上野台283-10, 283-12 | 建物建設 | 支障無 |
| 6 | 佐野遺跡 | 平泉字佐野79-2 | 擁壁工事 | 支障無 |
| 7 | 中尊寺境内 | 平泉字衣闌177 | 電話柱の更新・撤去 | 支障無 |
| 8 | 西光寺跡 | 平泉字北沢10番 | 住宅、倉庫建設 | 支障無 |
| 9 | 佐野遺跡 | 平泉字佐野79-2 | 住宅建設 | 支障無 |
| 10 | 祇園Ⅱ遺跡 | 平泉字祇園3-2 | L字擁壁設置 | 支障無 |
| 11 | 中尊寺跡 | 平泉字衣闌地内 (69-1) | 携帯基地局設置 | 支障無 |
| 12 | 泉屋遺跡 | 平泉字泉屋35-3 | 通信柱設置 | 支障無 |
| 13 | 志羅山遺跡 | 平泉字倉町62-2地内 | 電柱新設 | 支障無 |
| 14 | 祇園Ⅱ遺跡 | 平泉字祇園11-8 | 電柱・支線更新 | 支障無 |
| 15 | 佐野遺跡 | 平泉字佐野80-2 | 電話柱設置 | 支障無 |
| 16 | 樋渡遺跡 | 平泉字樋渡45-2地先 | 電話柱支線更新 | 支障無 |
| 17 | 無量光院跡 | 平泉字花立212-6 | 電柱・支線設置 | 支障無 |
| 18 | 無量光院跡 | 平泉字花立211-3 | 電柱支線設置 | 支障無 |
| 19 | 祇園Ⅰ遺跡 | 平泉字祇園地内 | 町道括幅 | 支障無 |
| 20 | 祇園Ⅱ遺跡 | 平泉字祇園地内 | 物置建設 | 支障無 |
| 21 | 旧觀自在王院庭園 | 平泉字花立45番地2 | 電柱支柱設置 | 支障無 |
| 22 | 毛越寺境内 (護摩堂) | 平泉字大沢地内 | 電柱建替 | 支障無 |
| 23 | 衣闌遺跡 | 平泉字花立地内 | 共同溝設置 | 支障無 |
| 24 | 中尊寺境内 | 平泉字衣闌地内 | 支障木伐採 | 支障無 |
| 25 | 花立Ⅱ遺跡 | 平泉字鈴沢94-2 | 駐車場建設 | 支障無 |
| 26 | 鈴沢の池跡 | 平泉字鈴沢94-1 | 駐車場整備 | 支障無 |
| 27 | 中尊寺境内 | 平泉字衣闌66 | 仏堂改修 | 支障無 |
| 28 | 祇園Ⅰ遺跡 | 平泉字祇園152-2 | 町道整備 | 支障無 |
| 29 | 祇園Ⅰ遺跡 | 平泉字祇園地内 | 町道括幅 | 溝1条 |
| 30 | 柳之御所遺跡 | 平泉字柳御所131-1地内 | 電柱更新 | 支障無 |
| 31 | 竜ヶ坂遺跡 | 長島字生江田地内 | 防犯灯設置 | 支障無 |
| 32 | 矢崎Ⅰ遺跡 | 長島字矢崎地内 | 防犯灯設置 | 支障無 |
| 33 | 矢崎Ⅱ遺跡 | 長島字矢崎地内 | 防犯灯設置 | 支障無 |
| 34 | 高館跡 | 平泉字高館地内 | 水道管更新 | 支障無 |
| 35 | 中尊寺境内 | 平泉字衣闌地内 | 危険木伐採 | 支障無 |
| 36 | 柳之御所遺跡 | 平泉字柳御所地内 | 防犯灯撤去 | 支障無 |
| 37 | 金鶯山遺跡 | 平泉字花立地内 | 鳥居撤去 | 支障無 |

*住所は岩手県西磐井郡平泉町までを省略し、平泉・長島字から記載した。

岩手県平泉町文化財調査報告書第138集

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ 遺跡第17・18次 伽羅之御所跡第30次
中尊寺跡第92・94次 無量光院跡第43・44・45次

印 刷 令和3年3月26日
発 行 令和3年3月29日

編集・発行 平泉町教育委員会
〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2
電話 (0191)46-2111㈹ FAX (0191)46-2015

印 刷 コンカツ印刷有限会社
〒021-0021 一関市中央町一丁目7-16
電話 (0191)48-5963